

全 学 共 通 科 目

E. 全学自由科目

F. 情報科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03001	哲学A	選	1～4	2	前期	赤 松 宏
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 先ずフィロソフィアとして始まった西洋哲学の源流を探り、特にプラトンの哲学を中心に概観する。その後東洋の哲学、特に仏教の哲学を概観する。西洋、東洋の代表的な哲学を概観した後、再び哲学とは何かという問題に戻り、随時必要に応じて哲学史にも言及しつつ概論的に講義する。

【講義計画】 1. フィロソフィアとして始まった西洋の哲学が最初はどういう意味をもち、どういう仕方で始まったかについて解説する。
2. 「洞窟の比喩」を中心にプラトンの哲学を解説する。
3. 東洋の哲学の代表として仏教の哲学を紹介し、仏教の歴史及び根本教説について解説する。
4. 先ず四諦説の解説。
5. 十二縁起説の解説、唯識説にも触れる。
6. 再び哲学とは何かという問題に戻り、哲学的問いかけの性格について吟味する。
7. 哲学と科学。
8. 最後に西洋と東洋（日本）の相違について様々な角度から検討する。

【評価方法】 受講状態、レポート及び試験の成績による。

【テキスト】 「お金と暇と健康」赤松宏著、大学教育出版。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03002	哲学A	選	1～4	2	前期	谷 口 佳津宏
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 哲学を初めて学ぶ人のために

【講義内容】 哲学は、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための手がかりとして欠かせない学問です。おそらく誰もが一生に一度は哲学に関心を寄せますが、大学四年間の間に哲学に触れておくことはその後の一生を左右することになるといっても過言ではないでしょう。哲学はすぐに役立つ学問ではありませんが、精神面の血肉となる栄養剤です。激動の21世紀へ向けて、精神を鍛えんとする意欲のある積極的な向学心に燃える若者（年齢制限特になし）の参加を期待します。

【講義計画】 上のような趣旨にもとづき、西洋哲学の根本問題のいくつかについて、かみくだいで紹介していきます。なお、授業を円滑に進めるために、指定席制で行なう予定です。

【評価方法】 出席は毎回とりますが、全回出席の場合でも、それがそのまま成績に反映することはありません。成績評価は期末試験（非論述式）で行ないます。

【テキスト】 使用しません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03011	哲学B	選	1～4	2	後期	赤 松 宏
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「よく生きる」ことを終生のモットーにかかげ、レギーネ・オルセンとの熱烈な恋愛を自らの思想形成の糧にしながら、当時の思想界、マスコミ界、晩年は国教会との対決を試みることによって、「デンマークのソクラテス」たらんとして短い一生を終えたキルケゴールの生涯と思想を振り返りつつ、現代の教育

が見落してきた側面に光を当てたいと思う。

- 【講義計画】
1. キルケゴールの生涯を紹介する。
 2. 彼の思想に入り、思想伝達様式として直接伝達及び間接伝達について解説する。
 3. ギリシャの眞理観とキリスト教的眞理観について論じた「哲学的断片」の解説。
 4. 実存の三段階説、即ち美的実存、倫理の実存、宗教的実存についての解説。
 5. 倫理的なものと宗教的なものの相違について論じた「おそれとおのき」の解説。
 6. 人間の絶望の現象形態を精緻に分析した「死に至る病」の解説。

【評価方法】 受講状態、レポート及び試験の成績による。

【テキスト】 「キルケゴール」 工藤綏夫著、清水書院
「お金と暇と健康」 赤松宏著、大学教育出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03012	哲学B	選	1～4	2	後期	谷口 佳津宏
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 哲学を初めて学ぶ人（と少しかじった人）のために

【講義内容】 哲学は、どんな学問でも必ずそのそばにひっそりと寄りそっています。言いかえれば、どんな学問でも、その基礎を探っていけば必ず哲学の問題につきあたります。本講義では、哲学のもつそうした普遍的な性格を、いくつかの具体的な問題をてがかりにして、お話していきます。

【講義計画】 上記参照。なお、教育上の配慮から、授業は指定席制で行なう予定です。

【評価方法】 原則として期末試験の成績に基づいて行ないます。

【テキスト】 特に使用しません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03021	文学A	選	1～4	2	前期	細 谷 博
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 小説の読み方——夏目漱石『明暗』読解

【講義内容】 『明暗』は、漱石最後の未完の長編である。そこには、われわれの周囲につながる身近な世界が描かれ、どこにでもいるような人間たちがあらわれ、さまざまな駆け引きや愚行をくり返す。なぜそれが、今日なお多くの読者を引きつけてやまないのか。
これまで重いイメージにとりまかれてきた『明暗』を、何よりよくできた面白い小説として読み直してみよう。小説を読むとはこういうことなのか、とたしかに考えることをめざす。
受験勉強に追われ、またつききかけがなくて小説などほとんど読んだことがなくとも、この機会にじっくりと本を読み考えようと思う者は、歓迎。

【評価計画】 できるだけわかりやすく、冒頭から順を追って、具体的に作品本文を読み解いていく。重要な箇所を随時ページ数で指摘するので、テキストは必ず指定のものを用意すること。

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 夏目漱石『明暗』新潮文庫

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03031	文学B	選	1～4	2	後期	細 谷 博
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 小説の読み方——谷崎潤一郎『細雪』読解

【講義内容】 『細雪』は、三女・雪子の見合い話を軸に、四女・妙子の恋愛事件をはさんで、二女・幸子と婿である貞之助の夫婦がそれら妹たちの問題をかかえつつ、いかに蒔岡分家のゆたかな生活をまもっていくか、その具体的かつ心理的過程のあれこれを興味深く描いている。
ありふれた凡人な人間たちの生の持続の感触をあらわしたすぐれた表現として谷崎の大作を読んでみよう。小説読むとはこんなことだったのか、とたしかにわかるように講義をしたい。
受験勉強に追われ、またつききかけがなくて小説などほとんど読んだことがなくとも、この機会にじっくりと本を読み考えようと思う者は、歓迎。

【講義計画】 できるだけわかりやすく、冒頭から順を追って、具体的に作品本文を読み解いていく。重要な箇所を随時ページ数で指摘するので、テキストは必ず指定のものを用意すること。

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 谷崎潤一郎『細雪』中公文庫

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03041 03051	考古学A・B	選	1～4	各2	前期 後期	大塚 達朗
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 考古学発達史

【講義内容】 この講義では、考古学がこれまでどのようなことをどのような姿勢と手続きで明らかにしてきたのか、その体系性と実証性を検討したい。そして、考古学がわれわれの社会や生活とどのように関わっているのか、その現代的意義を受講者とともに考えたい。つまり、「考古学とは何か」という問いと、「考古学の可能性」という課題に答えたい。なお、できる限り質疑応答の機会を持ちたい。

【講義計画】 前期 考古学における固有な原理と特有な方法の由来を概説して、「遺跡学」や「遺物学」ととどまらない広いスタンスをもつこの学問の性格を考える。なお、日本の考古学、アジア諸国の考古学、欧米の考古学等を必要に応じ比較検討しながら講義を進めたい。
後期 考古学の現状を概観する上で、①目まぐるしく変動する学問的潮流の問題、②大規模発掘調査の問題、③ジャーナリズムが作る考古学ブームの問題等を点検しながら、考古学が果たす社会的役割を展望したい。

【評価方法】 出席態度と学期末に課すレポートないしは筆記試験とを総合して判断する

【テキスト】 必要に応じプリントを配布するとともに、適宜読んでほしい文献を指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03061 03062	日本史A	選	1～4	各2	前期	新井 喜久夫
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 「邪馬台国研究史」

【講義内容】 3世紀頃、日本列島上に邪馬台国が存在したことは「魏志」倭人伝によって古くから知られていた。その所在地については、畿内大和説・九州説をはじめ多くの異説があり、いまなお、決着をみていない。この講義では時代を追って邪馬台国論がどのように展開されたかを紹介することにする。

【講義計画】 ①江戸前期までの邪馬台国説。
②新井白石と本居宣長の学説。その他の説。
③明治以降の研究の発展。
④戦後の研究 a文献研究 b考古学的研究 cその他の研究。

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03063 03073	日本史A・B	選	1～4	各2	前期 後期	青山 幹哉
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 前期 海と河川から見る東海地域
後期 列島を移動する中世の人々

【講義内容】 前期：
つい最近まで河海は、険しい山々を越える陸路より大量の人と物資をすみやかに輸送する交通路であり、同時にさまざまな異界へ開かれたルートであった。この講義では、海と河川からの視座に立ち、伊勢湾を中心とした地域（水域）における人々の動向から、日本中世社会の変貌を見ることにする。
後期：
日本史Aに引き続き、静止的な日本中世社会像ではなく、多くの人々と大量の物資が海に陸に列島諸国を駆けめぐった、躍動的な中世社会の諸相を考察するため、御家人・御内人といった武士から神仏へ仕える供御人等、職能民・芸能民・流通業者たちの活動を追跡し、東海地域と東国・西国との連関を考察する。なお、日本史Aの受講生のみ受講可とするので、二単位のみ必要な者は日本史Aで取得するように。

【講義計画】 前期：
①海の時代と陸の時代
②伊勢平氏と美濃源氏
③荘園ネットワークの形成
④熱田社の中央戦略
⑤熊野水軍と補陀落渡海
⑥日本の墓地高野山
⑦常滑焼の流通
⑧鎌倉街道の旅
⑨中世都市津島

後期：
①奥羽・蝦夷の世界
②板東の海と品川港
③神人・供御人と悪党
④一遍と遊行僧
⑤北条氏の廻国伝説
⑥「兵庫北関入船納帳」
⑦船を家とする民
⑧瀬戸内海の家賊衆
⑨北九州から東シナ海へ

【評価方法】 学期末における筆記試験および随時に課す小レポートにより評価。

【テキスト】 特に指定しないが、参考文献として以下の書を挙げておく。
森浩一他『海と列島文化8 伊勢と熊野の海』小学館、1992年
網野善彦・石井進編『中世の風景を読む』全7巻 新人物往来社、1995年
その他、授業の中で適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03071 03072	日本史B	選	1～4	各2	後期	新井 喜久夫
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 「律令国家の成立」

【講義内容】 本格的な日本の古代国家は律令国家という形をとって成立する。この国家体制は壬申の乱をへて本格化し、奈良初期に完成するが、その成立過程を、大化の改新前後からあとづけて行くこととする。

【講義計画】 ①大化改新
②朝鮮出兵とその後の動き
③壬申の乱
④皇親政治
⑤公民化政策の完成
⑥藤原京
⑦大宝律令

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03081	東洋史A	選	1～4	2	前期	西江 清高
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 中国における古代史学の発展

【講義内容】 中国最古の体系的歴史書『史記』は、単に文献的記録を整理して書かれたものではなかった。著者司馬遷が前漢時代の各地を歩いて見聞した内容がその重要な基礎となっている。その後も、中国では各地にのこる記念物や出土遺物に対する関心が高く、やがて金石学という学問的伝統が生まれた。今世紀のはじめ、西欧から導入された考古学は、その金石学と出会い、そこからやがて中国独自の特徴をもつ古代研究が生まれる。本講義は、「伝統」と「近代」の間で揺れ動いた中国古代史学の軌跡を追いつつ、中国人による中国認識の変遷を考える。

【講義計画】 I 金石学の発展
II 金石学と考古学
III 初期王朝の探索
IV 新石器時代の研究と中国文明論

【評価方法】 学期末に試験を実施する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03091	東洋史B	選	1～4	2	後期	西江 清高
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 「中国」的世界の形成

【講義内容】 「多元的な文化の緩やかな統合」、これが今日の中国史研究が到達したシンプルな「中国」世界像では

ないだろうか。この認識が定着するにあたっては、じつは考古学の研究が照らし出した新しい中国古代史像が大きな刺激となっていた。この講義では、近年の考古学研究が掘り起こしてきた中国大陸各地の多様な地域文化の様態について、地理的生態的視点を交えて解説していく。

- 【講義計画】
- I 「中国」的世界の広がり
 - II 「中国」的世界をまとめる「中原」
 - III 初期農耕文化の北と南
 - IV 初期王朝とは何であったのか
 - V 秦漢帝国の登場と中華の統合

【評価方法】 学期末に試験を実施する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03111 03112	西洋史A	選	1～4	各2	前期	岡 地 稔
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 古代から中世へ

【講義内容】 民族の枠組みをこえて理念上すべての世界を包摂したローマ帝国から、ゲルマン部族の諸王国よりなる個別世界への変化というダイナミズムの中で、時代は古代から中世へと移ります。本講ではこのダイナミズムの真っ只中にあったある都市を中心にして、その都市ゆかりの人々の事蹟、彼らの残した文化遺産などを軸に、古代から中世への移行期の歴史と文化を見ていきたいと思います。西ローマ帝国の「首都」であり、476年オドアケルによる最後の西ローマ皇帝の追放や、東ゴート族のテオドリックによるオドアケル殺害の舞台であり、東ゴート王国の「首都」でもあったその都市。さらにユスティニアヌス帝の「再征服」後は東ローマの総督府が置かれた都市。それはしかし、都市ローマではありません。では、どこでしょう？

- 【講義計画】
- ①ローマ末期の政治と文化
 - ②補説 初期キリスト教美術（1）ガラ＝プラキディア廟
 - ③西ローマ帝国の滅亡と東ゴート王国
 - ④補説 初期キリスト教美術（2）サン・アポリナレ・ヌオーヴォ寺院
テオドリック廟
 - ⑤ユスティニアヌスの再征服
 - ⑥補説 初期キリスト教美術（3）サン＝ヴィターレ寺院
サン・アポリナレ・イン・クラッセ寺院
 - ⑦ランゴバルトの征服、ピピンの寄進、そして結び

【評価方法】 試験

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03121 03122	西洋史B	選	1～4	各2	後期	岡 地 稔
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 メロヴィング朝フランク王国の歴史

【講義内容】 西欧世界の原点といわれるフランク王国の歴史、とくにその前半の時代であるメロヴィング朝の歴史は、どこか叙事詩的で、よい意味でも悪い意味でも異彩を放つ人物が少なくありません。クローヴィスの部族統合によるメロヴィング朝の成立から、カロリング家の宮宰ピピンの篡奪による同王朝の終焉にいたるまでの歴史を、そこで活躍した人々を中心にたどっていこうと思います。

- 【講義計画】 ①統一者クローヴィス
②王妃の争い——フレデゲンデとブルンヒルデ
③メロヴィング家の王たち
④カロリング家の始祖たち
⑤カール・マルテルの独裁政権
⑥補説 カール・マルテルの「封建軍」
⑦ビビンの篡奪

【評価方法】 試験

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03131	美術A	選	1～4	2	前期	石 黒 淳
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 インドに始まり中国、東南アジア、日本といったアジア諸国で花開いた仏教美術について、スライドを使用しながら講義します。

仏教美術は西紀前5～6世紀頃インド東北部に生まれた釈尊が説いた仏教を背景にした宗教美術です。仏教美術を理解するために仏教についての基礎知識と仏教に大きな影響を与えたバラモン教と呼ばれる宗教について講義します。また仏教やバラモン教を生んだインドやインド周辺国（パキスタン、ネパール、スリランカ）の風土についても講義します。

- 【講義計画】 ①仏教美術概説
②仏教以前のインドの宗教と宗教美術
③Ⅰ 仏教の創始者釈尊の生涯①
④Ⅱ “ ” ②
⑤仏教の創始者釈尊の生涯の美術（仏伝図）
⑥Ⅰ 釈尊の前生物語①
⑦Ⅱ “ ” ②
⑧釈尊の前生物語の美術（本生図）
⑨Ⅰ 仏像の誕生・ガンダーラ美術
⑩全体のまとめ
以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 筆記試験で評価する。出席を重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03132	美術A	選	1～4	2	前期	池 田 洋子
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本古代美術史

【講義内容】 日本に於ける造形意識は、長期間の縄文時代の間に培われ育まれていった。やがて来たる先進地域からの高度文化も、同一レベルにまで素早く高めていく礎ともなった。同一水準に近い造形性にまで高めながらもやがて、それらの外来美術は、日本独自の造形へと変容させられていく。

日本の古代では、中国に於いて発達した仏教美術が、彫刻・絵画とも流入してきた。それらの写実に基づく古典様式への展開の道筋が日本国内でも再生されて、続いて日本化（和様化）された平安末の日本の和様美術が結実していった。この間の道程について時代を区切って、代表的作品を通して論じていく。

- 【講義計画】 1. 日本の美術全体の包括的な流れについて
2. 縄文土器にみられる造形性
3. 飛鳥美術
4. 白鳳美術

5. 天平美術
6. 平安前期美術
7. 平安後期美術

【評価方法】 筆記試験又はレポート。

【テキスト】 カラー版『日本美術史』監修辻惟雄 美術出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03141	美術B	選	1～4	2	後期	石 黒 淳
他の科目との関連	美術A（石黒）			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 美術A（石黒）の講義につづき、インドの古代初期仏教美術について講義します。インドの仏教美術は西紀前1～2世紀頃から運営された仏塔（ストゥーパ）の欄楯飾浮彫りから本格的に開始されます。カルクタ・インド博物館が所蔵するパールフトのストゥーパの欄楯遺品やサーンチャーに現存するストゥーパの欄楯の塔門遺跡などに表現された仏伝図や本生図及び動植物の装飾浮彫りなどについて主題の表現の特色など細部にわたり講義します。

【講義計画】

- ①インドの古代初期仏教美術の概説
- ②パールフトの欄楯に表された仏教美術
- ③パールフトの欄楯性の男神、女神像
- ④パールフトの欄楯性の仏伝図・本生図
- ⑤パールフトの欄楯貫石の装飾浮彫り
- ⑥パールフトの欄楯笠石の装飾浮彫り
- ⑦サーンチャーの遺蹟について
- ⑧サーンチャーの塔門浮彫り・東門、南門
- ⑨サーンチャーの塔門浮彫り・西門、北門
- ⑩全体のまとめ

以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 出席を重視し、筆記試験で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03142	美術B	選	1～4	2	後期	池 田 洋子
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本に於ける水墨画 受容の展開

【講義内容】 日本で和様文化の華やかな平安時代に、中国ではすでに新たなメディアを使った絵画が制作され出していた。モノクロームの墨と筆だけによる絵画は、書に近いこともあって、色彩絵画以上の価値を与えられていた。また、このモノクローム絵画は中国では、複数の環境の中で生まれてきていた。日本へ紹介された道も1つではなかった。しかし、日本からのコンタクトはまずそのうちの1つの宗教と結び付いた処から始まった。やがてそれは、日本国内の社会状況の変化に伴い幅広いコンタクトが可能になり、更に異なる受容層の種々の要求に答えるものへと変質していった。この過程について代表的作家の作品を通して論じていく。

【講義計画】

1. 中国に於る水墨画と画家
2. 日本の12世紀の水墨画受容の様相
3. 日本の13世紀の水墨画受容の様相
4. 日本の14世紀の水墨画界の様相
5. 日本15世紀水墨画の様相
6. 日本16世紀の水墨画の受容と変化
7. 日本17世紀の日本の水墨画の状況

【評価方法】 筆記試験又はレポート。

【テキスト】 カラー版『日本美術史』監修辻惟雄 美術出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03151	音楽A	選	1～4	2	前期	田辺 正彦
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 バロック音楽からクラシック音楽へ

【講義内容】 クラシック音楽（音楽史上の古典派を指すのではなく一般的概念として）への興味は、オペラ・オーケストラ等最近とみに高まっているが、ここでは音楽史上主要な作曲家の代表的作品について鑑賞し、その時代的様式や作品の美しさを理解し、考察する。

【講義計画】 バロック音楽の主要作曲家（ヴィヴァルディ・バッハ・ヘンデル等）から、クラシック音楽の主要作曲家（ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等）の作品を紹介し、その主要なものを鑑賞しながら講義を進めて行きたい。

【評価方法】 鑑賞した音楽作品について感じた事や内容についてのレポート。音楽鑑賞時の態度や出席を重視する。座席は指定制にする。

【テキスト】 門馬直美「西洋音楽史概説」（春秋社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03152	音楽A	選	1～4	2	前期	W. Dunphy
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 キリスト教音楽

【講義内容】 一概に「キリスト教音楽」といっても、ミサ曲、オラトリオなどいくつもの種類があるが、ここでは特にミサ曲についてその構成を説明し、さまざまな作曲家による作品を紹介する。

【講義計画】 講義を進めつつ、紹介された曲を実際に鑑賞する。

【評価方法】 出欠、レポートおよび期末試験により評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03161	音楽B	選	1～4	2	後期	田辺 正彦
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 ロマン派音楽から近代音楽へ

【講義内容】 クラシック音楽（音楽史上の古典派を指すのではなく一般的概念として）への興味は、オペラ・オーケストラ等最近とみに高まっているが、ここでは音楽史上主要な作曲家の代表的作品について鑑賞し、その時代的様式や作品の美しさを理解し、考察する。

【講義計画】 ロマン派音楽の主要な作曲家（シューベルト・ウェーバー・メンデルスゾーン・ショパン・シューマン・ブラームス等）から近代音楽の主要作曲家の作品を紹介し、その主要なものを鑑賞しながら講義を進

めて行きたい。

【評価方法】 鑑賞した音楽作品について感じた事や内容についてのレポート。音楽鑑賞時の態度や出席を重視する。座席は指定制にする。

【テキスト】 門馬直美「西洋音楽史概説」(春秋社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03162	音楽B	選	1～4	2	後期	W. Dunphy
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 宗教音楽とその歴史

【講義内容】 ベートーベン、ブラームス、ホルスト、ブリテン、バーバーなどの宗教音楽を紹介し、それぞれの作品の成立に影響を及ぼした時代状況について学ぶ。

【講義計画】 講義を進めつつ、紹介された曲を実際に鑑賞する。

【評価方法】 出欠、レポートおよび期末試験により評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03171	法学A	選	1～4	2	前期	山 田 秀
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 法学入門

【講義内容】 この「法学A」は、文化現象の中における法の意義を主として扱う「法学B」と異なり、法の社会規範性の諸問題、法規範の特色と構造、法源の諸形態、法の適用と解釈といった諸問題を、事例及び判例を織り込みながら考察していく。

【講義計画】 以下の事項を取り上げる。
 I. 法の社会規範性
 i) 法の定義 ii) 法と習俗 iii) 法と道徳
 II. 法規範の特色と構造
 i) 法と強制力(自然債務、国際法の問題) ii) 社会統合作用における法の役割 iii) 法規範の構造
 III. 法源の諸形態
 i) 法の分類一般 ii) 制定法 iii) 慣習法(物的担保制度の問題) iv) 判例法(先例拘束性の原則、判例変更) v) 条理(事物の本性)
 IV. 法の適用と解釈
 i) 法の適用と裁判 ii) 法解釈の意義 iii) 法解釈の方法(文理解釈、体系解釈、目的論的解釈、その他)

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 五十嵐『法学入門』(一粒社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03181	法学B	選	1～4	2	後期	山 田 秀
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 文化現象としての法

【講義内容】 法と呼ばれるものが文化現象の中で占める位置、有する意義についての理解を促し、法学への入門とする。

【講義計画】 以下の順序に講義を進める予定。

- I. 文化における法の位置
 1. 「文化」とは何か
 2. 文化の一部としての法：法領域と他の文化領域との関連
- II. 社会統合における法の位置
 1. ヒトから人間へ：直立二足歩行と言語並びに抽象能力
 2. 社会統合（1）：社会化と「良心」
 3. 社会統合（2）：社会化と言語
 4. 社会統合（3）：社会化と社会統制
 5. 社会統合（4）：社会統制と言語
 6. 社会統合（5）：社会契約論
- III. 法発展史
 1. 万民法（*ius gentium*）の発展
 2. 国際法の誕生
 3. 近代法の登場及び立憲主義思想
 4. 近代法の変容：（1）近代法原則の修正、（2）自由国家から社会国家へ、（3）社会法の成立
 5. 現代法の課題
- IV. 法、政治、教育、倫理：その担い手と存在意義

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 教科書は指定しない。主な参考文献は以下の通り。

- I. クライド・タラックホーン『人間のための鏡』（サイマル出版会）
祖父江孝男『文化人類学入門』（中公新書）
碧海純一『法と社会』（中公新書）
- II. 江原昭善『人類の起源と進化』（裳華房）
河合雅雄『サルからヒトへの物語』（小学館ライブラリー）
碧海純一『新版法哲学概論 全訂第二版』（弘文堂）
安田ほか編『基礎社会学 第I巻社会的行為』（東洋経済新報社）
- III. 田畑茂二郎『国際法』（岩波全書）
ヨハネス・メスナー『自然法』（創文社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03182	法学C	選	1～4	2	後期	栗 本 雅 和
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「法学」に関する講義であるが、きわめて広範囲の内容のものを、半年間で教え伝えることは、不可能である。

したがって、1回の講義ごとに、数個の具体的事例・判例を示しつつ、そこに含まれる問題点とその解決策を受講生諸君とともに、考えていくやりかたで、法学の何たるかを理解していただくこととしたい。

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 使用予定であるが、具体的には、開講前に指示する。
六法用意のこと。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03191 〃 03193	日本国憲法	選	1～4	各2	前期 後期	小 林 武
他の科目 との関連	教職単位取得のための必修科目			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 「日本国憲法を実際の事例をととして生きた姿において学ぶ」

【講義内容】 憲法とは何か、また憲法は私たちの現実の生活の中でどのような働らきをしているかを知るため、日本国憲法について、その成り立ちと歴史、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組みについて述べます。特に、基本的人権について詳しく話す予定です。

講義は常に、現在進行中の具体的な憲法問題をとりあげて、わかりやすいものにしたいと思います。

受講生諸君が、日常生活する憲法問題・法律問題や広く政治・社会の事象に関心をもって出席するよう期待します。

【講義計画】 ほほ、次のような項目に即して講義をすすめます。

1. 憲法とは何か
2. 近代憲法と現代憲法
3. 明治憲法と日本国憲法
4. 国民主権と象徴天皇制
5. 平和主義
6. 人権の意義とその保障
7. 平等と自由
8. 社会権
9. 選挙・国会・内閣
10. 裁判と違憲審査
11. 地方自治の保障

【評価方法】 主としてテストで評価します。

【テキスト】 小林武『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院）。受講に不可欠であり、必ず入手して下さい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03201	政治学A	選	1～4	2	前期	吉 田 達 志
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 冷戦の本質とその歴史

【講義内容】 冷戦後の世界における日本の位置と役割を理解させる目的のために、米ソの対立を軸とする冷戦の本質と歴史について、①冷戦の起源、②冷戦の展開、③冷戦の終結の順序に従って講義する。

【講義計画】 ①政治の本質（ホッブズの理論を中心に）
 ②ソ連による東欧の共産化と西側の対応
 ③ベルリン封鎖と朝鮮戦争
 ④ソ連の平和攻勢とグレス外交
 ⑤核の時代とキューバ危機
 ⑥国際政治の多極化
 ⑦米ソの核対決
 ⑧日本の安全保障と国際貢献

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 使用せず。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03211	政治学B	選	1～4	2	後期	吉田 達志		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【副 題】 現代日本の政治問題

【講義内容】 現代日本社会が直面する政治問題について、それを日本近代の歴史と文化の中に位置づけて講義する。特に憲法をめぐる問題は、現代日本社会の問題性を解明するための鍵になる点を考慮しながら論を行う。

【講義計画】 ①国際化の時代の日本文化
②大日本帝国憲法の成立過程と特徴
③日米戦争
④日本国憲法の成立過程
⑤国民主権と天皇
⑥第9条と日本の防衛
⑦政教分離と信教の自由
⑧三権分立制の変容
⑨民主主義の陥穽
⑩日本近代の文学的考察

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 吉田達志著『文学空間の中の日本近代』（高文堂出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03212	政治学B	選	1～4	2	後期	田中 恭子		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【副 題】 現代中国政治

【講義内容】 この講義の目的は、中華人民共和国の政治の概要を理解させることにある。中国は、国際政治に大きな影響力をもつ大国であり、わが国にとっては隣国であるから、中国政治を知ることが重要である。しかし、中国政治はわかりにくい。中国の社会主義体制は、日本や西欧の政治体制とは違うし、また、古い伝統からくる、中国独特の価値観や政治スタイルが存在するからである。社会主義と伝統の二つの要因を軸に、建国以来の中国政治を概述し、分析する。

【講義計画】 1. 毛沢東と中国革命——ナショナリズムと共産党
2. 中華人民共和国の成立——党・政府・軍
3. 穏歩と急進の循環モデル
4. 文化大革命から「改革・開放」へ
5. 民主化運動と天安門事件
6. 「中国の特色をもった社会主義」

【評価方法】 学期末の定期試験

【テキスト】 教科書 毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、1993年。
参考書 天児慧『現代中国——移行期の政治社会』東京大学出版会、1998年。
毛里和子編『毛沢東時代の中国』日本国際問題研究所、1990年。
岡部達味・毛里和子編『改革・開放時代の中国』日本国際問題研究所、1991年。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03221 03231	文化人類学 A・B	選	1～4	各2	前期 後期	川田 牧人
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 Think Differentの作法

【講義内容】 知の「へり」をひろげるために

文化人類学とは、研究対象の異質さをばねとして、自らの思考方法そのものの「へり」をひろげる営みである。慣れきった日常を慣れきったやり方で捉える思考を捨て、別のものの見方をしよう、異質なものを理解するやり方を身につけよう、そうすることによって今よりちょっとへりのひろがった人になろうということである。したがって人類学は、対象自体においてもそれに対する思考法においても、それまで慣れ親しんだやり方に拘泥することなく、常に新奇で未知な道筋をたどる。人類学は決して安楽な学問ではなく、またその試みは決して脚光を浴びることなくむしろマイナーに進められる営為であるが故に、世間からもてはやされるといった意味での見返りは少ない。しかし、発想と思考において自由になりたいとか、真に創造的な生き方をしたいとか、世界を変えたいといった、止むに止まれぬ思いを断ちきれないならば、ぜひこのクールでストイックな大人の学問を学んでみるべきである。きつとぬくぬくとした惰性から自らを解き放ち、知的に成熟した自分を再発見するはずだ。

【講義計画】 前期は主に、「文化」という概念について人類学がいかなる思考を展開させてきたかについて、また人類学の主要な方法論であるフィールドワークについて講述する。

後期は、エスノグラフィの概要を、「社会と環境」「秩序と政治」「祭祀と儀礼」「知識と信仰」などのトピックをとりあげながら講述する。

【評価方法】 定期試験を実施する。レポートや小テストを課す場合もある。

【テキスト】 講義初回に指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03241 03242	社会学B	選	1～4	各2	前期	阪本 俊生
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代化と社会学理論

【講義内容】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を見てゆく。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。

【講義計画】 講義する具体的な内容はほぼ次の通り。ただし、順不同。

社会学的問題意識の誕生について

自殺と社会：デュルケムの『自殺論』

近代化と社会の可視化の試み

社会学的実証主義

宗教と近代化：ウェバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』にみる近代の物語

ナチズム：フロムの『自由からの逃走』が見ようとした近代化とナチズムとの関連

権威主義的パーソナリティ

個人主義と私秘化：エリアスの諸著作から私秘化と個人主義批判

他者志向型：リースマンの『孤独な群衆』とセネットによるその批判

ポストモダン社会における社会関係とナルシズムの問題

近代化と欲望：ジラールの『欲望の現象学』にみる近代人の欲望と人間関係

近代化と嫉妬、羨望と鎮めの問題

近代社会と経済：K. ポランニーとデュビュイとデュムシエルの経済人類学

都市と社会：ジンメルからゴフマン、ロフランドに至るミクロ都市社会学と近代化の問題

【評価方法】 学期末に記述式の試験を行なう。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03251 03252	社会学A	選	1～4	各2	後期	森下 伸也
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 逆説思考の社会学

【講義内容】 社会学の真骨頂は鋭くスイングする逆説思考の快感にある。逆説思考の意義を論じたあと、理論社会学の概念や学説に素材を得ながら、逆説思考のテクニックを種々伝授し、それを日常生活に生かす知恵を説きあかす。

【講義計画】

0. 社会学とは何か
1. 社会決定論とは？
2. 逆説思考の意義
3. 予言の自己成就
4. ミクロ・マクロ問題
5. 潜在的機能の概念
6. 逆説としての近代

【評価方法】 筆記試験を学年末に行い、その得点によって成績を評価する。

【テキスト】 森下・宮本・君塚『パラドックスの社会学』（新曜社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03261 03262	経済学A・B	選	1～4	各2	前期 後期	加藤 尚史
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済は市場と政府からなっている。この講義では、経済学においてそれらがどのように扱われるかを概説する。

【講義計画】 前期と後期で市場と政府をそれぞれ取り上げることにしたい。後期の授業は前期のそれを前提として行われる。

【評価方法】 原則として定期試験の成績に基づき評価する。

【テキスト】 特に指定することはしない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03271	数学A	選	1～4	2	前期	春藤 修二
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 「数とは何か」

【講義内容】 諸君は高校までに実に多くの数学的知識を学んでいる。しかしたとえば有理数とはどのような数であるか適確に答えられない人が多い（考えてみて下さい）。よく知っている対象（数・図形）を用いて、それらについて“考える”ことを講義の目標としたい。従って数学の好き嫌い、予備知識などは全く問わないので、これ迄受けてきた数学教育のまとめとして受講を勧めたい。但し考えることを忘れないでほしいと思います。

【講義計画】 上記の目標に向けて、次の項目に従って授業を進める。

- Ⅰ．数について
 ①数のイメージ
 ②数体系の拡大
 ③有理数・実数
 ④数とは何か——ゼノンのパラドクスをめぐる
 Ⅱ．図形について——ユークリッド「原論」第一巻をたどる。
 Ⅲ．現代数学の観点から

特に前半部分は経済学部、経営学部で必修数学科目を履修する諸君にも有用と思われる。数学が嫌いな諸君は併行して履修することが望ましいと担当者は考えます。

- 【評価方法】 ・定期試験を行う。
 ・広い意味での数学書を一冊読み、感想をレポートとして提出することを恒例としてきました。本年度も続けたいと考えています。

- 【テキスト】 特になし。吉田洋一「零の発見」（岩波新書）を参考に用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03281	数学B	選	1～4	2	後期	春藤 修二
他の科目との関連	数学Aを履修していることが望ましいが必須ではない。			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 「数学とは何か」

- 【講義内容】 「数学A」では数学が担う対象として数と図形を取り上げた。本講では数学の営みを、大まかに数学史の流れを追う中で考える。今日の数学教育がよってきた由来についてもふれたい。

- 【講義計画】 数学の歴史の中で最も大きな転回点となったと思われる次の3項目をたどる。
 Ⅰ．ギリシャ数学——紀元前3世紀を中心に
 Ⅱ．微分積分学の誕生——17・18世紀の数学
 Ⅲ．現代数学の成立——集合論と現代数学
 最後に数学と数学教育について議論したいと思います。
 ・数学的知識は全く前提としていません。しかし全くのお話に終わらぬよう具体的問題を取り入れる工夫はしたいと考えています。
 ・情報管理学科生で将来「数学」の教員免許状取得を希望する諸君には履修を勧めます。

- 【評価方法】 基本的には定期試験の結果による。

- 【テキスト】 特になし。吉田洋一・赤根也「数学序説」（培風館）を参考に用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03291	物理学A	選	1～4	2	前期	柏村 昌平
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 光と粒子の物理学

- 【講義内容】 光（可視光）の光線、光速、干渉と回折などの現象の説明から、電磁波の性質を説明する。次に、物体の運動に関する多くの法則の中の基本的な法則を説明する。

- 【講義計画】 ほぼ次のテーマの順に講義する。
 光の物理学の授業内容
 (1)光線 (2)光の速さ (3)光の波動性 (4)光の干渉と回折 (5)光の二重性 (6)相対性原理
 粒子の物理学の授業内容
 (1)力と力のモーメント (2)運動と運動量 (3)運動の法則 (4)仕事とエネルギー (5)剛体の運動 (6)電子の二重性

板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校程度の数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）

【テキスト】 光と粒子の物理学（教材用パンフレット）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03301	物理学B	選	1～4	2	後期	柏村 昌平
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 電磁気現象と物質の物理学

【講義内容】 静電誘導や磁石や電流回路を例に電流や電磁気現象を説明し、電磁波を解説する。
次に、熱現象、物質の構造、原子の内部の構造、原子核と放射線（放射能）、原子核反応（原子力）など目に見えない原子や電子の表わす物理現象を説明する。

【講義計画】 ほぼ次のテーマの順に講義する。
電磁気の物理学の授業内容
（1）電荷と電場 （2）電流と磁場 （3）電流と磁場と電場 （4）電磁波
物質の性質の物理学
（1）温度と相変化 （2）熱と仕事 （3）エネルギー問題 （4）原子とスペクトル （5）放射線
（6）原子核反応と原子力
板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校程度の数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）

【テキスト】 電磁気現象と物質の物理学（教材用パンフレット：予定）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03311 03312	生命自然史	選	1～4	各2	前期 後期	江田 信豊
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 40 億年の昔、私たちの地球に生命が誕生しました。地球が金星や火星とは違う運命をたどろうとしていた時期です。そこに誕生した最初の生命体とはどのようなものであったのでしょうか。近年オーストラリアやアメリカを中心として 30 億年以上昔の生物化石についての研究が進んでおり、生命誕生のシナリオが説き明かされようとしています。また、20 億年前には地球上にはじめて性（オス・メス）の区別のある生物が出現しました。

一方脊推動物 6 億年の歴史にもいろいろな新事実が明らかにされてきています。最初の魚類はどのような形態をしていたのでしょうか？ 魚類から両生類への進化により動物は陸上へと進出しました。魚類から両生類への陸上の進出、つまり海から陸への生活圏の拡大は同時に乾燥への適応の挑戦の歴史でもありました。その後動物たちは乾燥した陸上のありとあらゆる場所で生活できるように進化しました（適応放散）。この急激な繁栄の後、恐竜たちは 6500 万年前に突然姿を消しました。このような問題に近年大胆な仮説が立てられてきています。人類は恐竜のように絶滅してしまうのでしょうか？ 人類はいったいどんな動物なのでしょう。恐竜の繁栄と絶滅のシナリオから人類のたどってきた進化の道筋とこれからが浮き彫りになります。

【講義計画】 1. 生命の起源
2. 太陽系の惑星地球の起源
3. 地球の大気と海洋の起源
アミノ酸からタンパク質→RNAからDNAへ
4. 地球の大気と海洋の起源
ラン藻類の出現がもたらした地球環境への影響

5. 性の出現と有性生殖の意義
6. 魚類の出現とその進化
7. 海から陸への進出
8. ジュラシックワールド
恐竜の作り方教えます！
9. 恐竜の絶滅
10. 哺乳類の進化
11. 人類の人類たるゆえん
12. オスとメスの生活戦略

【評価方法】 レポート

【テキスト】 中村運『水の生物学』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03321 03322	生命科学	選	1～4	各2	前期 後期	江 本 純
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全 履 修	不可

【講義内容】 「クローン動物」をご存知でしょう。1997年2月、イギリスのロスリン研究所で羊の体細胞から「同じ遺伝子をもった動物」であるクローン羊ドリーが誕生しました。「同じ遺伝子を持つ」ということはどうゆうことだと考えますか。私たちの体は母親と父親から受け継いだ遺伝子という、いわば設計図によって作られています。つまりは設計図であるDNAがあれば、生物体を作り出すこともできるわけです。ドリーの場合は一個の体細胞のDNAが設計図となりました。

“ジュラシック・パーク”という映画がありました。化石の中から遺伝子を取り出して、生きた恐竜を復元する。“生命をつくるなどとてもない”と思っていたあなたは、この映画をみて、“こんな手があったのか”と、その以外さと巧妙さに魅了されたと同時に、空恐ろしさを感じたことでしょうか。もちろん生物をつくりだすなど、夢のまた夢ですし、やってはいけないこと(?)なのかもしれませんが、この“生命の作り方”は現実味をおびてまいります。その秘密は、今はやりのDNAつまり遺伝子にあります。遺伝子とは、細胞を構成するさまざまなタンパク質をつくるための設計図です。私たち人間をつくる設計図も、もちろん遺伝子DNAからできています。この人間の設計図を広げますと、約2mくらいになるそうです。大腸菌の設計図はほんの数mmです。大腸菌よりも人間の方がはるかに複雑にできていますから、これは当然なのでしょう。ところが人間よりもちょっぴり単純なカエルの設計図は、なんと20mを超えます。カエルが人間よりも10倍も複雑であるとはとても考えられません。でも設計図の大きさは10倍なのです。いったいどうなっているのでしょうか。遺伝子はたしかに設計図ではありますが、まだわからないこともいっぱいあるのです。最近の生物学の急速な発展から、どうやら遺伝子DNAは私たちの寿命や老化、そしてガンにも関係しているらしいのです。

この授業では、遺伝子もっている謎の部分の解きあかししながら、遺伝子がどのようなもので、また人間社会がこの遺伝子をどのように利用しようとしているのかを学んでいきます。文科系の皆さんは“遺伝子などは理科系の問題”と考えてはいませんか。今や遺伝子は社会・文化の問題となりはじめています。皆さんが社会で働いていく上で、この知識はきっと役に立ちます。是非とも履修しましょう。

【講義計画】

- I. 現代生物学とは？
 1. 生物界の構造と生命－生命現象を細胞レベルで理解する－
 2. 細胞の構造と機能：細胞は何をしているのか
 3. 細胞：タンパク質をつくる装置
 4. 遺伝子とタンパク質合成
- II. 私たちの遺伝子DNAを解読してみる
 5. 設計図としての遺伝子、精密情報処理の世界
 6. インスリン遺伝子はどんな構造になっているのか
 7. 遺伝子が支配する世界「自己と非自己」の科学
非自己を識別する免疫の機構
 8. 遺伝子にはまだわからないことがいっぱいある
- III. ウイルス
 9. ウイルスの構造と遺伝子
 10. エイズ（後天性免疫不全症候群）
エイズ（AIDS）とエイズ・ウイルス（HIV）
奇妙なウイルス“レトロウイルス”：初期の生命体を解き明かす鍵
ウイルスは生命か？ ウイルスとバクテリア
- IV. 遺伝子治療
 11. 遺伝子治療とその問題点（ビデオ 40分）

- 病気の多くは遺伝子が原因、近未来の薬は遺伝子
12. 遺伝子治療の原理
意外なものが遺伝子治療にもちいられる
13. ゾウリムシに性はあるの？えっ！8つも、男と女と・・・？
遺伝子修復と細胞分裂、若返りと性
生物はなぜ死ぬの？

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03331 03332 03341 03342	基礎生物学セミナーA・B（実験を含む）	選	1～4	各4	前期 後期	江 本 純
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「遺伝子治療、DNA鑑定、クローン技術、遺伝子組み換え食品……」
最近、新聞紙上やテレビなどでよく耳にするようになった言葉です。私たちの生活の身近なところで、このような生物学の先端技術が普及しつつあります。イギリスやフランスでは、すでに犯罪捜査にDNA鑑定が採用されていますし、わたしたちが普段口にする食品にも遺伝子組み換え技術は普通的手段となっています。また遺伝子治療やクローン技術でも、その影響力が大きな社会問題として問われ始めています。
この授業は、文科系の皆さんにもこのような問題を理解していただくために、生物学実験をふんだんに取り入れたものです。自分で実験することで、これまで苦手と感じてきた生物学の基本知識が自然に身につくように構成されています。
前期の基礎生物学セミナーAでは、生物学の基礎である細胞の機能を中心に、生物学から見た“生と死”の問題を考えていきます。また電子顕微鏡によるミクロの世界の観察や動物の解剖も準備しています。
後期の基礎生物学セミナーBでは、現在の生命科学の中心である遺伝子DNAに関して学び、実際に私たちの遺伝子の一部を解析します。遺伝子技術がどのような原理を基にして、どのような手順で行われるのかを実際に学びますと、逆に、その利用における危険性もよく理解できるようになります。
皆さんの世紀「21世紀」は“バイオの時代”でもあります。“バイオ技術”は、私たちの生活・文化・精神を今まさに大きく変えようとしています。文科系の皆さんにとっても今までは“生物学”という遠い世界だったものが“バイオ”となって押し寄せています。これからの皆さんには、バイオテクノロジーの基礎知識は大変重要なものになります。是非とも受講することを勧めます。

- 【講義計画】 基礎生物学セミナーA
1. 実験における諸注意、顕微鏡の操作、スケッチの方法
 2. 細胞の構造：オオカナダモの表皮細胞
 3. 細胞は何をしているのか
個体発生における生と死：ウニの発生
 4. 細胞の基本機能：体細胞分裂
 5. 多細胞動物の細胞分化：ヒドラ
 6. 電子顕微鏡：電子顕微鏡の構造と試料作製
 7. 電子顕微鏡：操作と写真撮影
 8. 原生動物と共生：シロアリの腸内共生微生物
 9. 植物色素の分析：クロマトグラフィの原理と実験
 10. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの内部形態
 11. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの筋肉系
 12. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの骨格系

- 基礎生物学セミナーB
1. 実験の諸注意、レポート作成のための分担
遺伝子科学に関する社会の動向 その1
 2. 遺伝子科学に関する社会の動向 その2
遺伝子取り扱いに関するガイドライン討論
 3. 細胞と遺伝子：DNAからタンパク質
細胞と遺伝子：生命の起源、酵素の役割
 4. 実験：DNAの抽出（タラ精巢）
 5. 遺伝子DNAの構造とその解読
解読のトレーニング

6. 免疫とはなにか
自己・非自己を認識する免疫のメカニズム
7. DNA分析の原理と方法
器具の操作訓練
8. 実験：DNA抽出、調整、増幅
9. 実験：増幅DNAの検出、制限酵素による切断
10. 実験：電気泳動法によるDNA断片の分離
11. レポート作成
12. 発表会と討論

【評価方法】 レポート

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03351 03352	化学	選	1～4	各2	前期 後期	山本 正康
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 我々の生活に関係する化学物質について－くすり・ビタミン・食品添加物など－

【講義内容】 現代の我々の身のまわりは、いろいろな化学物質であふれている。地球上の全ての物質は化学物質として表現できるが、人工的な化学合成品だけで考えてみても、我々の衣食住の全てにわたってかなり人工的物質が入っている。

この講義では、特に身近な元素や化学物質のほか医薬品、ビタミン、ホルモンおよび食品添加物などについて講義する。

まず、生命に必要な酸素、窒素や金属をはじめとした基本的化学物質の我々に対しての役割について述べる。次いで医薬品について、その開発の歴史、種類、体の中での役割、最近の発展等の他いろいろの問題点について概説する。そして、特になじみの深い抗生物質、睡眠薬、鎮痛剤、麻薬、覚醒剤およびホルモン剤などについて副作用なども含めて述べる。

くすりとの関係が深く、健康を保つためには無くてはならないビタミンについても発見の歴史、種類および役割について解説する。

次いで、最近の食品ではほとんどのものに含まれている食品添加物について、その種類、用途および問題点に講述する。

【講義計画】 まず、4回程度身近な化学物質について概論を述べる。続いて、くすりについてをホルモンを含めて5回ほど解説する。次に、ビタミンについて2回、食品添加物について2回およびその他の物質1回、という予定で行う。

【評価方法】 主として筆記試験で評価する。出席も加味する。

【テキスト】 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03361 03362 03371 03372	心理学A・B	選	1～4	各2	前期 後期	早矢仕 彩子 浦上 昌則
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、心理学全般にわたり概観することを通して、現象に対する心理学的な見方や知見を理解し、それを今後の生活の諸側面において利用できる素地を養うことを目的とする。受講者には、主体的な学習態度を期待する。

【講義計画】 以下のような領域について概観する。
心理学A

- ・心理学とは
- ・認知心理学
- ・学習心理学
- ・性格心理学
- 心理学B
- ・発達心理学
- ・社会心理学
- ・健康心理学

【評価方法】 主として、筆記試験の結果による。

【テキスト】 藤本・栗田・瀬島・橋本・東著『ワークショップ心理学』ナカニシヤ出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03382	科学技術論A	選	1～4	2	前期	横山 輝雄
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 文明の中の科学

【講義内容】 科学技術による知は、環境汚染・自然破壊などの問題に典型的に現れているように現在さまざまに深刻な問題を引き起こしている。しかしながら同時に現代人が科学技術からさまざまな恩恵をこうむっているのも事実であり、単純に「原始自然に帰れ」といった論議ができないことも確かである。

現在の科学技術は、19世紀のヨーロッパに成立したものが、日本を始め世界各地に伝わったものであり、その性格はヨーロッパの近代文明と、その中でもキリスト教と密接な関連を持っている。そのような歴史的・文化的な背景のもとでの科学技術についての理解を目指す。

【講義計画】 科学も技術も、それを広義に理解すれば非常に古い歴史を持っている。しかし今日の科学技術は19世紀に成立したものであり、極端な言い方をすればそれよりも前には「科学者」は存在していなかった。講義では、ヨーロッパにおける科学技術の成立について説明し、それを幕末から明治期以降の日本がどの様に受容したかを比較文化的な観点から説明する。

そして、科学技術の一つの典型とする「文明」の普遍制の問題について、キリスト教との関係、文化多元主義、文化相対主義の問題との関連から検討を加え、多元主義と寛容の問題、それと結び付けて世界における日本文化の性格について考えたい。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03391	科学技術論A	選	1～4	2	前期	小林 傳司
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 技術と人間の倫理

【講義内容】 中世において、好奇心は悪徳であった。好奇心に突き動かされてひたすら知識生産に励むことは、現代科学技術の特色である。そしてこの現代の科学技術は、自然現象をただ説明し、自然の法則を、自然の秩序を揺るがさないように、自然がいつも元通りになるような限度で利用するという謙虚な技術ではない。地球環境問題や臓器移植に見られるように、現代の科学技術は自然のバランスそのものを破壊する可能性を秘めている。改めて人間と科学技術の関係を問い直す必要が来ている。本講義では、科学全面肯定論と科学全面否定論の中間の可能性を探るものである。

【講義計画】

1. 序論
2. ロボットと人間性
3. 印刷術、火薬、羅針盤
4. 「進歩」思想の登場
5. 印刷からベルトコンベアへ

6. 「モダン・タイムス」の批判したもの
7. 水俣の問いかけもの
8. 環境破壊への警告
9. 江戸時代の技術観
10. 代替技術の可能性
11. ヴァーチャル・リアリティーと情報の倫理
12. 生命技術が突き付ける問題
13. まとめ－科学技術と倫理

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 加藤尚武『技術と人間の倫理』NHKライブラリー

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03392 03393	科学技術論B	選	1～4	各2	後期	小林 傳司
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代技術の将来

【講義内容】 現代の技術の発展は目覚ましい。このような発展は従来、科学の発展を応用することによって実現されると考えられ、科学の発展は科学的好奇心に基づくものとみなされてきた。しかし、好奇心→科学の発展→技術の発展という見方は一種の幻想であり、現実の技術は科学とは区別された独自の発展の仕組みを備えている。本講義では、技術の発展の諸相を歴史的にたどり、現代技術の特性とそれが環境問題に対して負の影響をもたらしていることを検討し、未来の技術の可能性を考えたい。

- 【講義計画】
1. 序論
 2. 技術発展とは何か
 - ・技術発展の要因
 - ・科学と技術
 - ・技術パラダイム
 - ・現代の邪悪なるもの
 3. 現代技術の設計原理
 - ・人工物の氾濫
 - ・産業移行説
 - ・科学技術知識の社会での流通と分布
 - ・工学の細分化
 4. 新しい技術パラダイム
 - ・環境学のディシプリンの創出
 - ・人工物の選択機構
 5. まとめ

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 吉川弘之『テクノロジーの行方』岩波書店

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03401 03402	地球科学A	選	1～4	各2	前期	阿 部 理
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 海の現在と過去

【講義内容】 水惑星「地球」はその70 %が海におおわれている。海は地球環境の形成と維持に対して大きな役割を果たしている。現在の地球環境において海は、エネルギーの水平輸送を行うことによって気候を決め、ま

た物質の鉛直輸送を行うことによって大気の水蒸気組成を決めている。また、近年増加している二酸化炭素などの温室効果気体を吸収することによって、地球の温暖化を緩和する働きを行っている。ふりかえって過去の海を調べてみると、氷河期と間氷期のサイクルにおいて海が担ってきた役割は大きいことも知られている。

本講義では、地球環境における海の働きを、現在の物理・化学的特性および歴史の変遷を概説し、近年の温暖化問題と海との関わりについても触れる。

- 【講義計画】
- ・海の水質・化学的特性
 - ・過去2万年間の海の変化
 - ・地球温暖化と海との関わり
- を中心に講義を進める予定。

【評価方法】 評価は、出席数及びレポートによって判断する。

【テキスト】 使用しない。参考図書は適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03411 03412	地球科学B	選	1～4	各2	後期	玉川 一郎		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【副 題】 地球の気象気候システム

【講義内容】 雨が降ったり、風が吹いたりする身近な気象現象から、地球全体の気温やその変動などの、気象・気候現象は、基本的に、太陽からの放射エネルギーにより駆動される一種のエンジンとして理解できる。ここでは、そのエンジンである大気—陸（海）のシステムでのエネルギーの流れと、それに密接に関わる水の流れを中心にシステムの全体を概観したい。

【講義計画】 地球全体でのエネルギーバランス、大気の大循環、高低気圧、雲と降水、地表面、極地循環などの現象を概観し、天気予報や気候のシミュレーション、気候変動や温暖化に触れる予定である。講義は配布する資料を中心に行ない、OHPなどを使用する。

【評価方法】 レポート試験

【テキスト】 特定のものは使用せず、配布資料を使用する。参考書は適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03511 03512 03513	スポーツ実技（サッカー）	選	2～4	各1	後期	中村 哲夫		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	可	

【講義内容】 サッカーはもっともポピュラーなスポーツとして世界的に親しまれており、現在では女性がサッカーをすることも珍しくなくなっている。
サッカーのコースでは、基本的な技術や戦術を習得し、またサッカーに関する知識（ルール、審判法等）を理解しながら、より高度なゲームができるようになることを願っている。球技という特性から、技術の修得段階を考慮し、「小さなスペース、単純なルール」に基づくゲームから、「大きなスペース、複雑なルール」によるゲームへと、ゲームを創っていく過程を大切にしたい。
この過程で、個人および集団としてスポーツ（サッカー）に関わっていく方法を学び、体力や健康への認識を高め、生涯にわたってスポーツ（サッカー）に親しめる態度を養うことをめざしている。

【講義計画】

- ・第1週 ガイダンス（授業計画、諸注意等）
ウォーミング・アップやストレッチングの方法
基本的なボールコントロール（ボールタッチ、ボールキープ、ドリブル等）
- ・第2～4週 基本的な技術の習得（各種キック、トラップ、フェイント等）

- ミニゲーム（1／4コート）
- ・第5～7週 基本的技術・戦術の習得（パス、シュート、攻撃および防御の方法等）
- ミニゲーム（1／2コート）
- ・第8～14週 実践的な技術・戦術の習得（様々な制限を付けたパスやシュート、実践的な攻撃および防御の方法、セットプレー等）
- ゲーム（全面）

なお、重複履修生については、各種技術練習におけるデモンストレーション、各チームにおけるリーダーシップ、ゲーム時の審判等の役割を期待する。これらの活動を通して、サッカーのより深い理解ができるようにする。

※定員は上限45名とする（男子のみ）。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 実技であるので、主体的に授業に参加することが大切であるため、出席を重視する。技術の向上や態度等も勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは使用しないが、雨天時を利用して、ルールや戦術等の理解を深めるために、VTRや資料等を利用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03514 03515	スポーツ実技（ゴルフ）	選	2～4	各1	後期	岩 見 恒 典
他の科目との関連					履 修 対象学科	全 重 複 履 修 可

【講義内容】 ゴルフのルーツは15世紀にさかのぼり、オランダの羊飼いの遊びから始まったという説や、スコットランドの牧童の遊びから発生したという説などがある。現在のようなゴルフに発展する歴史の中で、18世紀にはイギリスを中心に、19世紀になってアメリカでもおこなわれるようになり、マナーとルールを遵守する精神に支えられた紳士のスポーツとして親しまれてきた。最近は大衆化・一般化の傾向がみられ、近隣の大学でも授業として開講されており、若年層から高齢者まで誰もが参加できる生涯スポーツの代表的な地位を占めているものといえよう。

授業では施設・設備や時間的な条件から、実施できる内容は限定されるが、必要な知識と初歩的な技術を中心に、ルールやマナーなどの学習も含め、各自が目標を設定し、自らの課題を達成するために積極的に対応するよう実施したい。

- 【講義計画】
- （1）フォームとスウィングの習得
基礎的技術……（グリップ）（アドレス）（ボディターン）など
VTRによるスウィング・フォームのチェック
基本的なルールやマナーについての学習
 - （2）打球練習（スポンジ・ボール）
アプローチ・ショット…スウィングの大きさと方向・距離の確認
ショート・アイアンやミドル・アイアンのフル・ショット
ドライバー・ショット
バターによるコントロール・ショット（練習ボール）
 - （3）打球練習（練習ボール）
学内の打球練習場を利用して各種クラブのフォーム・チェック
（学外施設の利用は費用と移動時間の問題があるので検討中）

【用具および
実 地 場 所】

- *使用する用具（クラブ・ボール・マットなど）は用意するが、グローブは各自で準備する。
- *前半は室内（体育センター内の多目的ホール）で実施する。
- *第1週の集合場所は、体育センター東入口の掲示板で指示する。
- *クラス定員は上限を30名とし、履修希望者が少ない場合は閉講することもある。

【評価方法】 出席を重視（8割を満たない場合は不合格）し、学習態度を加味して評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03517	スポーツ実技（バレーボール）	選	2～4	1	前期	岩 見 恒 典
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 バレーボールは誰もが手軽にできるレクリエーション・スポーツとして、1890年代にアメリカで考案されたものである。1910年頃には日本にも伝えられ、学校体育の中心的な教材として利用されたことから、日常におこなえるスポーツとして普及し、競技やレクリエーションとして多くの人に親しまれている。試合をするための技術としては、攻めの手段であるサーブやアタックと、守りの手段としてのブロックやレシーブがあり、守りと攻めをつなぐ手段として、トス・アップやフォロー・アップがある。基本技術としてのパスは、試合の場面では次のプレーを予測した上で、ボールの距離と方向をコントロールする必要があり、レシーブやトス・アップにも関連する技術である。

バレーボールの技術を試合の構造から眺めると、「変化に応ずる技術」としてのパスやレシーブ、「整える技術（攻撃のための条件づくり）」としてのトス・アップ、「変化を加える技術」としてのサーブやアタックという整理ができる。授業ではこれまでに身につけた各自の技能を高めると同時に、チーム内での役割を果たして、チームとしての技能を発揮しながら、試合を通して{守りから攻撃}への転換ができるように工夫したい。

【講義計画】 第1～3週……個人的技能の習得
（各種のパス）（サーブとサーブ・レシーブ）（アタックとアタック・レシーブ）など
第4～6週……集団的技能の習得
（レシーブ、トス、アタックの連携）（フォロー・アップの練習）
第7～9週……試合形式の練習
（試合を想定したコンビネーション）（ルールや審判法の学習）
第10週……… 試合（記録をとる）

【用具および
実 地 場 所】 ＊クラス定員は上限を45名とし、履修希望者が少ない場合は閉講することもある。
＊第1週の集合場所は、体育センター東入口の掲示板で指示する。

【評価方法】 出席を重視（8割に満たない場合は不合格）し、学習態度を加味して評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03520 } 03523	スポーツ実技（バドミントン）	選	2～4	各1	前期 後期	岩 見 恒 典 榎 本 鐘 司 小 沢 教 子
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 若者が、心身の健康を維持し、活力に溢れた生活を送るためには、心拍数130前後の運動を、一週当たり三時間程度実施することが望ましいとされています。どんな方法によってそれを実現するかは個人の自由ですが、バドミントンはそんな時、多くの人に利用されているスポーツ種目の一つです。バドミントンはテニス、卓球などと比較してラリーの続きやすい種目で、それだけに初心者には取り付きやすい種目と言えます。

しかし、競技となると話は別で、球種も多く、動きの激しい奥行き深い種目で、そんな所が、バドミントンが生涯スポーツとして初心者から熟練者まで、幅広く愛好されている所以でもあります。スポーツは公開の場で、仲間と協力しながら、相手と競い争うという形式をとるだけに、その実践に際しては諸々の行動様式が要求されます。

この講座では、個人、団体に与えられた様々な課題に協力して取り組む中で、体力・運動能力を高め、スポーツを愛好する者としての資質の向上を目指します。尚、受講者の技能レベルは問いません。

【講義計画】 受講者の技能レベルに応じ、以下に掲げる項目の一部または全部について、難易度を変えて学習します。
ラケットイング
ストローク
オーバーヘッド・ストローク
サイドアーム・ストローク（フォアハンド バックハンド）
アンダーハンド・ストローク（フォアハンド バックハンド）

ラウンドザヘッド・ストローク
 ハイ・バックハンド・ストローク
 フライト
 クリヤー（ハイ・クリヤー ドリブン・クリヤー）
 ドライブ
 スマッシュ（ジャンプ・スマッシュ）
 ドロップ・ショット
 ネット・フライト（ヘアピン・ショット クロス・ショット）
 サービス（ショート・ロー ロング・ハイ ドリブン）
 ゲーム
 シングルス・ゲーム（ハーフコート フルコート）
 ダブルス・ゲーム（トップ&バック サイド・バイ・サイド ダイアゴナル）

【評価方法】 出席状況、技能の進捗程度、課題への取り組み方などを総合的に判断し評価します。

【テキスト】 テキストは使用しませんが、必要な資料はプリントして配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03524 03525 03526	スポーツ実技（フィットネス）	選	2～4	各1	前期 後期	三浦 修史 中路 恭平
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 一般的には、20歳代頃の体重が現在のベスト・ウェイトです。しかし、大学を卒業した後もこの基準に合うような人はほとんどいないといっても良いでしょう。この原因は、ストレスが強く、時間も掛かる通勤、長時間の座り仕事の疲れをいやすために、喫煙、飲酒、食事量が増加することです。この結果、摂取カロリーと燃焼カロリー量にアンバランスが生じ、肥満をはじめとする運動不足病があなたの方の健康を脅かすことになるのです。このようなストレスがもたらす身体への影響に対処する最良の方法が運動（フィットネス）です。フィットネスは、外観も、気分も良くします。しかし、それよりも重要な効果は、より長く、より健康で、より幸福な人生を過ごす助けになることです。

このコースでは、現在、体重の異常増加、体型の乱れ、基礎体力の低下に悩んでいる学生に対して、これらの問題点を改善するような実践指導をおこないます。また、将来、運動不足病になった時に正しいフィットネス・プログラムが創れるような能力をみにつけることも目標に授業をすすめていきます。なお、すでにフィットネスを受講したことのある学生で、継続的なトレーニングを希望する学生の重複履修を歓迎します。

【講義計画】

- ・第1～3週 現在のフィットネスレベルを評価する方法を学ぶとともに、正しいウォーミングアップ、クールダウンの方法を学ぶ。
- ・第4～8週 個人に合ったエアロビック・トレーニング、レジスタンス・トレーニングのプログラムを作成する。
- ・第9～13週 作成したプログラムに従ってトレーニングを行うと共に、個人の運動量を一日の歩行数から算出し、これに見合う栄養について考える。
- ・第13週～第14週 作成したプログラムに従ってトレーニングを行うと共に、トレーニングを行う場合に知っておいてほしい知識を学ぶ。

例えば、スポーツ・ドリンクとは？、プロテインは必要か？

※定員は上限35名とする。履修者が少ない場合は閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、授業への参加態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは使用しないが、随時資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03527 03528	スポーツ実技（卓球）	選	2～4	各1	前期	榎本 鐘司 松岡 敏恵
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 卓球は、老若男女をとわず、家族や友人といった単位で、もっとも気軽にできるスポーツのひとつでしょう。中高年の女性グループをつくって楽しむといったことも行われており、生涯スポーツとしての取組みも盛んです。こういった生涯スポーツとして卓球に取り組んでいこうとするときに、安全に対する知識を十分に持ち合わせ、マナーや社会的ルールを守って、グループの一員としての役割を積極的に果たす、そしてこれらのことが自然にできるといったことが、本当に大切ではないでしょうか。

この卓球のコースでは、ある程度のスピードでラリーをし、回転の変化に対応する技術を学び、これらの技術を駆使して、シングルスゲームとダブルスゲームを正規のルールの運用のもとで楽しむことを内容とします。したがって、技術のレベルでは、初心者から中級者を対象とします。けれども上級者（あるいはすでに卓球を履修した者）であっても、その技能の高さを発揮して、指導法、コミュニケーション、リーダーシップなどの実習の場となりますので、受講の条件としてこれら技能のレベルは問わないことにします。

- 【講義計画】
- ・第1～2週 ガイダンスプログラム、受講者のコミュニケーション、安全知識
 - ・第3～4週 フォアハンド、バックハンドの基本打法、ショート、ロングの打法
 - ・第5～6週 簡易ゲーム（シングルス）
以上は一斉指導形態で実施、以下はグループ学習形態を中心に実施。
 - ・第7～8週 回転の理論と実際
 - ・第9～11週 応用練習、ダブルス練習・ゲーム
 - ・第12～14週 チーム対抗のゲーム

※定員は上限50名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、技能的な進歩と授業への参加度によって総合的に評価する。授業のレポートを求めることもあるが、もちろんこれも評価の対象となる。

【テキスト】 テキストは使用しないが、必要な資料は配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03530 03531 03532	スポーツ実技（バスケットボール）	選	2～4	各1	前期 後期	松岡 敏恵
他の科目 との関連					履 修 対象学科	全 重 複 履 修 可

【講義内容】 バスケットボールは、1992年のバルセロナオリンピックにおけるアメリカのドリームチームの影響により一躍人気を得たが、もともと世界的に競技人口が非常に多く、我が国でも小学校から体育の教材に取り入れられていることは周知の通りである。従って、ほとんどの者がバスケットボールのルールについてある程度の理解を得、基礎的な技術についても身につけていると思われる。そこで、このコースではさらに個人技能、集団技能を高め、作戦などを工夫した上で、ゲームを楽しんだり、自己の集団内での役割を果たすことに重きを置きたい。その意味で、特にクラブ経験者などの上級者や重複履修者には、グループの組織化、コミュニケーションなどの面においてリーダーシップの発揮を期待する。

なお、バスケットボールは正規の5対5のゲームだけでなく、1個のボールと1基のゴールがあれば、1対1や3対3など、人数によっていろんな楽しみ方ができるスポーツである。授業ではそうした特性をふまえ、各種の練習・ゲームを取り入れていくつもりである。

- 【講義計画】
- ・第1週 オリエンテーション、ボールコントロール、試しのゲーム
 - ・第2週 グループ分け、ピボットとフェイク、シュートの基本、1対1
 - ・第3～6週 マンツーマンディフェンスとスクリーンプレイ、3 on 3 ゲーム
 - ・第7～9週 ゾーンディフェンス、速攻、5対5リーグ戦
 - ・第10～14週 ポジションの検討、フォーメーションプレイの研究、5対5リーグ戦

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視する。技能評価は適宜行うが、技能の向上度と学習への取り組み方、ルールや種目特性に対する理解度なども評価に組み入れる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03533	スポーツ実技（フライングディスク）	選	2～4	1	前期	中路 恭平
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 フライングディスクは1940年代初頭に、米国アイビー・リーグの名門校エール大学の学生達が「フリスビー・ペーカリー」というパイの店のパイ皿を投げ合って遊んでいたことからヒントを得て、建築検査官フレッド・モリソンがプラスチック・ディスクを作ったのが起源である。一般には遊具としてのフリスビーとして親しまれてきたが、その独特の飛行特性を活かしてさまざまな競技種目が考案されており、「フリスビー」が登録商標であることから1985年に「フライングディスク」と改称され、近年では若者のもとより、子供から高齢者まで楽しめるスポーツとして、世界的に広まってきている。フライングディスクは遠投距離を競うディスタンス、コントロールの正確性を競うアキュラシー、ゴルフのように決められた位置からバスケット型のゴールに投げ込むまでの投数を競うディスクゴルフなどの個人競技から、相手チームから投げ込まれたディスクを片手でキャッチしあうガッツ、バスケットボールとアメリカンフットボールのルールをミックスさせたようなアルティメットなどの集団競技まで10種目の公式競技がある。このコースでは、クラス全体の技能の向上やコミュニケーションの深まりにあわせて、これらの中から数種目を選び出し、練習とゲームを展開していくつもりである。

【講義計画】 第1～2週 オリエンテーション、10種目紹介
基本のスロー（バックハンド・スロー、サイドアーム・スロー）とキャッチ
第3～5週 ストレート、カーブの使い分け
スローのコントロール（アキュラシー）、遠投（ディスタンス）
第6～8週 遠投力とコントロール力の応用（ディスクゴルフ）
第9～10週 アルティメット：ランニングパス、ピボットとフェイク
ルールの理解、ミニゲーム
第11～13週 アルティメット：リードパス、オフェンスとディフェンス
リーグ戦
第14週 テスト：ディスタンス、アキュラシー、セルフコートフライト
※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。
第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【教 材】 必要に応じてビデオ、配付資料を活用する。

【評価方法】 出席を重視する。技能評価は適宜行うが、技能の向上度と学習への取り組み方、ルールや種目特性に対する理解度なども評価に組み入れる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03536 03537	スポーツ実技（スケート）	選	2～4	各1	後期	小沢 教子
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 スケートは子供から大人まで幅広い年齢層で気軽に楽しめるスポーツであり、屋内リンクの普及によりシーズンを問わずいつでも出来るようになりました。もちろん、大自然の中で風を切ってスピードにのって滑る爽快感は格別です。このような爽快感を味わえるには基本的な技術を必要とします。この講座では初心者から上級者までを3グループに分けて指導し、安全で楽しいスケートを学んでいただきます。重複して受講する場合は、一段階上のグループで更に高度な技術を目ざしていただきます。

【講義計画】 スケート場での実技は11周を予定。以下にその内容を示す。その他1～2周は学内で授業を行うことがある。

- 初級、中級、上級に分けて実施する。
- 第1～3週 {「ガイダンス、スケート及び安全に関する知識
技能別グループ分け、基本動作（歩行・滑走法）…重心の位置、重心移動、停止法（ハ・イの字）」
 - 第4～5週 片足滑走、リズムカルなストローク、キャリング
後進歩行・滑走法・停止法（T字）
 - 第6～7週 クロッシング走法、後進片足走法
前半のまとめ（個人練習）

- ・第8～9週 持久走（安全・確実なストローク）
クロス走法・停止法等の完成、方向変換（ターン）
- ・第10～11週
 - 「テストの課題練習
 - 実技テスト
 - 総まとめ（水上レクリエーション）

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、技術的な進歩の度合いと授業への参加態度によって総合的に評価します。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03539 } 03542	スポーツ実技（硬式テニス）	選	2～4	各1	前期 後期	中路 恭平 脇田 裕久
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 心身の健康を保ち、より良く生きる術としてのスポーツの有用性は、今更述べるまでもありません。しかし、テニスなどの様に相手との戦いの形式をとる競技スポーツ種目では、ある程度の技能無くしては気軽にスポーツ仲間に加わり難い面があります。この講座では、毎週、身体に適切な運動刺激を与え健康な汗を流す中で、テニスを生涯の友として楽しむに足る、基礎的な技能を身に付けることを目指します。また、練習過程及びゲームの実践を通して瞬発力や持久力、敏捷性、更にはスポーツマンシップやパートナーシップなど、テニスを生涯スポーツとして実施して行く際に要求される運動能力の向上や、諸々の行動様式を学びます。受講者の技能レベルには、当然、初級から上級まで差がありますが、ここではそれぞれの受講者の持つスキルに応じた学習を行います。従って、履修にあたっては技能レベルは問いません。

【講義計画】 受講者の技能レベルに応じ、以下に掲げる項目の一部または全部について、ボールのスピードやループ等、難易度を変えて学習します。

ラケットティイング

ボレー

フォアハンドボレー バックハンドボレー トラップボレー アングルボレー ドロップボレー

グラウンドストローク

フォアハンドストローク バックハンドストローク ロブ アプローチショット ドロップショット

サーブ

フラットサーブ スライスサーブ スピンサーブ

レシーブ

フラット・スライス・スピンサーブレシーブ

ファースト・スローサーブレシーブ

スマッシュ

スマッシュ グランドスマッシュ

シングルスゲーム

サービスコートシングルス ハーフコートシングルス フルコートシングルス ダブルスゲーム

雁行陣 平行陣

【評価方法】 出席状況、技能の進歩程度、課題への取り組み方などを総合的に判断し評価します。

【テキスト】 テキストは使用しないが、必要な資料はプリントして配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03545	スポーツ実技（登山・キャンピング）	選	2～4	1	夏期 集中	中路 恭平 榎本 鐘司
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【講義内容】 われわれは普段町に住み、便利な機械文明に囲まれて暮らしている。そうした都会生活を抜け出し、大自然の中に入っていくと、それまで忘れていたものが見えてくることがある。自然のすばらしさ、自然の

偉大さ、そして他の動物と同じように人間もその自然の一部であること、などなど。大自然の懷に抱かれて生活してみると、時間は意外にゆっくり流れていることに気づくだろう。その時間の中で、新しい自分を発見するかもしれない。このコースでは、大自然が教科書である。テントでの共同生活を通して、教室でもまた体育館やグラウンドでも得られない何かを、各自が見いだしてくれるものと確信する。

本年度は、北アルプスの代表的な山である立山連峰の登頂をめざす。初心者向けのコースを設定しているが、日常生活の中で歩くことを心掛けておいて欲しい。キャンプに必要なテントやシュラフ、コンロなども用意されているが、雨具とトレッキングシューズだけは各自で用意されたい。定員は30名である。

なお、このコースには実習費として23,000円が必要である。また、集中授業であるので、授業日程に注意されたい。

【講義計画】	4月24日(土)	午後1時～2時30分	オリエンテーション(体育センター視聴覚室T203)		
	7月31日(土)	午後1時～4時30分	テント設営、装備点検、糧食計画		
	8月1日(日)	午後1時～3時	パッキング		
	8月2日(月)～8月5日(木)		登山キャンピング、現地実習		
	8月6日(金)	午前10～12時	装備返却		

【評価方法】	現地での安全で快適な実習のためには、最低限のキャンピング技術を身につけることが必要である。このため、学内での事前実習が設けられている。この学内実習への出席を最も重視する。また、自然を大切にできる態度、安全に対する配慮など、野外生活の意義に対する理解度を評価する。
--------	---

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03546	スポーツ実技(スキー)	選	2～4	1	冬期 集中	中路 恭平 他		
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	可	

【講義内容】	わが国のスキー人口は一千数百万人といわれ、シーズンともなると山は若者や家族連れで賑わい、今や生涯スポーツの主要種目となっている。長野オリンピックの影響から、スキー場へのアクセスが便利になり、RVも好調な売れ行きを示している。ゲレンデでは、高速リフトが年々増設され、スキーヤーの運搬能力が従来と比べて飛躍的に向上してきている。これらのことが意味するところは、ゲレンデの混雑化であり、スキーヤー同士の衝突事故やそれに伴う訴訟問題が急増している。近年のスノーボードブームもこれに拍車をかけている。考えて見れば、時速数十キロで滑降するスキーヤーに免許制度はなく、ブレーキのかけ方やハンドルの操作を知らない車が横行しているようなものである。本コースでは「安全で楽しいスキー」をモットーに、正しい制動やゲレンデでのマナー、事故の回避方法などを徹底した上で、個人のレベルに応じた班編成による指導を行う。また、ゲレンデでの実習だけでは不十分であるので、VTRによるイメージトレーニングやスキーの力学に関する講義も取り入れる予定である。
--------	---

定員は45名であるが、登録者多数の際は4月17日のオリエンテーションにおいて抽選を行う。なお、このコースには実習費用として40,000円(交通費、宿泊費、食費、テキスト代を含む。ただしリフト代、貸しスキー代等は含まず)が必要である。このうち申込金として5,000円をオリエンテーション時に徴収する。この申込金は、個人的都合により履修取り消しをした場合には原則として返却できないので、登録に際して熟慮されたい。

【講義計画】	4月17日(土)	午後1時～2時30分	オリエンテーション(体育センター視聴覚室T205)		
	1月8日(土)	午後1時～2時30分	事前ガイダンス(体育センター視聴覚室T205)		
	2月17日(木)～21日(月)		現地実習(長野県戸狩温泉スキー場)		

【評価方法】	学外での合宿生活を伴う軽業であるから、団体行動を乱したり他人に迷惑をかけぬよう、大学生として節度ある振る舞いを求める。技能の到達度も評価に入れるが、安全に対する理解度やマナー、学習態度等を総合的に評価する。
--------	---

【テキスト】	大学スキー研究会編『SKI TEXT』(杏林書院)
--------	---------------------------

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03583	スポーツ科学論	選	1～4	2	後期	中路 恭平		
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【講義内容】 人々の運動やスポーツの行い方は、その時代における社会的な背景と大いに関係があると言える。本講義では、人類がこれまでどのように運動やスポーツと関わってきたか、古代から中世、近代へと歴史的に概観し、その上で現代社会における運動・スポーツが持つ意味や問題点などを探り、その生活化の方策を検討する。また、現代社会においては、社会的・環境的制約から、我々はとくに運動不足に陥りがちである。この運動不足、そして栄養過多やストレスは、現代人の健康を阻害する三大要因といわれている。後半では、身体運動と健康・体力とのつながりについて、特に呼吸循環機能、筋機能に視点を置き、運動が人体に及ぼす効果について探るとともに、適切な運動の行い方を検討する。

【講義計画】 主な内容は次の通りである。

1. スポーツとは何か
2. スポーツの歴史
3. イギリススポーツとアメリカスポーツの文化比較
4. アマチュアリズムとその変遷
5. スポーツの高度化と経済化
6. 生涯スポーツの時代
7. 運動と健康・体力
8. 運動と栄養・エネルギー
9. 運動と身体機能（呼吸循環機能）
10. 運動と身体機能（筋機能）
11. トレーニング・運動処方

【評価方法】 期末試験の結果のほか、授業中のミニレポートを加味する。

【テキスト】 テキストは使用せず、講義資料を配布する。また、参考文献は講義内で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03591	健康科学論	選	1～4	2	前期	岩 見 恒 典		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【講義内容】 人間がその生涯の各年齢段階において、活力に満ちた明るく心豊かな生活を実現できることは、生きがいのある人生を送るうえでの基盤であり、健康の保持増進やスポーツの実践が深く関連していることは誰もが認めることであろう。われわれが健康であるという実感を持って生活できるのは、その人が必要とする生活を満足に行い得ているということであろう。人間の生活は、時代・地域・性・年齢・職業などによって異なり、それぞれに応じた健康に対する考え方があることはいうまでもない。健康で豊かな社会生活を営むためには、個々人が健康や体力に関する知識を深め、自己の健康や体力の状態を知り、生涯を通して実践することが大切である。今年度の講義は、「健康」という漠然とした概念を少しでも整理することになればと、個人の問題としての健康と、集団としての問題について整理する予定である。

【講義計画】 前半は個人の問題としての視点から、「健康の概念・定義・健康指標」「身体的健康・精神的健康・社会的健康」「共通認識としての健康観とその変遷」などについて整理し、後半は、国民生活基礎調査や国勢調査などの統計資料を活用して、「集団の健康指標」「疾病・死亡の状況と変遷」「人口問題」などに対する国際比較を含め、集団としての健康問題について考えることにしたい。

【評価方法】 講義日程の3分の2以上の出席者に対し、期末試験の結果と授業中に実施するミニテストやレポートの成績を加えて評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
03592	健康科学論	選	1～4	2	前期	三 浦 修 史		
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修	不可	

【副 題】 現代人の健康維持にはたす身体運動の役割

【講義内容】 今日、家庭・学校・職場の環境は厳しさを増し、多くの人々が外界からストレスにさらされている。その結果、多くの半健康状態の人が存在するといわれている。そこで本講義は、変動する現代社会がもたらすストレスとそれに反応する現代人の諸問題について具体的に考えるとともに、ストレスマネジメントにはたす身体運動の効果についても学習する。

【講義計画】 最初に、我々を取りまく環境に存在するリスクファクターを理解し、その中から今後特に注目しなければならない心理的因子について、いろいろな方面から講義を進めていく。特に、職場や家庭、学校において、今日、問題となっている事件との関連について話を進めていきたい。後半は、身近に見られるストレスの中から、我々に最も関連する薬物について具体的な例を示し理解を深める。

【評価方法】 毎週、小レポートを提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03612	スポーツ科学演習Ⅰ (スポーツにおける日本的)	選	1～4	2	後期	榎本 鐘司
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スポーツには、さまざまな文化要素が複合的にからみあっています。この授業では日本の武道を取りあげて、文化要素がどのようにからみあっているかを、実技をまじえて、考えて行きたいと思います。
なお、クラスの人数は上限40名までとし、場所は剣道場とします。

【講義計画】

1. 武道の歴史概略
2. 「気」論と武道（東洋の身体論）
3. 「道」と武道（仏教、儒学の影響）
- 4～9. 剣道実技
防具、竹刀などの用具について
「正座・黙想」「そんきょ」「掛け声」等の意味と機能
「演ずること」から「競うこと」へ
「一本（有効打突）」の概念形成と日本文化について考える。etc.
10. 現代武道と古武道の異同（講義）
11. 「演ずること」と「競うこと」の再検討（講義）
12. スポーツにおける日本的
(武道の構造から武道の歴史を再構成して考える。)

【評価方法】 出席を重視し、レポートによって評価する。

【テキスト】 参考書は次の通り。
 1. 武道編『先生なぜですか』（大修館書店）
 2. スポーツ文化論シリーズ6『スポーツコミュニケーション論』（創文企画）
 3. エドワード・ホール『かくれた次元』（みすず書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03621	スポーツ科学演習Ⅱ（応用身体運動）	選	1～4	2	後期	三浦 修史
他の科目 との関連	03611スポーツ科学演習Ⅰ (基礎身体運動学) 履修が必要。				履 修 対象学科	全 重 複 履 修 不可

【副 題】 応用身体運動学（選手のためにスポーツを科学する）

【講義内容】 スポーツ演技の多くは、単に身体や身体各部分が運動するという以上のものを含んでいる。たとえば、ボール、バット、ラケット、クラブなどの用具を操作するという場合、単に機械的動きというものではない。それらの用具をどのように操作するかということが結果に影響をおよぼすのである。授業では、個人が興味を持つスポーツ技術を対象に合理的な動くとはどのようなものかを究明する。よって、スポーツ活動を行っている学生の受講を希望する。ただし、身体運動学、基礎身体運動学の履修を終えた者にかぎる。

- 【講義計画】 基礎身体運動学ですでに習得した。高速ビデオ撮影技術と動作解析装置の操作技術を最大限に生かして、学生個人が積極的に実験に取り組むことを目標とした授業で、最初に、実験計画を提出してもらう。この計画をもとに、研究をすすめ、結果を図表にまとめ、それについてのレポートを作成する。
- 【評価方法】 最初に作成した計画にしたがって、率先して研究に取り組み、分析した結果をレポートにして提出する。
- 【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03801 ∪ 03828	情報リテラシー	選	1～4	各2	前期 後期	村本 正生 他
他の科目 との関連				履 修 対象学科	情管・経済 以 外	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 世の中、まさにマルチメディア時代である。すばらしい能力を持ったパーソナルコンピュータを各人が所有できる時代である。このコンピュータの持つ能力を我々自身の力とし、それを土台として人間の創造性を高めようというのが情報リテラシーの基本であろう。
この授業では、コンピュータに関する基礎技術を学習し、道具として活用できる技術を身につけることである。基礎技術であるので身につくまで反復練習が必要である。授業ではその手ほどきをするだけであり、身につくかつかないかはあなた方の意欲と熱意による。情報システムの最も基本的な概念の理解と基礎的なコンピュータ操作法の習得を目指す。
コンピュータを使ったことのない初心者を対象とした授業である。
- 【講義計画】 コンピュータ操作を中心に、基本的情報システム概念の説明を織り混ぜて授業を行う。
・コンピュータの出来ることとその仕組み
・パソコンの機能説明とオペレーティングシステムの役割（ハードウェアとソフトウェア）
・文書処理（ワープロ）：データ入力、日本語変換、文書編集と印刷
・データベース：データの蓄積と検索照会・表示、図書検索システム（GEMMAⅡ）
・マルチメディアとコンピュータネットワーク：インターネットとサーチ
・表計算とグラフ化
・情報セキュリティと情報倫理
- 【評価方法】 各テーマ毎に課題を出し、結果を提出してもらい評価する。日頃の出席や理解度を勘案して評価する。
- 【テキスト】 山田進・村本正生著「情報リテラシーテキスト」学術図書出版社

全 学 共 通 科 目

G. 外国語科目

H. 日本語科目・
日本事情に関する科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04001 └ 04154	英語Ⅰ・Ⅱ総合		1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 These two courses provide the new incoming students with an introduction to communication in English in all four skills: listening, speaking, reading, and writing. The emphasis in the course is on real communication: actually using English in the classroom to accomplish various tasks and assignments. The goal of instruction is to provide instruction in the study skills necessary to enable the students to continue their own study outside the classroom on an individual basis.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities differ with the interests and abilities of each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide an explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04161 └ 04276	英語Ⅲ・Ⅳ総合		2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 These two courses provide the students with an advanced courses in English communication. The course are designed to help the students develop proficiency in each of the four language skills: listening, speaking, reading, and writing. The course builds on the foundation provided by Integrated English I & II and attempts to bring the students to a proficiency level sufficient for them to take advantage of the many opportunities for going abroad, for both pleasure and study.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities will differ with the interests and abilities of each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide all explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04301 } 04348 04361 } 04418 04431 } 04437	英語Ⅰ・Ⅱリーディング		1・2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 パラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度などで総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04351 } 04354 04421 } 04424	英語Ⅰ・Ⅱリーディング（英米科用）	必	1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英米	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Students will be introduced to reading strategies intended to improve reading comprehension and the variation of a wide variety of international native level texts in English. The reading materials will also help prepare them for texts and tasks they may encounter in English-speaking environments. Vocabulary acquisition skills will be reviewed, and by the end of the course the students should be able to read a wide range of texts with a reduced dependence on a dictionary, and a significantly improved rate and level of comprehension.

【講義計画】 The SRA reading methodology will be used to improve the reading strategy of the learners so that they may develop and notice a real improvement in their reading skills. A placement test will assess each student's particular reading level and will be used to indicate how this level may be improved. The course will also serve as a preparation for the more advanced academic reading demands of Readings III and IV.

【評価方法】 The final grade will be based on a continuous assessment of the student's work and effort in class and the grades achieved on assignments and tests throughout the course.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04451 ↓ 04562	英語Ⅲ・Ⅳリーディング		2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修

【講義内容】 高度な英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダー、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待される。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度などで総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04601 04611	英作文Ⅰ1a・Ⅱ1a（英文科生用）	必	1	各1	前期 後期	玉崎 孫治
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英文	重 複 履 修 不可

【副 題】 パラグラフの構造

【講義内容】 パラグラフ・ライティングの訓練を目的とする。英文の段落毎の構造を研究し、段落単位の作文に習熟することは、英文による発表能力ばかりでなく、英文のリーディングの増強にも大きなプラスとなる。文単位の英作文では注意が行き届かない段落（パラグラフ）の構造を学ぶことが主な目的である。

【講義計画】 コンピュータをフルに利用して、いろいろな英文の段落構成法を暗記や練習問題をまじえながら検討させ、毎時間段落作文を宿題として課す。提出した宿題は添削返却を旨とし、翌週3編ほどピックアップしてコンピュータのスクリーンに提示し、クラス全員で註釈・検討を加える。なお後期にはスクリーンに読み出した小エッセイを読ませ、同時間内に大意を書かせる訓練を加える。宿題の提出もコンピュータの利用を前提にし、フロッピー・ディスクットの提出から電子メール（E-mail）による方法など、多面的に行うので、自分のパソコンを持つことを薦める。

【評価方法】 クラス内での活動、宿題、定期試験で行う。出席重視。
欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多（S）」による不合格とする。

【テキスト】 コンピュータによる資料（ファイル）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04602 04612	英作文Ⅰ1b・Ⅱ1b（英文科生用）	必	1	各1	前期 後期	武田 悠一
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英文	重 複 履 修 不可

【講義内容】 英文を書く際に日本人が共通しておちいりやすい文法的・語法的間違いなどについて学習し、自然な英語表現を身につけるための訓練をします。

【講義計画】 前期は、テキストの練習問題をこなしながら、課題文の作成、エッセイや新聞記事などの要約といった作業を通じて、英作文の基本的な知識と技術を学びます。後期には、パソコンを使って、課題文やエッセイを書く練習をする予定です。

【評価方法】 定期試験の成績と、課題文やエッセイの評価などから総合的に評価します。
欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 Haruo Kizuka / Roger Northridge, *Common Errors in English Writing* (ローマン)
(マクミラン ランゲージハウス)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04603 04613	英作文Ⅰ 2a・Ⅱ 2a (英文科生用)	必	1	各1	前期 後期	鈴木 孝夫
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英文	重 複 履 修 不可

【講義内容】 時事英語をモデルとして簡潔・明晰な短文を書く練習を主とするが、自由英作文ならびに語法研究も行う。

【講義計画】 毎時間、先ず、テキスト1)を用いて日本人の誤りやすい語法・文法事項を5ユニット学ぶ。次いで、テキスト2)を用いる和文英訳は、コンピューターを活用して多様な解法を効率的に画面に提示し、生きた英語の実態と可能性を探る他に、typographyの規則、formal styleとinformal styleの区別を教える。さらに、Creative Writingへの導入として、paragraph構成を重視した自由英作文の練習を行う。

【評価方法】 定期試験と自由英作文の成績を7:3とし、授業における貢献度をそれに加味する。なお、欠席回数が授業予定総時数の3分の1を超えた場合は「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 1) ジェイムズ・H. M. ウェブ『日本人に共通する英語のミス121』(ジャパントイムズ社); 2) 長江芳夫・近藤摂子、*How to Express Current Topics in English* (英潮社)。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04604 04614	英作文Ⅰ 2b・Ⅱ 2b (英文科生用)	必	1	各1	前期 後期	鈴木 達也
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英文	重 複 履 修 不可

【講義内容】 パラグラフ作成の実習、英文法の復習、パソコン操作など、英文科学生として必須の英作文の基礎知識を身に付けることを目的とします。

【講義計画】 トピックセンテンスの概念を中心にパラグラフ構成の仕方を隔週出す課題を通して学びます。また英文法の小テストを行い、文法知識の再確認もします。パソコンを使った授業にも力を入れ、課題はプリンターで印刷したものを提出できるようになってもらいます。

【評価方法】 課題の評価、小テストの成績、期末レポートの結果を総合的に判断します。なお、欠席時数が授業予定時数の3分の1を超えた場合、「欠席過多 (S)」による不合格とします。

【テキスト】 北尾 S. キャスリーン、北尾謙治「Understanding English Paragraphs (パラグラフ読解・作文演習)」(英潮社) ジェフリー・リーチ (田中春美・樋口時弘訳)「ネイティブ英語運用辞典」(マクミラン ランゲージハウス)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04621 04624 04631 04634	Freshman English I・II (英文科生用)	必	1	各3	前期 後期	D. Mayer, W. Purcell D. Mayer, J. Seland
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英文	重 複 履 修 不可

【講義内容】 In this course the students move from a passive knowledge of English vocabulary and grammar to active use of the language in speaking and hearing. Half of the class is devoted to activities which involve speaking ; the other half of the class is spent in the Language Laboratory for activities which concentrate on listening. In addition, there are four novels for extended reading and vocabulary building; weekly letter writing to focus on grammar and vocabulary needed in the warm-up section of the class ; printed impressions of the novels ; inclass letter exchange and discussion via computer; and introduction to various self-help computer programs such as a vocabulary builder and a speed reader. Since the computer instructions are given in English, this period becomes a real-life situational use of English.

【講義計画】 The course meets three times a week. Once a week in the computer room; twice a week in a classroom with audio/visual equipment. There may be slight variations according to teachers; however, in/general, once the textbook instruction starts, there is the following pattern.

- 1 . Warm-up. As soon as students enter the room they speak in English about any topic of their choice.
- 2 . Roll call. Checking whether the letters were written. A student leads a cheer or the teacher engages some students with a few remarks.
- 3 . Work in pairs or in groups of three and four.
- 4 . Game or some communicative activity related to the chapter.
- 5 . Reflection.

【評価方法】 Although there is written work in the course, the examinations are oral. To pass the course a student must show a certain ability in the LL, be active in the class, and be able to carry on a conversation or to reply to questions given in English. To speak or not to speak; to understand spoken English or not to understand. The course is basically pass/fail. However, extra credit is given for higher LL scores, evidence of trying, and volunteering to use English in a public situation.

なお、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 Basic Text : to be announced
Three short novels : *The Lion, the Witch, and the Wardrobe* ; *Nisei Daughter*, *The Best Christmas Pageant Ever*

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04701 } 04708 04716 04717 04721 } 04728 04736 04737	英語Ⅰ・Ⅱオーラルコミュニケーション (英米科・日本語学科用)	必	1	各3	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科	英米・ 日本語	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The goals of OC-Ⅰ/Ⅱ are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OC-Ⅰ/Ⅱ activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

(LL) In each 90 minute OC-Ⅰ/Ⅱ class, 45 minutes will be spent in the language laboratory with the emphasis on various aspects of listening comprehension and pronunciation using commercially prepared listening and video courses as well as actual television broadcasts.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Regular language laboratory tests and listening tests are given throughout the year. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and progress made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers. Homework and preparation are required for most classes and students can expect to spend about two hours outside of OC-Ⅰ/Ⅱ for homework per week.

Tests, homework and attendance in the LL are combined with results in OC- I / II to determine the course grade.
OC evaluation includes periodic standardized tests.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04711 04712 04731 04732	英語 I・II オーラルコミュニケーション (イスパニア科用)	必	1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科	イスパ	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The goals of OC- I / II are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal (one to one) interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OC- I / II activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and steady progress made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04751 04789	英語 I・II ライティング		1・2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 効果的なパラグラフ (Paragraph) を書くことを主たる目標とする。パラグラフは自分の考えや気持ちを表現するための最も基本的な単位である。Paragraph Writingを習得することによって、Essay Writingにつながる。

【講義計画】 Paragraphの概念 (Central idea、Topic sentence、Supporting details等) と展開法 (Details、Examples、Classification、Definition、Comparison/Contrast、Cause/Effect、Process等) を実例によって学び、それに基づいてParagraphを書く訓練をする。英語で表現するためには英語を読むことが重要であるから、かなりの量のリーディングが課される。またParagraphを構成する要素は文 (Sentences) であるから、正確な文を書くための語法、イディオムの習得も要求されるであろう。

【評価方法】 課題、小テスト、期末試験、出席等を総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04801 04840	英語 I・II 音声表現		1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ビデオ、テープなどを多用して英語の音声表現の理解を深める。また、重要な表現を適切な状況で使用できるように訓練する。

【講義計画】 LL教室を使用し、毎回多量の音声表現に触れる。課外に英米の映画を観たり、英語のテレビニュースを聴くなど、積極的に英語の音声表現になれ親しむことが期待されている。

【評価方法】 出席重視（積極的なクラス参加を期待する。）

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04841 ＼ 04854	英語Ⅰ・Ⅱアドヴァンストリーディング		1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連	英語Ⅰ・Ⅱリーディングを既修、又は履修中であることが望ましい。			履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 やや難しい英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04861 ＼ 04879	英語Ⅰ・Ⅱ会話			各1	前期 後期	
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 This course will concentrate on developing students' speaking and listening ability though the use of communicative activities. An important focus will be on vocabulary, especially words, phrases, and structures used to describe important thought, feelings, and events and experiences. Some classes will include discussion and/or problem solving activities. Students will be expected to work together in pairs or small groups.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04901 ＼ 04903	英語Ⅰ（会話）	国：必	1	各4	通年	P. Bryer D. Rines M. Fenwick
他の科目 との関連				履 修 対象学科	経営 (国際コース)	重 複 履 修 不可

【副 題】 Oral EnglishⅠ

【講義内容】 These courses emphasize improving students' self-confidence, fluency, and accuracy in English speaking and listening skills. Activities may include pair and small group discussions, interviews, role plays, audiotape and video activities, and TOEFL review as needed. Topics tend to be more general, from daily life and the current news, for example. Homework is required.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report (s)
- Written Report (s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary.
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04911 ↓ 04913	英語Ⅱ（会話）	国：必	2	各4	通年	P. Mason P. Bryer P. Binford
他の科目 との関連				履 修 対象学科	経営 （国際コース）	重 複 履 修 不可

【副 題】 Oral English II

【講義内容】 These courses emphasize increasing students' speaking and listening skills when dealing with more advanced topics in daily life, the news, and the business world. In addition to pair and group discussions, activities may include more formal work, such as speeches, presentations, debates, and activities to prepare students for study abroad in their Junior year, such as lecture notetaking skills. Audiotape and video activities may also be used. Homework is required.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04921 04922	基礎英語	国： 選・必	1	各4	通年	B. Cullen P. Binford
他の科目 との関連				履 修 対象学科	経営 （国際コース）	重 複 履 修 不可

【副 題】 Basic English

【講義内容】 The purpose of this course is to practice the four basic English skills : speaking, listening, reading, and writing. English speaking will be practiced in small and large groups. Video and audio equipment will be used to help students improve listening skills. Reading and writing skills will be cultivated through TOEFL preparation and class reports. Reflection on all these activities will lead to an improvement in basic English skills. Since a minimum of homework will be assigned, active participation in class activities is expected of all students.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

- 【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :
 — Written Examination
 — Oral Examination
 — Oral Report(s)
 — Written Report(s)
 — The use of reference materials is possible.
 — Audiovisual equipment for evaluation might be necessary.
 — Other methods of evaluation to be decided by each teacher.
 If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of “ S ” (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04931 04932	英会話Ⅰ	営: 選・必	1	各2	通年	M. Fenwick B. Cullen
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 English ConversationⅠ

【講義内容】 These courses are for students who want to practice listening and speaking skills. Activities may include the following : group discussions of various topics, discussion of short reading passages or articles, interviews, role plays, impromptu speeches, short formal speeches, question and answer practice, listening to audio tapes, watching and responding to video tapes, oral practice drills, short written exercises, etc. Some homework is required.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

- 【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :
 — Written Examination
 — Oral Examination
 — Oral Report(s)
 — Written Report(s)
 — The use of reference materials is possible.
 — Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
 — Other methods of evaluation to be decided by each teacher
 If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of “ S ” (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04941 04942	英会話Ⅱ	営: 選・必	2	各2	通年	P. Tanner P. Wringer
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 English ConversationⅡ

【講義内容】 These courses build on the skills practiced in English ConversationⅠ. Activities may include the following : group discussions of various topics, discussion of short reading passages or articles, interviews, role plays, impromptu speeches, short formal speeches, question and answer practice, listening to audio tapes, watching and responding to video tapes, oral practice drills, short written exercises, etc. Some homework is required.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

- 【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :
 — Written Examination

- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary.
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of " S " (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

フランス語

フランス料理、フランス映画、フランス絵画、フランス文学、ファッション、シャンソンなどを通じて私たち日本人にも身近なフランス語は、フランス本国以外にカナダ、ベルギー、スイスほかアフリカ諸国など全部で三十数か国において用いられる有力な国際語の一つです。

フランス語を仏語学仏文学科で学ぶ場合は、おもに視聴覚教育方式により、フランス人と日本人の教師がタイアップして教え、ことばの生きた運用力（聴く、話す、読む、書くの四技能）を体系的に身につけることを目的としています。未修外国語としてフランス語を選択する場合には、伝統文法の優れた分析的な方法を用いて、文献読解、情報収集、実務などにも役立つような語学力の習得を目指します。

具体的な到達目標としては、卒業後も①辞書があれば簡単なフランス文や手紙が読める、②フランス語会話の基礎が得られる、の二点を考えています。

外国語の勉強は、毎日が未知の世界の発見です。ことばを通して私たちは初めてその言葉を使う人々の生活や意見を知ることができます。「知る」ことによって自分の世界が広がっていく喜びを味わってみましょう。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05101 } 05291	フランス語Ⅰ・Ⅱ（文法・講読）	選・必	1	各1	前期 後期	栗村 道夫 他
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 初心者を対象に、週二回の授業で一年間フランス語を勉強する。到達目標は、「辞書があれば簡単なフランス語の文章が読めるようになる」ことである。

【講義計画】 一年間でおよそ次のことを学習する。
 ①名詞の性と数、②冠詞、③代名詞、④関係代名詞、⑤副詞（比較級、最上級）、⑥形容詞（性数一致・比較級、最上級）、⑦動詞（直説法・命令法・条件法・接続法及び時制）、⑧代名動詞、⑨受動態、⑩現在分詞とジェロンディフ

【評価方法】 試験及び平常点による。「欠席過多」を適用する。

【テキスト】 テキスト・辞書については、学年始めに担当教師が指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05301 05311	フランス語Ⅲ・Ⅳ文法（文）	選・必		各1	前期 後期	植田 裕志
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 フランス語を読むための文法の習得に重点を置く。
 まず練習問題を通して文法の基礎の復習をしながらさらに深い理解が得られるようにする。次にさまざまなジャンルの文章（雑誌記事あれこれ、小説、歴史書、科学書、法律の条文など）をもとに、文法的に正確に読解するトレーニングを行う。
 以上を通して、例えばちょっとした冠詞や時制の表現のニュアンスを理解することが、文章の理解にとっていかに重要であるかが実感されるであろう。

- 【講義計画】 前期 一年次の文法の基礎を、全体を見通しながら、練習問題によって復習する（発音、語形変化、用法などについて）。
後期 できるだけ多くの種類の文章の抜粋を読む。
- 【評価方法】 各期末の筆記試験をもとにするが、授業での積極的な参加も考慮に入れる。
- 【テキスト】 授業時に教室でプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05302 05312	フランス語Ⅲ・Ⅳ文法（文）	選・必		各1	前期 後期	丸岡 高弘
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

- 【講義内容】 フランス語文法を復習しながら簡単なフランス語のテキストを読む。教科書のテキストの内容はフランスの現代社会について書き下ろされテキストで、読解の参考になる注もつけられ、1年間フランス語を学習した学生に無理なく読めるものである。
- 【評価方法】 期末定期試験を課するが、平常の授業での積極的な参加が求められる。
- 【テキスト】 クリスチャン・ボームルー『時事フランス語（99年度版）』朝日出版社。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05303 05313	フランス語Ⅲ・Ⅳ文法（外・経・営・法）	選		各1	前期 後期	浜名 優美
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

- 【講義内容】 初級文法の復習と中級文法の知識の習得。現代フランス事情を学びながら、フランス語を道具として使えるようにする。
- 【講義計画】 毎回テキストをていねいに読む訓練を行う。予習は必ずやっておくこと。
- 【評価方法】 学期末の筆記試験ならびに平常点。欠席過多を適用する。
- 【テキスト】 渡辺美紀子・Joseph Mancel著『現代フランスのミニ・スケッチ』（改訂版）駿河台出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05321 05331	フランス語Ⅲ・Ⅳ講読（外・経・営・法）	選		各1	前期 後期	森田マリー・アニェス
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

- 【講義内容】 徹底した口頭練習を通じて、基本的な文法事項を活性化します。単なる機械的な反応にとどまらず、各人が自分の考えや意見を述べるのが大切です。授業には毎回積極的に参加してください。必要なものは少しの勇気と自由な想像力。
- 【評価方法】 出席状況と定期試験（筆記）を総合して決めます。「欠席過多」を適用。
- 【テキスト】 *De concert 1*, Centre franco-japonais d'Osaka, Editions Asahi, 1998, 1553P

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05322 05332	フランス語Ⅲ・Ⅳ講読（文）	選・必		各1	前期 後期	浜 名 優 美
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 初級文法を基礎に応用力をつけることを目的とする。発音、文法、語彙について随時指導する。

【講義計画】 毎回一課ずつ進む予定であるから、必ず予習すること。

【評価方法】 学期末の筆記試験ならびに平常点による。欠席過多を適用する。

【テキスト】 江沢昭・田口宏明編『ニュース・スコープ』駿河台出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05323 05333	フランス語Ⅲ・Ⅳ講読（文）	選・必		各1	前期 後期	練 尾 毅
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ◇前期：初級文法の復習。
◇後期：中級程度の文法の学習

【講義計画】 ◇前期：フランスとフランス文化の一端（（1）フランス、（2）パリ、（3）カフェ、（4）学生生活、（5）パン、ワイン、チーズ、（6）南仏、（7）ブルターニュ、（8）アルザス、（9）政治、（10）フランス語など）を紹介しながら、日常的な語彙・表現、コミュニケーションに必要な基礎知識を学ぶ。
◇後期：（1）フランス料理、（2）郵便と手紙、（3）ホテル、（4）ヴァカンス、（5）失業問題、（6）環境問題、（7）礼儀作法（8）ジャーナリズム、（9）教育制度、（10）日本とフランス、（11）フランス語圏、（12）フランス文学・フランス思想などに関する平易な会話体のフランス語を読みながら、フランス文化を考える。

【評価方法】 平常点と筆記試験

【テキスト】 ◇前期：澤田直之、黒川学、Liliane LATTANZIO、『アミカルマンーフランス語・フランス文化への誘い』、駿河台出版社、1998年、1,800円。
◇後期：藤田祐二、『Escargot 2『えすかるご2』』朝日出版社、1999年、2,300円

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05341 05351 05361 05371	フランス語Ⅴ～Ⅷ			各1	前期 後期	栗 須 公 正
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 可

【副 題】 フランス語を読む——初歩から中級へ——

【講義内容】 読む力をつけることを目的とする。初級文法の復習と仏文和訳の段階的な学習を組み合わせ、初級から中級、時には上級のフランス語を楽しんで読みたい。

【講義計画】 さまざまなタイプの文章が入った教科書を毎回1章ずつ進む。

【評価方法】 平常点ならびに学期末試験による。「欠席過多」を適用。

【テキスト】 朝比奈 誼『『読み』のポイント——初級から中級へ』第三書房

ドイツ語

哲学と音楽と文学の国であるドイツ、その言語であるドイツ語は、ドイツ・リートとシャンソンを比べてみればすぐ分かるように、男性的な言語という印象を与えるでしょう。イタリア人の歌手が高らかに朗唱すると、ドイツの歌はまるで別物になってしまい、たとえばクリスマス・ソングの「樅の木」(Oh, Tannenbaum, Oh, Tannenbaum...)にしてもドイツ人が歌って、はじめて深い精神性が感じられるのです。

その結果、ドイツ語は、一般に固い、難しいというイメージを伴っているようです。しかし、ドイツ語の響きの力強い美しさは、少しドイツ語を始めればすぐその魅力の虜になるほどのものです。

文法の構造は、実に明快かつ論理的で、分かりやすく、文法を「憶える」のではなく、「理解しよう」という姿勢をもって取り組みさえすれば、1年を経ずして、一人歩きができるようになります。つまり、辞書さえあれば、文学作品でも、新聞でも、雑誌でもある程度自分で読めるようになるのです。

言語はその言語を母語とする文化へのパスポートです。ドイツ語ができるということは、バッハもベートーベンもモーツァルトもワーグナーも、シェーンベルクも、あるいはシューベルトの歌曲も、直接触れることができる、ぐっと身近なものになる、ということです。ゲーテ、シラー、トーマス・マン、ヘッセ、カフカ、グラス、エンデなどの作家の作品もドイツ語で読み、聞くことができ、哲学者のカントやショーペンハウアーやニーチェも、意外にすぐ、身近な存在になるかも知れません。

ヨーロッパの中心に位置し、東と西の中間の国ドイツは、東ヨーロッパへの影響力が大きく、かつ西ヨーロッパを経済的にも科学技術の高さによってもリードしています。かつまた、環境に対する行政や企業や市民の意識の高さも世界で群を抜いていることは、周知の事実です。また、プラントやヴァイツゼッカーのような高潔な政治家の存在については、皆さんもよく知っているでしょう。経済や、技術や、政治を支えているのは、それをにう人間がそれによって思考する言語です。ドイツ語がその文化のすべての創造性を支えている基礎なのです。

やがて、統一ヨーロッパの中心となるドイツ。しかもなお、「ドイツのヨーロッパ」ではなく、「ヨーロッパのドイツ」であることを目指す、政治的理性を備えた国が、戦後ドイツであり、その理性を支えるのが、ドイツ語なのです。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05501 05511	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法・作文〔独〕	必	1	各1	前期 後期	生野 芳徳
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 ドイツ語の文法の基礎知識と運用能力を養うことがこの授業の目的である。

ドイツ語は、文法構造が極めて分かりやすく、合理的であるので、単に記憶しようとするのではなく、理解しようという態度で、取り組んでください。

文法構造を把握することで、自立的な勉強が可能になります。言わば、地図を手にして一人で初めての街を歩くことができるように、文法構造を理解していれば、辞書を片手にドイツ語の世界を一人歩きできるようになります。

道案内の先生の後にくっついて、いつまでもよろよろ歩きをしてはいけません。

【講義計画】 前期：

1. 少なくとも、付加語形容詞の語尾変化までの名詞的変化をしっかりと理解して身につけること。
2. 動詞の現在人称変化、主文の語順、助動詞を用いた場合の語順
3. 動詞の格支配、前置詞の格支配、話法の助動詞、動詞の過去人称変化
4. 現在完了形

後期：

1. 副文の構造（従属接続詞、関係代名詞）
2. 複合時称（まとめ）
3. 接続法

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05521 05531	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読〔独〕	必	1	各1	前期 後期	生野 芳徳
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 科目名称は、「講読」であるが、「文法・作文」の授業と同一の教科書を用いて、まず初歩文法の基礎を固めることを第一の目的としながら、読解力と運用能力の育成を計る。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05601 05651	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（文）	選・必	1	各1	前期 後期	柴田 庄一
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語の初級から中級レベルの項目をひと通り学習する。正確な発音、辞書の引き方、読解の方法の習熟等、演習が中心となるので予・復習は必須。

【評価方法】 期末試験ならびに平常点による。

【テキスト】 柴田庄一『話せるドイツ語』（朝日出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05602 05652	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（文）	選・必	1	各1	前期 後期	小坂 光一
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語の基本を学びながら、ドイツ語会話への導入を図る。音声を中心に練習するので、自宅学習よりも授業中の練習が大切であることに注意すること。従って授業欠席は好ましくない。

【講義計画】 前期は現在、過去、未来を意味する表現を中心にして勉強する。
後期は前置詞、形容詞、従属節などを使用した表現を学ぶ。

【評価方法】 平常の授業における練習状態（平常点）及び期末テストにより評価する。

【テキスト】 小坂光一著『対話でドイツ語』（同学社）
推薦参考書『マニュアルドイツ語ABC』（郁文堂）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05611 05661	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（外）	選・必	1	各1	前期 後期	清水 純夫
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 英語と比較対照したテキストを使用して、発音から接続法に到るまでのドイツ文法を解説と演習を通じて修得させる。

【評価計画】 ドイツ語Ⅰ
 1. 発音、冠詞
 2. 動詞の現在形
 3. 不規則動詞
 4. 名詞の複数形
 5. 分離動詞
 6. 人称代名詞
 7. 再帰動詞

 ドイツ語Ⅱ
 1. 形容詞
 2. 数詞
 3. 比較級・最上級
 4. 助動詞
 5. 関係代名詞
 6. 受動態

7. 接続法

【評価方法】 筆記試験と平常点、出席などを総合して評価する。

【テキスト】 大岩信太郎、「英語対照ドイツ文法14時間（改訂版）」三修社。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05621 05671	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（経）	選・必	1	各1	前期 後期	島 田 了
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語の基本文法を、わかりやすく練習問題の豊富なテキストを使って、項目ごとに丁寧に確実に解説していきます。毎時間練習問題をできる限り多くの参加者に担当してもらいます。
一年間の授業で基本的な文法を習得し、辞書を使えば、ドイツやオーストリアなどの新聞やTV、そしてインターネット上の簡単な記事を読めるようにしたいと思っています。そのためにもドイツ語だけではなく、現代のドイツやオーストリアなどの社会や文化に対する理解を深めるような説明も盛り込んでいく予定です。

【講義計画】 具体的には、以下に示すテキストの文法項目をひとつひとつわかりやすく丁寧に解説して進めていきます。
(前期) (後期)
ドイツ語概説 人称代名詞、再帰代名詞
アルファベット、発音 話法の助動詞
動詞の人称変化 過去形
格変化 完了形
前置詞の使い方 受動態
名詞の複数形 形容詞、副詞の比較変化
冠詞とそのなかま 関係文
形容詞 接続法（仮定法、間接話法など）
分離動詞

【評価方法】 定期試験（筆答）のほか、出席や課題など授業への参加状況を総合的に評価します。

【テキスト】 在問進『わかって楽しいドイツ語』（三修社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05631 05681	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（営情）	選・必	1	各1	前期 後期	大庭 正春
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 この授業の目標は、「講読」の授業と並行し、ドイツ語の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4能力の養成を図るために、それらの基礎となる文法事項の習得である。また随時紹介するドイツ語圏の社会と文化についての考察を深める。

【講義計画】 この授業で習得する項目はおもに、(1) 発音、(2) 動詞の現在人称変化、(3) 名詞と冠詞の格変化、(4) 名詞の複数形、(5) 人称代名詞、(6) 前置詞、(7) 形容詞の格変化、(8) 動詞の3基本形、(9) 複合動詞、接続詞、(10) 話法の助動詞、(11) 複合時称、(12) 再帰動詞、(13) 受動態、(14) 関係代名詞、(15) 接続法などである。

【評価方法】 平常点と学期末の筆記試験

【テキスト】 大庭正春：『ドイツ文法 くもりのちはれ』（三修社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05632 05682	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（営情）	選・必	1	各1	前期 後期	柴田 庄一
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語の初級から中級レベルの項目をひと通り学習する。正確な発音、辞書の引き方、読解の仕方等々、演習が中心とするので予・復習は不可欠である。

【評価方法】 期末試験ならびに平常点による。

【テキスト】 柴田庄一『話せるドイツ語』（朝日出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05641 05691	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ文法（法）	選・必	1	各1	前期 後期	中嶋 忠宏
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 言葉の文法から文化の文法へ！

【講義内容】 ドイツ語の文法学習が、たんに文法規則や語法の習得に終わらないよう配慮したい。ドイツ語を話す人たちの社会、歴史、文化、生活様式などにも目を向けて、ドイツ人の考え方やドイツ語的な発想のしかたも学ぶ。

【講義計画】 前期終了までに受講生全員がドイツ文を自由に発音できるようになることを第一目標として、音声練習を欠かさず行う。前期で現在時制の範囲での基本的な文法事項の学習をほぼ終了させるので、たとえば簡単な自己紹介といったような初歩的なことがなら、みずからドイツ語で表現できるようになるはずである。
後期では、前期で学んだ知識を基礎に、さらに過去形や完了形、受動態、接続法等の学習に進み、ドイツ語文法の体系的な学習を完成させる。

【評価方法】 毎回の授業を重視し、授業への出席状況、授業中の学習態度、定期試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 小阪清行他著『ドイツ文法の森』（第三書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05642	ドイツ語Ⅰ文法〔再〕	選・必	1～4	1	後期	生野 芳徳
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 開講時期は、後期ですが、なんらかの理由で前期分の単位を取得できなかった人のための授業ですから、内容は、本来前期に学習すべき範囲です。（登録手続きは、前期の登録時でも、後期の登録変更によってもかまいません。）

基礎的な文法構造の理解と運用能力を身につけてもらうことを主眼とする。

1. ドイツ語初歩文法の中で、もっとも太い骨である名詞的变化（定冠詞類、不定冠詞類、名詞の格変化、付加形容詞の格語尾）
2. 動詞については、現在および過去人称変化
3. 主文の語順（話法の助動詞など助動詞を用いた構文を含む。）、副文の語順（定動詞後置）

【講義計画】 ドイツ語は文法構造が極めて論理的で分かりやすい言語であるから、その仕組みを理解してもらうように努める。履修者は、丸暗記をするつもりでなく、「なぜこうなっているのか」と考えて、理解するように努めてください。そうすると、かなりの部分で、「なるほど」と納得が行くはずです。（もちろん、記憶すべきことは、確実に記憶しないと理解が成立してゆきませんが。）

直接扱う文法事項は、大体上記のとおりですが、全体的に概観を持ってもらうために、それ以外の関連部分にも触れることがあります。

丁寧な説明と、多くの練習を心がけます。

【評価方法】 授業中の小テストと期末試験を主として、授業中の積極的な参加度を考慮に入れます。(教科書の購入は、後期登録時に第一研究棟4階の独文合同研究室へ申し込んで下さい)

【テキスト】 在間 進「現代ドイツ文法」初級篇(三修社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05701 05751	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読(文)	選・必	1	各1	前期 後期	横 田 忍
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ビデオを使った教材で、基本的な読解力・会話力を身につけたい。
ドイツ語圏の様々な情報も、ビデオやプリントなどで提供する。

【評価方法】 出席、試験などの総合評価。

【テキスト】 『ハロー・ミュンヘン——コンパクト・バージョン』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05702 05752	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読(文)	選・必	1	各1	前期 後期	石 井 賢 治
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 講読の授業ですが、文法事項も必要最小限まとまりよく盛り込んだ読本を選んでみました。読章の内容はある程度会話にも慣れるように選ばれています。この教科書を用いてドイツ語の世界に入っていっていきましょう。要するに文法の基礎知識+読解+会話を少々といった授業です。

【講義計画】 まず文法事項の解説から始まり、場合によっては関連する練習問題をやり、その後読章に入ります。

【評価方法】 定期試験を中心に、小テスト、質疑応答や出席も考慮し総合的に評価します。

【テキスト】 川村宣元・H.H. アルバ『北ドイツのある町でードイツ語初級総合教材ー』同学社 1999 ￥2,300

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05711 05761	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読(外)	選・必	1	各1	前期 後期	松 浦 順 子
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語の基本の基(き)を勉強します。
ごく日常的な会話テキストによって、理解することと表現の仕方を学ぶ。
基礎的な文法事項の整理をしながら、対話練習、作文練習によって、更に理解力と表現力の向上をめざす。
前期・後期と継続する。

【講義計画】 各課は、会話テキスト、文法説明、対話・表現練習の問題から成る。
簡単な挨拶から始まって、次第に複雑な文へ、最後に書き言葉の文章へと進む。
ドイツ語の音とリズムについては課を進めながら練習し身につけるようにする。
文法の進度は次のようになる予定。

前期：動詞の現在時称の基本的な変化；文の組立
 名詞と冠詞をめぐる基本的な規則、変化形と文の中での役割
 動詞の変化；前置詞
 動詞（複合動詞）を中心とした文の形、熟語
 話法の助動詞
 後期：動詞の時称の変化形と時間の表現
 形容詞、副詞；比喩
 従属文の表現
 関係文
 受動態
 接続法の動詞の変化とその使い方（間接話法；条件法）

【評価方法】 授業への参加度および筆記試験の成績

【テキスト】 『Dialogードイツ語へのキックオフVer.3』近藤 他著 郁文堂

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05721 05771	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読（経）	選・必	1	各1	前期 後期	大庭 正春
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 この授業の目標は、「文法」の授業と並行し、ドイツ語の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4能力の養成にあり、特に発音練習に重点を置く。また随時紹介するドイツ語圏の社会と文化についての考察を深める。

【講義計画】 この授業では、テキスト、文法事項、練習問題から構成された初級用文法読本の教科書を使用し、特に発音練習とともにテキストの理解につとめ、ドイツ語の背景にある生活文化なども理解しながら学習を進める。

【評価方法】 平常点と学期末の筆記試験

【テキスト】 小島基：『身近なドイツ！』（第三書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05731 05781	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読（営情）	選・必	1	各1	前期 後期	島 田 了
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 文法、講読、ヒアリング、会話などの内容のバランスのとれたテキストを使い、授業を進めていきます。まず基礎的な文法の確認をし、語彙の充実と表現力を養うことを目標に、文法に関連した内容の会話や作文の練習問題をできる限り多く解いていきます。そして関連した読解テキストの録音を繰り返して聞き、耳による内容の理解を試み、そのうちテキストを丁寧に読み、総合的な理解力の養成をはかります。またドイツ語だけではなく、現代ドイツやオーストリアなどの社会や文化に対する理解を深めるような説明も盛り込んでいく予定です。

【講義計画】 具体的には、以下に示す文法項目に関連した表現、読解問題を中心にテキストを進めていきます。

（前期）	（後期）
ドイツ語概説	動詞の三基本形
アルファベット、発音	過去人称変化
動詞の現在人称変化	完了形
名詞の性と冠詞	受動／再帰動詞
格変化	zu不定句／現在分詞
形容詞の用法	関係代名詞
話法の助動詞	命令法
分離動詞	接続法
副文	

【評価方法】 定期試験のほか、出席や課題など授業への参加状況などを総合的に評価します。

【テキスト】 大谷弘道・大谷ウルブラ『新・問いかけるドイツ語』（三修社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05732 05782	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ講読（営情）	選・必	1	各1	前期 後期	横 田 忍
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 文法進度に合わせた講読テキストを用い、基本的な読解力をつける。
ドイツ語圏のさまざまな情報も、ビデオやプリントなどで紹介する。

【評価方法】 出席・試験などの総合評価。

【テキスト】 『バイエルンの町と芸術』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05742	ドイツ語Ⅰ講読〔再〕	選・必	1～4	1	後期	生 野 芳 徳
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 開講時期は、後期ですが、なんらかの理由で前期分の単位を取得できなかった人のための授業ですから、内容は、本来前期に学習すべき範囲です。（登録手続きは、前期の登録時でも、後期の登録変更によってもかまいません。）
基礎的な文法知識を、会話文を含む簡単なテキストを用いて具体的な運用能力として身につけてもらうことが主眼です。

【講義計画】 正しい発音とイントネーションを身につけてもらうように、多くの口頭練習を行いました、文構造の理解を計るために読解の練習も重視します。同時に、日本語をドイツ語の表現に置き換える練習も行います。基礎的な語彙をしっかりと身につけてもらうために、単語や言い回しも小テストでチェックします。教材との関連において、ドイツ語圏の文化や日常生活についての情報も提供します。

【評価方法】 授業中の小テストと期末試験を主として、授業中の積極的な参加度を考慮に入れます。

【テキスト】 大谷 弘道「新・問いかけるドイツ語」（三修社）（教科書の購入は、後期登録時に第一研究棟4階の独文合同研究室へ申し込んで下さい。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05801 05811	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法（全）	選	2～4	各1	前期 後期	石 井 賢 治
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 文法のおさらいと、読解力の養成、プラスαとして聴解力の訓練。

【講義計画】 文法解説と練習問題で文法をおさらいしながら、読み物を読んでいます。
練習問題の解答は聞き取りの練習用として編まれているので利用します。

【評価方法】 定期試験を中心に、小テスト、質疑応答や出席も考慮し総合的に評価する。

【テキスト】 阿部雄一『失われた夢－2年目の文法読本－』同学社 1999 年 ￥1,600

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05802 05812	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法（全）	選	2～4	各1	前期 後期	橋 本 裕 明
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 現代ドイツが直面している社会的問題をテーマごとに学びながら、ドイツ語の文法を習得する。テーマとしては、通貨統合、コンピュータ化、遺伝子工学、ボランティア活動、少子化などを扱う。授業では補助的にテープを用い、さらに資料を配布する。

【講義計画】 1 年次の文法を基本から接続法までひとつとおり復習しながら、より高度な文法を種々の読み物を使って学習する。

【評価方法】 前期・後期ともに試験の成績により評価する。

【テキスト】 小塩節『時事テーマで学ぶ 初級ドイツ語読本』（朝日出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05821 05831	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ講読（全）	選	2～4	各1	前期 後期	岸 田 芙 美 子
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツの各地の話題を平易なドイツ語で書いたテキストを読みます。ただ単に訳読するだけでなく、テープとビデオを使って聞き取り練習を繰り返してテキストの内容を把握する練習をします。

- 【講義計画】
- 1 テキストは必ず予習しておくことを前提とします。
 - 2 ビデオを数回繰り返し見ます。
 - 3 テープを聞いて発音の練習をします。
 - 4 テキストの意味を確認します。
 - 5 再びビデオを数回見ます。
 - 6 テキストの穴埋め問題をします。
 - 7 テキストの内容に関する質問にドイツ語で答えます。

【評価方法】 期末試験だけでなく授業中の練習問題による成績によっても評価します。

【テキスト】 川畑篤弘編『見て聞くドイツ』（郁文堂）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05822 05832	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ講読（全）	選	2～4	各1	前期 後期	林 田 雄 二
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 一年生で習得したドイツ語についての基礎的な知識を基にして、
 1 ドイツ語を朗読する能力。（テキスト解釈、発音、アクセント、イントネーション）
 2 ドイツ語を話す能力（ドイツ語の運用能力）を高める。
 文法の説明は、上記の目的に必要な最小限に限られる。ドイツ語テキストの読解能力をつけたい者には、この授業は適さない。

【評価方法】 講義内容をみてもわかるように、授業への積極的な参加は絶対条件である。受講者数にもよるが、出来るだけ授業態度を評価の中心にすえ、学期末テストは、評価の参考にとどめたい。

【テキスト】 プリント使用。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05841 05851 05861 05871	ドイツ語Ⅴ～Ⅷ	選	3・4	各1	前期 後期	伊藤 秋男
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 平易なテキストを用いて、まずドイツ語の文章が、自分なりに読めるように訓練します。テキストを日本語に置きかえて理解するときでも、文法にはこだわらず、文意がわかれば、目的のひとつが達成できたものとみて、どんどん先へ読むようにします。このような講読を各授業時間の後半に行います。その前半は、簡単に実用的なドイツ語会話の訓練にあてる予定です。

1年間のドイツ語の勉強を終えた学力の皆さんであれば、十分学習できる内容です。

【講義計画】 予習を前提とした出席が望ましいのですが、予習ができていなくてもできるだけ出席するように努力して下さい。ドイツ語を見て、耳で聞く時間を費やすことが、ドイツ語学習の第一歩と考えるからです。

【評価方法】 筆記または口答試験の成績と平常の努力点などを総合して評価します。

【テキスト】 やさしいテキストを選ぶ予定です。書店の掲示を見て下さい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06001 06011	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法〔西〕	必	1	各2	前期 後期	高橋 寛二
他の科目 との関連				履 修 対象学科	西	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の運用能力を、高校1年生の英語の水準まで高めるために必要とされる文法力、単語力をつけることを目標とする。

【講義計画】 初心者向けの12課構成の教科書を使用して、前期には、現在、過去、未来の単純な事柄を表わすことができる文法力。後期には複合時制と仮想の事柄を表わす表現を学ぶ。学習程度を確認するために頻繁に小試験を行なう。11月末までに教科書は終わる予定である。その後は読み物を文法的に読んでいく。

【評価方法】 小試験と定期試験を総合的に判断する。

【テキスト】 『はじめてのスペイン語』（第三書房）
『現代スペイン語辞典 改訂版』（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06002 06012	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法〔西〕	必	1	各2	前期 後期	大岩 勉
他の科目 との関連				履 修 対象学科	西	重 複 履 修 不可

【講義内容】 現代スペイン語のアルファベット・発音から接続法過去完了までの基本的文法事項の説明が講義内容となります。

【講義計画】 4月：アルファベット・母音・子音・アクセント・主格
人称代名詞・直説法現在・名詞の性・数・冠詞・数詞
5月：形容詞・与格、対格人称代名詞・Serとestar・語幹
母音変化の不規則動詞・再帰動詞・無人称文
6月：直説法現在完了・過去分詞・直説法点過去・所有形容詞
比較表現・直説法線過去・関係詞
7月：現在分詞・直説法未来・直説法過去未来
これだけの内容を学べば「4ヶ月でスペイン語がかなり分かるようになる」ことを意味します。

9月：接続法の概念
 10月：接続法の用法・命令法・直説法過去完了・未来完了・過去未来完了
 11月：プリント教材による文法事項の理解
 12月：同上
 1月：同上

【評価方法】 定期試験、出席情況、授業態度・小テストなど総合評価。

【テキスト】 「現代スペイン語文法改訂版」大岩・高橋（白水社）
 「現代スペイン語辞典」（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06021 06031	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ講読〔西〕	必	1	各1	前期 後期	川田 玲子
他の科目 との関連				履 修 対象学科	西	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語文法の学習内容に合わせて授業を進めていく。講読のための基礎づくりを目標とする。

【講義計画】 前期ははじめてのスペイン語講読となるため、練習用の簡単な文章を読む。言葉および構文を確実に覚えるために各章の全文を暗記する。後期は、前期に引き続き簡単な文章を読むが、その他に新聞や雑誌などの記事にも目を通していく予定である。

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 第一回目の授業で指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06022 06032	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ講読〔西〕	必	1	各1	前期 後期	木 下 登
他の科目 との関連				履 修 対象学科	西	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の基本文法を学習した後で、スペイン語文の読解を始めます。その際、文法の知識を確実に身につけるべく復習を重ねつつ進みます。

【講義計画】 前期には「現代スペイン語文法」を通して、スペイン語文法を詳しく学びます。後期には「スペイン語の手紙」にある様々な例文を読むことにより、スペイン語文法を確実に身に付けていきます。

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 大岩勉・高橋寛二「現代スペイン語文法」（白水社）
 木下登「スペイン語の手紙」（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06041 06042 06051 06052	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文〔西〕	必	1	各1	前期 後期	Cárdenas, Abel
他の科目 との関連				履 修 対象学科	西	重 複 履 修 不可

【講義内容】 El objetivo primordial de estos dos cursos es el desarrollo de la expresión escrita en español de los estudiantes de nivel de principiantes. Basándose en el hecho de que casi todos los estudiantes que entran al Departamento de Estudios Hispánicos se inician en el estudio del español como lengua extranjera, en todas las clases los alumnos hacen

uso de los conocimientos lingüísticos que obtienen en los cursos de conversación, gramática y lectura para realizar una gran variedad de actividades de expresión escrita.

【評価計画】 Entre las actividades de expresión escrita que los estudiantes llevan a cabo individualmente y en parejas y grupos se incluyen los siguientes :

1. Llenado de formas impresas
 - 1.1 formas migratorias
 - 1.2 formas de registro en hoteles
 - 1.3 formas de solicitud de información
 - 1.4 formas de matrícula
 - 1.5 formas de información personal
2. Redacción de recados y mensajes
 - 2.1 Solicitud de ayuda o información
 - 2.2 Invitaciones a un evento o actividad
 - 2.3 Explicaciones de ausencia a clase
 - 2.4 Instrucciones para llegar a casa y la universidad
3. Redacción de cartas simples
 - 3.1 Presentación personal
 - 3.2 Descripción de la familia
 - 3.3 Descripción de la universidad y las actividades escolares
 - 3.4 Descripción de los pasatiempos y el tiempo libre
 - 3.5 Descripción de hábitos y rutinas
4. Planeación y elaboración de un periódico sobre los miembros de la clase y el departamento de español
 - 4.1 Presentación de todos los miembros de la clase
 - 4.2 Presentación de los profesores del departamento de español
 - 4.3 Descripción de las diferentes asignaturas

【評価方法】 La evaluación final del curso es una integración de los siguientes elementos : asistencia a clase, participación activa, tareas y proyectos, y examen final.

【テキスト】 POR ESCRITO, actividades de expresión escrita Abel Cárdenas

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06101 06151	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法(文)	選・必	1	各1	前期 後期	大 岩 勉
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 全学共通科目の外国語科目としてのスペイン語Ⅰ・Ⅱのこの授業では、現代スペイン語の基本部分を理解できるよう講義を進めていきます。1年間の授業により、辞書さえあれば、新聞、雑誌などのスペイン語がなんとか分かるレベルまで到達していただきます。

【講義計画】 4月から7月までの前期の授業では発音からスタートして、名詞の性・数、直説法現在・冠詞・形容詞・与格、対格人称代名詞・serとestar・語幹母音変化の不規則動詞・直説法現在完了・再帰動詞までが説明される。

9月から1月までの後期は直説法点過去・比較表現・直説法線過去・関係詞・現在分詞・直説法未来・直説法過去未来・接続法などについて学びます。

【評価方法】 定期試験、出席状況・授業態度・小テストなど総合評価。

【テキスト】 「はじめて学ぶスペイン語」大岩・パボン・高橋(第三書房)
「現代スペイン語辞典」(白水社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06102 06152	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法(文)	選・必	1	各1	前期 後期	加 藤 隆 浩
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 スペイン語文法の初歩から始め、中級に進めるだけの実力を養成する。

【評価方法】

前期	後期
アルファベットと発音	未来形
アクセント	過去未来
名詞の性と数、形容詞	関係詞
定冠詞と不定冠詞	接続法
人称代名詞	接続法現在
規則動詞と不規則動詞の直説法現在	接続法過去
再帰動詞	命令形
点過去	
線過去	
分詞と完了形	

【評価方法】 4 課ごとに行う小テストと定期テストの総合点で評価。

【テキスト】 大岩勉・高橋寛二編『現代スペイン語文法（改訂版）』白水社。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06111 06161	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（外）	選・必	1	各1	前期 後期	安 原 毅
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の初等文法を解説する。他の会話・作文の授業と合わせて一年間で完結する。

【講義計画】

前期	1. 名詞、形容詞 2. 動詞：規則活用と不規則活用 3. 人称代名詞
後期	1. 前期の復習 2. 再帰動詞 3. 過去形、未来形 4. 接続法

【評価方法】 筆記テキストによる。

【テキスト】 岡田辰雄『スペイン早わかり チェックテスト』三修社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06112 06162	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（外）	選・必	1	各1	前期 後期	古 川 垂矢
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の基礎的な文法事項を理解し、習得することを目標とします。

【講義計画】 前期は、発音、冠詞・名詞・形容詞の性数一致、動詞の直説法現在形の正しい活用と用法を中心に学びます。後期は主に、現在形以外の時制と接続法を学びます。

【評価方法】 出席状況と筆記試験

【テキスト】 木下登、角田哲康、カルメン・パボン著『メディア・ナランハ』（大学書林）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06121 06171	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（経）	選・必	1	各1	前期 後期	江澤 照美
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の初級文法の習得をめざす。テキスト使用。

【講義計画】 前期
スペイン語について
アルファベット
文法（第1課～第9課）
後期
文法（第10課～第19課）

【評価方法】 年2回実施する試験及び平常評価により判断する。

【テキスト】 飯野昭夫『第2語学のスペイン語』（第三書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06122 06172	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（経）	選・必	1	各1	前期 後期	Goicoechea, Elena
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語を通して、スペインとイスパノアメリカの文化を学ぶ。

【講義計画】 教材の講読、論述と会話。

【評価方法】 出席と予習を重視する。

【テキスト】 *Español en Directo* NIVEL 1A

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06131 06181	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（営・情）	選・必	1	各1	前期 後期	木 下 登
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の初級文法を学ぶことを主たる目標とする。学習効果向上の一助として、知識確認の小試験を随時行う。

【講義計画】

1. スペイン語文法の概要
2. 名詞、冠詞、形容詞
3. 人称代名詞、Serとestar
4. 動詞（直説法現在）、指示代名詞、所有形容詞
5. 再帰動詞、無人称文、無主語文
6. 過去分詞、現在完了、受け身、感嘆文
7. 形容詞（比較、最上級）
8. 現在分詞、Hacer
9. 動詞（点過去、線過去）
10. 動詞（未来、過去未来）、関係詞
11. 動詞（過去完了、未来完了）
12. 動詞（接続法：現在、現在完了、過去、過去完了）

【評価方法】 期末試験の成績にスモールテストと出席等を加味して評価する。

【テキスト】 『メディア・ナランハ』(大学書林)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06132 06182	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法(営・情)	選・必	1	各1	前期 後期	宮下 克子
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 初級スペイン語文法を学ぶ。簡明で練習問題の豊富なテキストを用い、基本的な文法の事項を全て修得する。

【講義計画】

- 1 単母音、単子音
- 2 注意すべき綴り字、アルファベット
- 3 音節、強勢、アクセント記号、主格人称代名詞
- 4 国と国民、つながり動詞、形容詞
- 5 名詞と冠詞、名詞と形容詞の語順、存在文
- 6 動詞“tener”、時刻、週、月
- 7 規則動詞(-ar、-er、-ir)
- 8 不規則動詞(querer、poder等)
- 9 不規則動詞(ir、venir、poner等)
- 10 所有詞、指示詞
- 11 比較級、最上級
- 12 直接目的語、間接目的語、直接・間接目的格人称代名詞
- 13 “gustar”型の動詞、前置詞格人称代名詞、前置詞
- 14 序数詞
- 15 再帰動詞
- 16 点過去
- 17 線過去

【テキスト】 『新世代のスペイン語』(El español de la nueva generación) 入門編 福駕教隆著 くろしお出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06141 06191	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法(法)	選・必	1	各1	前期 後期	佐竹 謙一
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 基礎文法中心のテキストを使用し、一年間で文法を習得できるよう授業をすすめていきたい。テキストには練習問題や短い読み物があるが、必要に応じてプリントによる補足説明も行う。

【評価方法】 定期試験(後期のみ辞書持ち込み可)

【テキスト】 S. Yamazaki, Paseo por Latinoamérica (芸林書房)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06142 06192	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法(法)	選・必	1	各1	前期 後期	川田 玲子
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 初心者を対象とした初歩の文法を学習し、「辞書を使えば簡単な文章は読める」を到達目標とする。

【講義計画】 使用テキストは、18 課で構成されており、前期・後期それぞれ9 課ずつこなしていく予定である。前期は動詞の直説法現在形他、名詞・形容詞・目的格代名詞などを学習する。後期は直説法のふたつの過去形および未来形、過去未来形、接続法の現在形・過去形といった動詞の活用がおもな学習内容となる。

【評価方法】 宿題の提出、小試験および定期試験の総合点による。

【テキスト】 宮本博司著『ようこそスペイン語の世界へ——ミニ会話と初級文法 (Bienvenidos al Mundo Español)』(大学書林)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06201 06251	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(文)	選・必	1	各1	前期 後期	伊藤 ゆかり
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の基本文法を学び、自分の考えを正しく表現することを目指します。

【講義計画】 基礎的文法事項を確認しながら、テキストの文章を読み、練習問題を解いていきます。その後、様々な日常的場面を想定した会話や語彙を学習し、各自の類似した会話、作文を作ってもらいます。

【評価方法】 定期試験、提出物、出席状況などを総合評価します。

【テキスト】 木下登、角田哲康、カルメン・バボン著『メディア・ナランハ』(大学書林)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06202 06252	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(文)	選・必	1	各1	前期 後期	安 原 毅
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の初心者を対象に、日常的な会話の基礎を練習してもらう。

【講義計画】
前期 1. 名詞、形容詞
2. 動詞：規則活用と不規則活用
3. 人称代名詞
後期 1. 前期の復習
2. 再帰動詞
3. 過去形、未来形
4. 接続法

【評価方法】 筆記テスト。

【テキスト】 岡田辰雄著『スペイン語早わかり チェックテスト』三修社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06211 06261	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(外)	選・必	1	各1	前期 後期	芝 修 身
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 やさしいスペイン語を口頭と筆記で行えるようになることを目指す。受講者は十分予習してくる。テキストは *Curso Elemental de Español* (第三書房) を使用。辞書は『現代スペイン語辞典』(白水社) を使用。第一回目の授業の前に購入しておくこと。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06212 06262	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（外）	選・必	1	各1	前期 後期	江澤 照美
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 スペイン語の初級文法の習得をめざす。テキストを使用する。

【講義計画】 前期
 スペイン語について
 アルファベット
 テキスト（Lección 1～Lección 7）
 後期
 テキスト（Lección 8～Lección 16）

【評価方法】 年2回実施する試験及び平常評価により判断する。

【テキスト】 宮本博司「簡約スペイン文法（改訂新版）」（*Compendio de gramática española*）大学書林

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06221 06271	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（経）	選・必	1	各1	前期 後期	古川 亜矢
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 スペイン語の基礎文法を学びながら、平易な文章を正しく組み立てられるようにします。

【講義計画】 前期は主に、冠詞・名詞・形容詞の性数一致と動詞（直説法現在形）の人称変化を学びながら、比較的短い文章を作ります。後期は、現在形以外の時制を取り入れた文章を組立てます。

【評価方法】 出席状況と筆記試験

【テキスト】 木下登、角田哲康、カルメン・パボン著『メディア・ナランハ』（大学書林）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06222 06272	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（経）	選・必	1	各1	前期 後期	宮下 克子
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 スペイン語での作文を中心に学ぶ。テキスト及びプリントを用い、スペイン語で日常的な事象を表現できるよう練習する。

【講義計画】 1 アルファベット、発音
 2 Buenos días（あいさつ）
 3 Yo soy Taro Oka（名前の言い方、国籍、職業の言い方）
 4 ¿Eres estudiante?（疑問文の作り方）
 5 Yo soy Pilar.（名詞の性）
 6 ¿Qué es eso?
 7 Somos japoneses.（名詞の複数形の作り方）
 8 Yo soy alegre.（主語の代名詞、動詞serの用法）
 9 Este diccionario es bueno.（指示形容詞）
 10 El señor López es de Madrid.（定冠詞）
 11 Hay una mesa blanca.（hayの用法）
 12 España está en Europa.（動詞estarの用法）

- 13 Hay una librería grande. (hayとestar)
 14 Hay una conferencia. (冠詞)
 15 Estoy nervioso. (estar＋形容詞、ser＋形容詞)
 16 ¿Cuál es tu padre?
 17 ¿Cómo están sus padres?

【テキスト】 *Somos amigos 1* (楽しいスペイン語1) 佐藤玖美子著 芸林書房

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06231 06281	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(営・情)	選・必	1	各1	前期 後期	Montero, Ascensión
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語を発音から会話に重点を移して実践的な勉強をする。会話練習・作文を通して慣用表現・語彙・基礎的な文法などを学ぶ。スペイン語圏の日常生活や文化も紹介する。予習・復習・毎回の出席を特に大切にしたい。

【講義計画】 毎回教科書どおりに会話をする。会話のテープを聞き、文法、ドリル練習をする。時々ビデオも使う。

【評価方法】 出席日数と授業態度と試験の点数で評価する。

【テキスト】 *Viaje en español* San Miguel, I. y Rey, F. (白水社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06232 06282	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(営・情)	選・必	1	各1	前期 後期	高橋 寛二
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語圏へかけて、最小限の意志疎通ができるだけの運用能力をつけることを目標とする。文法の授業と連携をとりながら、会話や作文、あるいは易しいスペイン語文を読む。

【評価方法】 授業態度と定期試験を総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06241 06291	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(法)	選・必	1	各1	前期 後期	F. Rey
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語会話の基礎を勉強します。日常生活に必要な挨拶や表現、語彙、基礎的な文法などを、会話練習をすることにより身につけてもらいます。
 活発にクラスに参加してください。スペインの文化も紹介します。

【講義計画】 毎回教科書どおりに会話、文法、練習問題、読書とバランスのよい教材を使用します。
 会話のテープを聞きます。
 時々ビデオを使います。
 会話を覚えさせて皆さんの前で実演します。

【評価方法】 出席日数と授業態度と試験の点数で評価します。

【テキスト】 *Viaje en Español* : San Miguel, I. y Rey, F. (白水社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06242 06292	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（法）	選・必	1	各1	前期 後期	遅野井 茂雄
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 基礎文法に基づき、平易なスペイン語の作文を行う。

【評価方法】 小試験、定期試験、平常点

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06294 06296	スペイン語Ⅲ・Ⅳ会話（全）	選	2～4	各1	前期 後期	Goicoechea, Elena
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 Complementar lo aprendido en Primer curso y a la vez conocer España y Latinoamérica.

【講義計画】 Lectura, escritura y conversación.

【評価方法】 Se tendrá en cuenta la asistencia a clase y la preparación de la misma.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06301 06311	スペイン語Ⅲ・Ⅳ講読（全）	選	2～4	各1	前期 後期	有本 紀明
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 文化の違いを越えて

【講義内容】 テキストは全15課からなる異文化体験です。語彙と構文は基本的なものに限られ、時制は直説法が主になります。各課で初歩の文法項目を復習しながら、日本とスペインの文化の“衝突”を考えてみましょう。

【講義計画】 1時間に1課の割合で進みます。後期は新聞、雑誌からのプリントを配付することも考えています。

【評価方法】 期末試験、出席率等で評価する。

【テキスト】 『文化の違いを越えて』E・アマット（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06501 06521	ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ文法（全）	選・必	1	各1	前期 後期	富野 幹雄
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 ブラジル・ポルトガル語

【講義内容】 主としてブラジルにおいて使われているポルトガル語文法の基礎を学ぶ。

【講義計画】 一応の目安として、辞書があれば、平易なポルトガル語の文章を読んだり、簡単な日常会話ができるよ

うになることを目標としている。

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 『ポルトガル語の基礎』（大学書林）とプリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06541 06561	ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ作文（全）	選・必	1	各1	前期 後期	丸山 めぐみ
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 現在ブラジルで使われているポルトガル語の基礎的な会話・作文の習得を目指す。
 会話については、挨拶するだけで終わるのではなく一歩踏み込んで必ず一言話せるようにする。日本語の五十音に当てはめた発音から脱皮してブラジル人が聞いてわかるポルトガル語が話せるように正しい発音の習得を目指す。
 作文については、簡単な文章表現で自己紹介が出来るようにする。
 会話にはヒアリング力が必要不可欠です。そこで、本講義ではテープやビデオを頻繁に使用するようになっています。

【講義計画】 ビデオを見ること、テープを聞くこと、プリントを読むことを通し、ポルトガル語の基礎的な文章表現を学ぶ。さらに、ブラジル・ポルトガル語が話されている国、ブラジル、そしてポルトガル語の発祥の地、ポルトガルについての地理や歴史、文化を共に学んでいきましょう。

【評価方法】 平常点、口頭、および学期末テストの成績による。出席も重視する。

【テキスト】 石田エルザ・神保充美著、『仕事に役立つブラジルポルトガル語』（大学書林）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06621 06631	ポルトガル語Ⅲ・Ⅳ会話（全）	選	2～4	各1	前期 後期	丸山 めぐみ
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 現在ブラジルで使われているポルトガル語を中心に、より高度な会話・作文の習得を目指す。
 会話については、人の話を聞いて自分の意見を言えるようにする。自分から話しかけることができるようにする。
 作文については、自己紹介にとどまらず新聞記事やプリントの内容に対する自分の意見などを述べられるようにする。
 言葉を話すには、自分の中に確かな知識や考え、意見を持っていることが大切です。そういう意味でポルトガル語を通して様々なことを共に学んでいきましょう。

【講義計画】 ビデオを見ること、テープを聞くこと、プリントを読むことを通し、以下のテーマについてポルトガル語で共に学んでいく。
 ①ブラジルの文化
 ②ブラジルの音楽
 ③ブラジルのスポーツ：サッカー、F1 など
 ④ブラジル・アマゾンの森林

【評価方法】 平常点、及びレポート、出席も重視する。

【テキスト】 石田エルザ・神保充美著、『仕事に役立つブラジルポルトガル語』（大学書林）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06641 06651	ポルトガル語Ⅴ・Ⅵ（全）	選	3～4	各1	前期 後期	富野 幹雄
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 外国語学部講義概要参照（科目コード：32725、32727）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06661 06671	ポルトガル語Ⅲ・Ⅳ講読（全）	選	2～4	各1	前期 後期	富野 幹雄
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 外国語学部講義概要参照（科目コード：32721、32723）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07001 ～ 07331	中国語Ⅰ～Ⅷ（会話・語法）		1～4	各1	前期 後期	西 林 鄧 陳 陳 張 王 許 秋 中 西 原 植 明 兆 志 静 元 岡 田 偉 鮮 秀 麗 平 萱 岩 敏 子 史 淳 枝 直
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 中国には50を超える民族が生活しており多様な言語を使用しています。その中で人口の9割以上を占める漢民族の言語はこれを「漢語」といいます。しかし、広大な中国大陸のことですから、「漢語」と一口にいても地域差が非常に大きく、漢民族同士でも方言圏が異なれば意思の疎通は全く不可能といつてよいでしょう。そこでつくり出されたのが標準語です。北京の言葉に基づいたもので、ラジオやテレビ、学校などを通じ全国に普及しています。これを「普通話」といいます。また、「国語」とか、「華語」などといったりもしますが、台湾や香港、シンガポールなどにおいても標準語は広く用いられています。われわれの学ぶ中国語とはこの標準語なのです。

中国語Ⅰ・Ⅱにおいては、初歩的な会話力および語法の基礎知識の修得をめざします。Ⅲ・Ⅳにおいては、中国語の基礎学力を既に有する者にたいして、検定4級程度の水準到達を目標とします。Ⅴ～Ⅷにおいては、口語能力を中心に総合的な学力の向上をはかります。

ラテン語

ラテン語LINGUA LATINA

Ⅰ．“HOMINIS DIGNITATI.” 訳順→「①人間の ②尊厳のために」

南山大学のモットーを表すラテン語です。英語では、“For Human Dignity.” と言います。南山大学のモットーくらいは、必ず「ラ・英・日」の3か国語で発音できるように覚えておきましょう。

G棟ロビーの壁には、他にもいろいろなラテン語文が書いてあります。

(1) “PAX IN ORBE TERRARUM” 「地上に平和あれ！」

(2) “SPIRITUS EST QUI VIVIFICAT” 「生かすものは霊である」

- (3) “IN DEO UNIVERSA SUNT CONDITA” 「すべては神によって造られた」
 (4) “VIA VERITAS VITA” 「道・真理・生命」
 (5) “VITAM IMPENDERE VERO” 「真実のために命をかけよ」
 (6) “LEX LIBERTATIS, LEX AMORIS” 「自由の法は、愛の法」

以上のラテン語文については、「ラテン語Ⅰ」および「基礎ラテン語Ⅰ」の授業中に、『学生生活案内』（南山大学・教育理念の解説も掲載）を利用しながら、順次、文法的にも説明します。

Ⅱ. ラテン語のすすめ 現代のラテン語事情

(1) ラテン語は「広域文化言語」

ギリシャ語と並んで「西洋・古典語」(the classical languages) と呼ばれているラテン語は約75BC～175ADまで文法や文学中心に発展し、その後、「俗ラテン語」(Vulgar Latin「口語ラテン語」)として欧州全体に広まっていき、今日に至っています。

正しい認識を持たない人々からは「死語」だと誤解されて、「いまだき、ラテン語なんて、なんの役に立つの？」とよく言われます。ラテン語は、現代欧州諸言語の源であるばかりでなく、実際に、今も生きていて実際に使われている「広域文化言語」なのです。実際、インターネットで「ラテン語のニュース」(Nuntii Latini)が毎日流され、入手できます。

カトリック教会では新聞「オッセルヴァトーレ・ロマーノ」をはじめ、すべての公文書が、現代諸言語と共に今でもラテン語版で発行されています。“CATECHISMUS CATHOLICAE ECCLESIAE” (発音表記：『カテキスムス・カトーリチュ・エクレージエ』、意味：『カトリック教会の教え』、邦訳は未完、仮訳)という、とても分厚い(940頁以上)「新しい教理の本」(ラテン語・規範版)が、昨年初、ヴァチカンから出版されました。

南山大学はカトリック系のミッション・スクールとして、ラテン語学習の機会を全学生に提供しています。

(2) EU (欧州連合15か国) および欧米・大学等の現状

EU (欧州連合15か国) では長年の準備の末、「通貨統合」が実現し、11ヶ国の共通の通貨単位Euro (ユーロ) を使用することになりました。これに関連して「共通言語」採用も再検討され、中世期の終わり頃まで欧州の「共通言語」として使用されていた「ラテン語」の使用も検討された、といった話題も伝わってきました。結局、ラテン語は不採用になったようですが、このように、西洋の人々にとって、今も使われているラテン語は、私たちの東洋の「古典」や「漢文」以上に、中学・高校時代から学んだ言語であり、とても「親しみのある言語」なのです。いくつか、具体例をあげてみましょう。

①ドイツでは、ある大学のラテン語研究季刊誌“VOX LATINA”は、全部ラテン語で、年に4回出版され、②フィンランドではラテン語のラジオ・テレビ番組が放送されています。最近のイタリア語新聞「スペッタコリ」(Spettacoli)には、ギターを手にしたあのロック歌手エルビス・プレスリー (Elvis Presley) の写真入りで、ラテン語に翻訳された彼の歌がフィンランド人歌手ジュッカ・アモンド (Jukka Ammondt) によって歌われたというヘルシンキ発の記事を掲載していました(97年8月13日号)。欧州にはラテン語の分かる人が、それだけ大勢いるわけです。③フランスでは主人公“ASTERIX GALLUS”が活躍する漫画本・シリーズが19巻まで1980年代以降続々と出版され、ディズニー漫画「ドナルド・ダック」“DONALDUS ANAS”、「ミッキー・マウス」“MICHAEL MUSCULUS”、「スヌーピー」“SNUPIUS”などもわざわざラテン語で出版され、今も愛読されています。④アメリカの大学では、カセット・テープ付きで編集された新しいラテン語教材もできています。

南山大学・図書館には、すでに出版されているラテン語関係図書(文法書・辞書・参考書等)が日本語・英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語版で「開架図書棚」にたくさん並べられています。

(3) 日本のラテン語事情

日本では、ラテン語の研究者・専門家による「文法書」は新旧・大小合わせて15～20冊くらいはあるでしょう。「辞書」は「羅和辞典」(研究社)の1冊くらいです。南山大学では、毎年、4科目開講しています。世界がますます多言語社会になっていくこの時代にあって、西洋・諸言語の源であるラテン語を、大学時代に学んでおくことは、特に語学に興味がある人々、将来、語学を駆使する職業(海外派遣宣教師、教員、通訳、翻訳、ガイド等)を志望する人々にとって、意味のあることだと思います。このことについて、以下、ラテン語の例文を使いながら具体的に説明し、履修をすすめておきたいと思います。

Ⅲ. ラテン語の例文と現代社会の具体例。

(1) “Studium linguae latinae est utile descendae linguae anglicae.”

訳順→「②勉強は ①ラテン語の ⑤役に立つ。 ④学ぶために ③英語を」

和訳→「ラテン語の勉強は、英語を学ぶために役に立つ」

英語は7000語以上の単語をラテン語から受け取り、今もそのまま使っていますが、そのことはあまり知られていないようです。その語源や由来を知るだけでも楽しいものです。現在のEUよりも広範囲だったローマ帝国(27BC、Augustus Caesarにより建設され、395ADに東西に分裂した)領土内で「主要言語」として使用されていたラテン語(インド・ヨーロッパ語族系の言語)が「親」となり、近隣地方の言語と混じり合いながら「ロマンス語」(Linguae Romanae, the Romance Languages.)といわれる「子どもたち」、つまり「フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語、ルーマニア語」、などを生み出しました。したがって、この「親子・姉妹」は顔も形も(語彙も文法も)よく似ているわけです。

たとえば「学校」という単語一つ取ってみても、一目瞭然です。上記の言語順に並べると、école (フ)、scuola (イ)、escuela (ス)、secola (ボ)、scoala (ル)、となり、ゲルマン語系のドイツ語Schule、英語schoolも、みなラテン語schola経由の「借用語」です。これはギリシャ語スコレー (σχολή=skhole、元の意味は、①停止・休息・余暇、→②余暇にすること、子どものための勉強や訓練など、→③そのための場所としての「学校」など多義にわたる単語)まで語源をたどることができます。

またラテン語は、中世の教会や大学を中心に、長い間、宗教・神学・哲学・文学・天文学・音楽・教育・法学・医学・生物学など、広範な分野の「専門用語」として用いられ、1500年代より今日まで、「近代ラテン語」として、主に学問・研究分野等で活躍してきました。

そして今、日本でも、化粧品名のイプサ (Ipsa)、石鹸のラックス (Lux) をはじめ、最先端技術製品名 (コンピューター Computer、ファクシミリ Facsimile)、日本車の名前 (Rex, Integra, Vigor, Familia, Gloria, Corona, Celsior, Ipsum 等々) の中に「語源としてのラテン語」が生きていて盛んに使われています。このように現代西欧諸言語の源、文化の担い手としてのラテン語は、今もなお語学を学ぶ人々だけでなく、多くの人がとによって興味の尽きない「すてきな言語」“fantastic language” なのです。

(2) “Studia adolescentian alunt, senectutem delectant.” (Cicero 106 ~ 43BC)

訳順→「①勉強は②青年を③養い、④老年を⑤楽しませる」(この文章は、和訳の語順も全く同じになる！)

2000年以上も昔のローマの哲学者・雄弁家・政治家キケロのこの言葉のように、ラテン語の勉強はただ単に「学生時代」に語源的な知識や理解を深め興味を増すだけではありません。格言、名言、聖書の言葉、ラテン語の音楽鑑賞などにより身につけた「豊かな教養」をもとにして、将来、「社会人」として、さらには熟年・老年期を迎えても、ラテン語文獻と付き合うことで、きっと心豊かな楽しい日々を過ごすことができるでしょう。

最近、「社会人講座」とか「生涯学習」という言葉が定着してきたようですが、実際、定年退職したお父さんや、子育ての終わったお母さんが、数年前から熱心にラテン語も聴講しています。余暇のある大学生の皆さんのなかで「意欲的な人」には、ラテン語に親しむことをすすめます。3・4年次生で時間割にゆとりがある人、大学時代にしか学べないものを搜している人に、「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」(月・木の7・8時限)の履修をすすめます。ただし、1年生で英語以外の語学(フランス語・ドイツ語・スペイン語)を必修科目としている学生は、まずそれに全精力を注ぐほうがよいでしょう。ちなみに、神学科・1年生は「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」が必修科目です。最初から、しっかりと気合を入れて励んでください。

(3) “Gutta cavat lapidem, non vi, sed saepe cadendo.”

訳順→「①水滴は、⑥穴をあける、⑤石に、②力ではなく、③度々、④落ちることによって」

格言→「水滴、石をも穿つ」

時々、「語学の勉強のこつは？」と尋ねられますが、ラテン語の勉強には手取り早い方法や「近道」などはなく、試験直前の「一夜漬」などもききません。まさに、上記の格言どおり、水滴のように繰り返し同じことをやること、つまり「小さな努力」の積み重ねが大切です。毎日、興味をもって、積極的に、少しずつ繰り返し、繰り返し努力していけば、1年終了時点で、きっと「初志貫徹の喜び」を味わうことでしょう。このことを、昔の人は簡潔に、しかも巧みに言っています。“Repetitio est mater studiorum.”「反復は勉強の母なり」、と。

(4) “Non scholae, sed vitae discimus.” (Seneca 4 BC ~ AD65)

訳順→「①学校のためではなく、②人生のために、③われわれは学ぶ」

和訳→「われわれは学校のためではなく、人生のために学ぶ」

ローマの哲学者でネロ皇帝の師でもあったセネカのこの言葉は、大学での勉強にもあてはまるのではないのでしょうか。「何のために」学ぶのか、「目的意識」を持って、自覚して取り組むことです。自分の気に入る科目とか、今の自分に「役に立つもの」、卒業に必要な科目や単位だけを拾い集めて、1460日という限られた大学4年間を終えることもできます。しかし、今、役に立つものが、将来、必ずしも役に立つとは限りません。逆に、今、役に立たないと思われたものが、案外、あとで役に立つかもしれません。

(5) “Una hirundo non facit ver.”

訳順→「①一羽のツバメ、③作らず、②春を」(ラテン語の諺)

英語→“One swallow does not make a summer.”(春のかわりに夏という。仏・独語にも同様の表現あり)。南山大学にも、毎年、たくさんの中入生と共に、夏の使者ツバメもやって来ます。この諺の通り、「ツバメが一羽飛んで来て、すぐに春(日米では夏)とはならない」のです。この意味するところを、仏・独・西・ラテン語のような「未修得・語学」の学習に応用してみると、新しい言語を学び始めて、「単語一つくらい分かったからといって、その言語が全部分かったことにはならない」(「知ったか振り」をするな!)という意味になります。語学の勉強は、実に奥が深いものです。「この諺の意味は、厳しいなあ〜」とある大学生も苦笑していました。

(6) 最後に、神学科生の皆さんに一言

神学科の1年生のラテン語(4単位)は「必修科目」です。卒業資格獲得のための必修科目は、他にもたくさんあります。ラテン語が勉強したくて神学科を志望した人は、稀かもしれません。いずれにせよ、神学科生は少なくとも1年間、ラテン語を学習し、必要単位を取得しないと卒業資格が与えられません。

学生には、「一を聞いて十を知る」(ラテン語で“verbum sat sapienti.”「賢い人にはひと言で十分」)というほどの語学力が備わっている人も、稀です。常に予習・復習に心がけて、提出課題レポート作成等にも正直に対応する、謙虚な勉強態度が不可欠です。単語や文法を学びながら、授業で取り扱う種々の文獻、聖書、古代ローマの哲学者・思想家の深い洞察に満ちたラテン語の言葉が、自分の生活や人生にとって「有益なヒントになるのだ」という学習態度で励んでください。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07501 07511	ラテン語Ⅰ・Ⅱ（文法・講読）		1～4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目 との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」または「（中級）Ⅰ・Ⅱ」を履修するための前提科目。			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得を目指して

【講義内容】 ・講義は教科書中心。参考書、辞書を活用、基礎知識の習得を目指す。
・教科書以外の資料は、随時、プリントにして使用する。
・基礎知識習得のため、4～5回、課題レポートの提出を求める。

【講義計画】 前期。「ラテン語Ⅰ 文法・講読」（2単位）
・ラテン文法の基礎論（p.1～81）
・課題レポートの提出を求める。
・南山大学の教育理念（HOMINIS DIGNITATI、他6つのラテン語文）の解説。
「ラテン語の歌」の鑑賞、その歌詞に関する文法や語彙の理解。
・英語の単語や日常用語について、その語源や由来の再発見。
・Reaction Paperの提出。授業に関する質問、感想、提案等。
（同時にこの提出用紙で、毎回、出欠を確認する）
後期。「ラテン語Ⅱ 文法・講読」（2単位）
・ラテン文法の文章論（p.84～191）
・ラテン語文献について、時々、課題レポートの提出を求める。

【評価方法】 ・出欠をとる。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多（S）」による不合格とする。
・課題レポート、出欠状況、期末の筆記試験等をもとに総合的に評価する。

【教 科 書】 『ラテン文法』中央出版社（サンパウロと1995年4月より社名変更）

【辞 書】 田中秀央『羅和辞典』研究社

【参 考 書】 大西英文『はじめてのラテン語』講談社現代新書

【注意事項】 ・神学科は必修科目。「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」の未履修者は、卒業できないので、1年生の時から、勉学・課外活動等の優先順位を守って、賢明に行動するように！
・教科書・辞書・参考書は大学構内・紀伊國屋書店で販売期間中に各自で購入しておくこと。売り切れの場合は、個人的に、係の人に追加注文すること。
・「ラテン語Ⅱ 文法・講読」の履修は、「ラテン語Ⅰ 文法・講読」の合格者に対してのみ認める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07521 07531	ラテン語Ⅲ・Ⅳ（文法・講読）		2～4	各2	前期 後期	〇・カバラル
他の科目 との関連	「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」または「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」の履修完了のみ。			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 ラテン語の文献講読コース

【講義内容】 神聖ローマ皇帝の公文書局の交付したラテン語の書類、中世法学者が演じた卒業演説、公証人が制作したラテン語の書類等を解説し、流暢な日本語の翻訳を試みるコース。様々なラテン語文献に接し、ラテン語（又はその文明）の知識を深める。

【講義計画】 「ラテン語Ⅲ」「ラテン語Ⅳ」とも共通のやり方で行う。
文法書と辞書を使用して、各受講者、分担箇所の文献解説を試みる。
各授業の初めに、前課に出た単語のテストを行う（5分くらい）。
各受講者は、一箇所（一つのテキスト）の担当者に成って、期末にそのテキストの翻訳を提出し、他の各受講者の評価を受ける。長いテキストの場合、二人で最終的翻訳の責任を負うこともできる。

【評価方法】 出欠をとる。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超える場合、当該授業科目の成績を「欠

席過多 (S) による不合格とする。

出席状況、各授業のテスト、期末に提出した翻訳の評価（他め学生評価をも含めて）に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】 テキストはプリント資料にして配布する。

【文 法 書】 「ラテン文法」中央出版社。（しかし、他の文法書を使用しても構わない）

【辞 書】 田中秀央「羅和辞典」研究社。（しかし、他の辞書を使用しても構わない）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07541 07551	基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ（文法・講読）		1～4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目 との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」または「（中級）Ⅰ・Ⅱ」を履修するための前提科目。			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得を目指して

【講義内容】 教科書、LATIN（LATINUM、アメリカの大学の教材）、カセット・テープ付き。
発音の練習もしながら、ラテン語と英語の関連で、常用語句・略字・動詞の語源・人名・法律・教育・医学・宗教用語等を学ぶ。そして、有名なラテン語の引用句および諺等も、辞書と文法書で読解していく。

【講義計画】 「基礎ラテン語Ⅰ」「基礎ラテン語Ⅱ」とも、共通のやり方で行う。
・文法書、『ラテン文法』中央出版社を使用する。
・南山大学の教育理念（HOMINIS DIGNITATI、他6つのラテン語文）の解説。
・「ラテン語の歌」の鑑賞、その歌詞に関する文法や語彙の理解。
・英語の単語や日常用語について、その語源や由来の再発見。
・Reaction Paperの提出。授業に関する質問、感想、提案等。
（同時にこの提出用紙で、毎回、出欠を確認する）

【評価方法】 ・出欠をとる。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多 (S)」による不合格とする。
・課題レポート、出欠状況、期末の筆記試験等をもとに総合的に評価する。

【教 科 書】 テキストは、プリント資料にして配布する

【文 法 書】 『ラテン文法』 中央出版社

【辞 書】 田中秀央『羅和辞典』研究社

【参 考 書】 大西英文『はじめてのラテン語』講談社現代新書

【注意事項】 ・教科書・辞書・参考書は、大学構内・紀伊國屋書店で販売期間中に各自で購入しておくこと。売り切れの場合は、個人的に、店の人に追加注文すること。
・「基礎ラテン語Ⅱ 文法・講読」の履修は、「基礎ラテン語Ⅰ 文法・講読」の合格者に対してのみ認める。

ギリシャ語

古代ギリシャ語といっても、時代によってかなりの相違がありますが。ギリシャの古典及びキリスト教文献が著されギリシャ語全体を総称する名称だと考えて下さい。

「地中海世界」のコミュニケーションは、このギリシャ語で行われました。アレクサンドロス大王が統一した東地中海世界は、やがてローマ帝国によって吸収されて、一大文明（ヘレニズム）世界へと発展しました。前八世紀頃から、本の意味でのギリシャ古典といわれる叙事詩や叙情詩がありますが、しかし、この段階では、ギリシャ語はまだ地域によってかなりの差がありました。前五世紀以降になって、アテナイがギリシャ文化の中心となり、他の地域のギリシャ語を取して、いわゆる古典ギリシャ語を形成しました。ギリシャ語の国際化は、アレクサンドロス大王の遠征と共に始まりました。ギリシャは前二世紀以降、ローマ人の勢力下に置かれていましたが、ギリシャ語は「地中海世界」の共通語でした。元後一世紀に著述された新約聖書が、ギリシャ語で書かれているのも、その証拠です。実に、古代ギリシャ語で、世界学の古典といわれる多くの作品が残されています。古代ギリシャ語の習得はその広い世界を開いてくれる重要な鍵であります。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07601	基礎ギリシャ語Ⅰ文法・講読	選	1～4	2	前期	岡 崎 才 蔵
他の科目との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【副 題】 ギリシャ語初歩

【講義内容】 この講義の目的は、今から2千年以上前の古代ギリシャで使用されたギリシャ語の文法を一通り習得することにある。現代の多くの学問が古代ギリシャに起源をもつことを考えれば、神学、哲学だけでなく様々な学問を専攻する人たちにとって、古典ギリシャ語の初歩を学ぶことは非常に有益であろう。できるだけ多様な学問領域の人たちによる受講を期待する。

【講義計画】 下記のテキストに沿って進める。文法の項目ごとに説明を行い、その知識をもとに練習問題を実際に解いてもらう。特に前期は、ギリシャ語のもっとも基礎的な部分を扱うことになるので、より複雑な内容を学ぶ後期へのステップとして、確実な知識の習得が要求される。

【評価方法】 とくに出席を重視する。

【テキスト】 田中美知太郎・松平千秋『ギリシャ語入門』（岩波書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07621	基礎ギリシャ語Ⅱ（文法・講読）	選	1～4	2	後期	栗 林 広 明
他の科目との関連	Ⅱの履修には、Ⅰの履修が前提とされる。			履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ヨーロッパの文化にとってギリシャは古典であり、したがってヨーロッパ発の学問をやろうとする人はギリシャ語の知識を持っていると有利である。また、ギリシャ語で書かれたもの（文学、歴史、哲学、聖書など）自体に興味のある人もいるだろう。このような人のために、前期に続けて、基本的な文法事項を学び、そして簡単な文章を実際に読んでみたいと思う。

【講義計画】 前期の復習。（すでに習得した技を維持する）
新しい文法事項の学習。（新しい技を身につける）
文章を読む。（これらの技を携えて練習試合に挑む）

【評価方法】 日頃の授業に取り組む姿勢を重視。

【テキスト】 田中・松平『ギリシャ語入門』（岩波）、また授業時にプリントを配る。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09001	日本語A	選	1	8	通年及び 夏期集中	伴 紀 子 坂 本 正 大塚 容子
他の科目 との関連				履 修 対象学科	全	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本語が不足している留学生及び帰国子女を対象とした日本語教育である。大学での専門別の研究には、1) 講義が理解できること、2) 論旨の整った、ある程度の長さのレポートが書けること、3) 専攻分野の専門書が読めること、などの言語能力が必要である。このような能力を伸ばすことを目標に長文作文および長文読解に重点を置く。受講者の専攻がかなり異なるので、教材はテーマや使用語彙の偏りをさけるために中庸のものを使用する。

この日本語履修に関しては、「外国人留学生の授業科目履修に関する特例」を参照のこと。

【講義計画】 1. 各種の文型を用いて、長文作文練習をする。
2. 専門文献を選んで、読解発表を行う。
3. 試験解答、レポート、論文など改まった表現の書き方を学ぶ。

【評価方法】 試験、口頭発表、提出物等で総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。

教職及び
博物館に関する科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09301 09302	教育原論A (a) ・ A (b)	随	2	各2	前期	松原 眞志夫
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 教育とは何か、その意義と役割について理解を深めるために、学校教育の目的、内容、制度等を概観する。

【講義計画】 講義では以下の内容について順次取り上げていく予定である。
 ○意図的な人間形成としての教育
 ○教師の役割
 ○学校教育の目的
 ○学校教育の内容と方法
 ○教育制度と学校
 ○学校経営の諸問題

【評価方法】 学期末のテストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 別途指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09303	教育原論A (c)	随	2	2	前期	梅村 敏郎
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 教育の目的に関する哲学的、社会思想的考察や教師及び学校教育に係わる法規の概説を行い、教職に対する使命感、責任感の涵養を図る。

【講義計画】 講義は次のような構成になる予定である。
 1. 教育原論とは何か。
 2. 人間はなぜ子どもを教育するのか。
 3. 何が教育の目的を規定するのか。
 4. 中等教育を中心とするわが国の近代学校の教育目的。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09305 09306	教育原論B (a) ・ B (b)	随	2	各2	後期	荻原 克巳
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 教授方法、学習指導、生活指導、特別活動、学級経営、教師論など、多くの事例を交えながら、「教育経営・実践」を中心に講義する。

【講義計画】 ○学習指導（・学力とは何か・教育課程と教科書や教材・学び方を学ばせる・授業技術の要素と授業の構造・学習過程と指導案・集団学習と個別学習の教育的意義・相対評価と絶対評価）
 ○生活指導（・生活指導の意義と内容・生活指導の組織と計画・生活指導の方法・家庭や地域社会や関係機関との連携）
 ○教育の経営（・新しい学校経営論・学校経営の概念・学校経営の三要素・学校経営の基本原理・校長の職務の重点・学校経営の機能・校務分掌・教職員の研修・学校経営と学級・学級経営）

○教師（・教育過程と教師・教育における人間関係・理想的教師像と現実的教師像・教職と教養及び身分）

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 教師養成研究会編『教育原理』（学芸図書株式会社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09307	教育原論B（c）	随	2	2	後期	梅村 敏郎
他の科目との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 教育制度の基本的な構造とその社会的な機能の概略を説明するとともに、学習指導や生徒指導を行っていくうえで実際に必要とされる知識や技能について講義する。

【講義計画】 講義は、先進諸国の学校制度の比較と教育課程の問題を中心とする予定である。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09311	教育実習指導（教育実習を含む）	随	4	3	通年 集中	荻原 克巳 松原 眞志夫
他の科目との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 教育実習にあたり、教育者としての基本的な態度・技能を身につけるための指導である。
具体的には、実習に対する心構えと、観察・参加・実習を通じての教育理論や実践に関する基礎的能力を養うことを目指す。

【講義計画】

- 教育実習の意義
- 教師養成と教育実習
- 4年次生による教育実習体験談
- 教育実習の心得
- 教育実習の形態（観察・参加・実習）
- 教育実習の内容（学校経営・学校の組織・生徒の理解・教育課程・学習指導・道徳と特別活動・生徒指導と学級経営・学校の施設と環境・教師としての勤務）
- 教育実習の実践（教材研究・授業・学習指導案・授業研究・道徳や特別活動や生活指導の実践）
- 学習の評価
- 本学OBの現職教員による校種別・教科別実習指導
- 教育実習事後指導（実習体験をふまえ、あらためて「教育」や「教師」について考える。）

【評価方法】 実習校の評価を重視し、出席も配慮して評価する。

【テキスト】 教師養成研究会編『教育実習の研究』（学芸図書株式会社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09321	学校教育心理学A（a）	随	3	2	前期	宮川 充司
他の科目との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【副 題】 発達と学習の心理学

【講義内容】 学校教育に関連する事項として重要な人間発達の基礎、学習の過程についての基礎を、学校教育現場の現状や子どもたちの実像と重ね合わせながら、学んでいく。

【講義計画】 次の内容を順次取り上げていく。
 人間の発達とは何か
 人間発達の基礎・遺伝と環境・発達の区分・研究法
 生涯発達の段階として位置づける児童期・青年期
 最近の学校と子どもたち
 学習と学校教育
 学習の基礎・学習意欲・学習指導法

【評価方法】 学期末試験、及びレポートによる。

【テキスト】 宮川充司、坂西友秀、大野木裕明（編）『児童・生徒の発達と学習』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09322 09326	学校教育心理学A (b) ・ B (b)	随	3	各2	前期 後期	石田 裕久
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義は教員免許状の取得に必要な教職専門科目として開講されるものである。学校教育心理学A (c) (前期) では、出生から青年期に至る心身の成長と発達を跡づけるとともに、学校教育心理学B (c) では、「学習」の諸過程について理解を深めることによって、教育指導・方法にかかわるさまざまな問題について理解することを目的とする。

【講義計画】 学校教育心理学A (c) (前期) では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を知的発達、心理社会的発達、自己意識の発達という3つの側面からたどるとともに、教育（学習の過程）と発達のかかわりについて解説する。また、学校教育心理学B (c) (後期) では、知能・学力・性格などの理解を踏まえて、教育の方法や技術・評価の在り方についての講義を行なう。

【評価方法】 前期・後期とも定期試験期間中に筆答による論述試験を行なう。また、授業内容に関わるレポート提出を求めることがある。

【テキスト】 神谷育司他（編）「発達と教育の心理学」協同出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09323	学校教育心理学A (c)	随	3	2	前期	神谷 俊次
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 人間の心身の発達について理解を深め、教育との関連について考える。

【講義計画】 以下の内容を取り上げる。
 (1) 発達と教育
 (2) 遺伝と環境
 (3) 発達過程
 (4) 発達理論
 (5) パーソナリティーの理解と診断
 (6) 適応と障害
 (7) 学校のメンタルヘルス

【評価方法】 レポート及び学期末テストによる。
 レポート課題：新聞から教育に関わる記事を取り上げ、その出来事に対する各自の意見をまとめる（2、3回）。
 筆記試験：講義で取り上げた事柄に関する記述形式の試験を行う。

【テキスト】 別途指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09325	学校教育心理学B (a)	随	3	2	後期	宮川 充司
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 教育の方法と技術

【講義内容】 学校教育と授業方法にかかわる基礎的な事項を、最近の学校教育の現状・変化と重ね合わせながら、教育活動の科学的理解と対処法を学んでいく。

【講義計画】 次の内容を順次取り上げていく。
最近の学校教育を巡る変化・学習スペースのオープン化・学習の個別化・学校の情報化
授業のデザインと学習指導
マルチメディアとコンピュータ
教育評価とテスト

【評価方法】 学期末試験、及びレポートによる。

【テキスト】 大野木裕明、森田英嗣、田中博之『教育の方法と技術を探る』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09327	学校教育心理学B (c)	随	3	2	後期	神谷 俊次
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 学校教育と関わりの深い「学習」やその成果をどのように「評価」するのかなどについて理解を深める。

【講義計画】 以下の内容を取り上げる。
(1) 学習の基礎
(2) 情報処理モデル
(3) 知識と理解
(4) 動機づけ、学習意欲
(5) 知能と学力
(6) 学習指導法
(7) 授業設計、授業研究
(8) 教育工学（情報機器の活用）
(9) 教育評価

【評価方法】 レポート及び学期末テストによる。
レポート課題：新聞から教育に関わる記事を取り上げ、その出来事に対する各自の意見をまとめる（2、3回）。
筆記試験：講義で取り上げた事柄に関する記述形式の試験を行う。

【テキスト】 別途指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09331 09332	道徳教育の研究 (a) ・ (b)	随	4	各2	前期	荻原 克巳
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 道徳の基本的な問題としての社会化と人格化について種々の側面から検討する。
また、教育全体の中での道徳教育の意義や使命について論及し、その理解を図る。

【講義計画】 ○学習指導要領の改訂と道徳教育
○道徳教育の目標
○道徳教育の基本的な在り方
○道徳性の発達と道徳教育
○道徳の時間の目標
○道徳の内容（内容構成の考え方・内容の取扱い）
○内容項目の指導の観点（自分自身に関すること・他の人とのかかわりに関すること・自然や崇高なもののかかわりに関すること・集団や社会とのかかわりに関すること）
○「道徳の時間」と「全教育活動」における指導
○指導案と指導過程の工夫
○道徳教育と資料の活用
○道徳における評価

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 文部省編『中学校指導書－道徳編－』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09333	道徳教育の研究（c）	随	4	2	前期	梅村 敏郎
他の科目との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 子どもを「道徳的に善い」人間に育成するために、教師は何をしなければならないか、そこにはどんな問題が含まれるかを考察する。

【講義計画】 講義の構成は次のようなものになる予定である。
1. 道徳教育とは何か。
2. 「道徳的に善い」とはどういうことか。
3. 道徳教育の心理学的側面。
4. わが国の近代学校の道徳教育。
5. まとめ

【評価方法】 評価は筆答試験によるが、試験問題は事前に公表する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09334	道徳教育の研究（d）	随	4	2	後期	梅村 敏郎
他の科目との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 20世紀に入ってから道徳教育の理論としては、デュルケームやデューイのものが古典的名声を得ているが、このコースではそれ以後の優れた道徳教育論を取り上げて、それを正確に読むとともに、その解説を試みる。

【講義計画】 この学期には、R. S. Peters、Reason and Habit：The Paradox of Moral Educationを取り上げる予定である。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09341 09342	生徒指導論 (a) ・ (b)	随	3	各2	前期	松原 眞志夫
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 「社会化」という観点から、児童・生徒の積極性、協調性といった社会的・対人的態度の形成、および学級内の望ましい人間関係育成のための具体的方策について論じる。また、進路指導の問題や同和教育についてもふれる。

【講義計画】

- 生徒指導の意義と課題
- 生徒指導の原理（生徒指導の基礎としての人間観・自己指導の助成のための方法原理・集団指導の方法原理・援助や指導の仕方に関する原理・組織や運営の原理）
- 青年期の心理と生徒指導（青年期の意義・青年期の心理的特質・適応と精神的健康）
- 生徒理解（生徒理解の考え方・生徒理解のための資料・生徒理解の留意点）
- 生徒指導と教育課程
- 学校における生徒指導体制
- 教育相談（教育相談の方法・教育相談の限界と他機関との連絡）
- 生徒指導と学級担任の教師
- 学校における非行対策
- 生徒指導と社会環境
- 同和教育

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 別途指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09345 09346	教科外指導論 (a) ・ (b)	随	3	各2	後期	松原 眞志夫
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義計画】 教育活動以外の特別諸活動の意義や目標についてふれ、自主的・実践的な社会的態度の育成や望ましい人間関係の在り方、そのためのグループ活動の方法や配慮等について具体的に解説する。

【評価方法】

- 特別活動の目標
- 特別活動の基本的な性格（特別活動の教育的意義・特別活動の内容相互の関連・特別活動と各教科や道徳等との関連）
- 学級活動（学級活動の特質・活動内容・指導計画の作成・指導上の留意事項）
- 生徒会活動（生徒会活動の特質・活動内容・指導上の留意事項）
- クラブ活動（クラブ活動の特質・活動内容・指導上の留意事項）
- 学校行事（学校行事の特質・活動内容・指導上の留意事項）
- 特別活動の授業時数
- 入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取扱い
- 特別活動の指導を担当する教師
- 障害者教育（特殊教育）

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 文部省編『中学校指導書－特別活動編－』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09351 09355	英語科教育法 A(a)・B(a)	随	3	各2	前期 後期	松 本 青 也
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 今や英語は国際共通語とさえ言われ、極めて便利で何をするにも不可欠な言語とされている。しかし「英語教育」を考えると、英語の効果的な教育方法を考えるだけで終わってはならない。日本人にとって「英語」がどんな意味を持っているのか、そして学校「教育」の中で、それはどんな内容を期待されるのかまでを含めて考える必要がある。受験科目の一つとしてほとんど無意識に学んできた「英語」を、今度は教える立場から、しげしげと眺めてみたいものである。

【講義計画】 <前期>
 1～3：目的論：問題提起
 コミュニケーション能力 学習指導要領
 学校英語教育の目標 国際理解
 4～7：技能論：4 技能
 8～14：方法論：
 教授法の歴史（日本、外国）
 外国語教授理論 新しい教授法
 指導過程の構成
 <後期>
 1～4：授業評価（観察と討議）
 5～13：教授法演習（実演と討議）
 14：まとめ：これからの英語教育

【評価方法】 前期：テスト（小論文を含む）
 後期：教案および授業

欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多(S)」による不合格とする。

【テキスト】 松村幹男監修『英語科教育の理論と実践〈理論編〉』（現代教育社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09352 09356	英語科教育法 A(b)・B(b)	随	3	各2	前期 後期	松 本 青 也
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【講義内容】 今や英語は国際共通語とさえ言われ、極めて便利で何をするにも不可欠な言葉とされている。しかし「英語教育」を考えると、英語の効果的な教育方法を考えるだけで終わってはならない。日本人にとって「英語」がどんな意味を持っているのか、そして学校「教育」の中で、それはどんな内容を期待されるのかまでを含めて考える必要がある。受験科目の一つとしてほとんど無意識に学んできた「英語」を、今度は教える立場から、しげしげと眺めてみたいものである。

【講義計画】 <前期>
 1～3：目的論：問題提起
 コミュニケーション能力 学習指導要領
 学校英語教育の目標 国際理解
 4～7：技能論：4 技能
 8～14：方法論：
 教授法の歴史（日本、外国）
 外国語教授理論 新しい教授法
 指導過程の構成
 <後期>
 1～4：授業評価（観察と討議）
 5～13：教授法演習（実演と討議）

14：まとめ：これからの英語教育

【評価方法】 前期：テスト（小論文を含む）
後期：教案および授業

欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多(S)」による不合格とする。

【テキスト】 松村幹男監修『英語科教育の理論と実践〈理論編〉』（現代教育社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09353 09357	英語科教育法A (c) ・ B (c)	随	3	各2	前期 後期	松 永 隆
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 英語のスキルを、listening・speaking・reading・writingの順番で取り上げ具体的な指導方法や言語活動の組み立てかたを、講義と演習形式で学んでいきます。教授法や学習理論など理論的な学習で終わることなく、ビデオなどを活用し具体的な指導技術を学び、できる限り現場の教師になったつもりで、模擬授業を数回行ってもらいます。この際、新学習指導要領も参照しながら、中学・高校の英語教育の現状と問題点、英語教師に求められるものは何かを考えてほしいと思います。

【講義計画】 講義では、教材論、教授理論、教育評価をテーマとして取り上げます。演習形式においては、たとえば5分の言語活動でも、工夫して作成するのに相当な時間とエネルギーが必要とされることが、創意・工夫の重要性を体験できるような教科教育法の授業を心掛けていきたいと思います。

【評価方法】 教案作成の課題、前期・後期レポート、出席を総合的に評価します。なお、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 未定。

【参考図書】 1回目の講義で発表します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09361	フランス語科教育法A	随	3	2	前期	M-A Morita
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Ce cours s'adresse à des étudiants qui s'intéressent à l'enseignement, en général, et à l'enseignement du français, en particulier.
Les textes retenus seront choisis dans des livres, des revues, des journaux, etc.
On fera éventuellement appel à la vidéo.

【評価方法】 La note de l'examen tiendra compte de l'assiduité et de la participation au cours.

【テキスト】 教室でコピーを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09362	フランス語科教育法B	随	3	2	後期	倉 田 信 子
他の科目 との関連					履 修 対象学科	重 複 履 修 不可

【講義内容】 初心者にフランス語を教えるための実践講義である。

【講義計画】 毎回一人50分ほどの模擬授業を行う。他の学生はそれを聴講し、授業後に感想を述べあう。

【評価方法】 毎回の模擬授業と定期試験（筆記）。

【テキスト】 テキストの選定は第一回目の講義で行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09365	ドイツ語科教育法A	随	3	2	前期	横 田 忍
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語初級文法・講読のテキストを使って模擬授業中心に進める。ドイツの教育制度や日本の教育問題などビデオを見たりディスカッションを行う。

【評価方法】 出席・レポートなど総合評価。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09366	ドイツ語科教育法B	随	3	2	後期	林 田 雄 二
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 外国語教育一般の問題を考えることから出発し、外国語の一つであるドイツ語をどのように教えるかということを考えて行きたい。ドイツ語の教職をとる人ばかりではなく、外国語について興味のある人の参加を望む。

【講義計画】 討論形式で行われる。

【テーマ】 200x年、ついに格安の夢の高性能、超小型通訳機が発売された。それは、我々が母国語で話す内容を、また相手が話す外国語を、SF映画で見るように、内容から、声、表現の特性に至るまで正確に通訳してくれる器械である。はたしてそのような時代に、義務教育としての外国語教育は必要か？これについての議論を出発点にして、外国語教育の問題、可能性、意義を考えて行きたい。また、日本のドイツ語教育、ドイツ教育の現状を説明し、将来のドイツ語教育の在り方についても考えたい。

【評価方法】 レポート。講義への積極的な参加姿勢を評価する。

【テキスト】 そのつど、プリントを配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09371 09372	イスパニア語科教育法A・B	随	3	各2	前期 後期	A. Cárdenas
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 DIDACTICA DEL ESPAÑOL COMO LENGUA EXTRANJERA A.B

【講義内容】 Estos dos cursos son una introducción al estudio de la didáctica de las lenguas extranjeras. Aunque las clases teórico-prácticas se enfocan a la enseñanza del español, el contenido y las experiencias obtenidas en estos cursos son aplicables a la enseñanza de otros idiomas extranjeros en Japón. Los temas a tratar son los siguientes:

1. El proceso de enseñanza y aprendizaje de un idioma extranjero
2. Análisis crítico de los principales enfoques y métodos
3. La enseñanza del vocabulario
4. La enseñanza de la gramática
5. La enseñanza de la pronunciación
6. La enseñanza de las funciones comunicativas
7. La enseñanza de la comprensión y la expresión orales
8. La enseñanza de la comprensión y la expresión escrita
9. La integración de las diferentes habilidades lingüísticas
10. La programación y planificación de clases
11. La corrección
12. El uso de los materiales audiovisuales
13. Análisis y elaboración de materiales
14. La evaluación

【評価方法】 La evaluación final se basa en la asistencia y participación activa en las clases y en la realización de tareas y proyectos a lo largo del curso.

【テキスト】 ¿Cómo ser profesor y querer seguir siéndolo?
Encina Alonso, Editorial EDELSA

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09375	国語科教育法A	随	3	2	前期	武山隆昭
他の科目との関連	国語科教育法Bの履修前提科目			履修対象学科	重複履修	不可

【副 題】 国語科教育法概論

【講義内容】 国語科教育の基盤から説き起こし、国語科教育の歴史、現行および新学習指導要領の解説をした後、単元学習の組織、学習指導法、評価の理論及び方法、教材論について講じ、学習指導案の書き方をマスターさせる。

【講義計画】 序章 国語科教育の基盤……国語科教育とは、制度上の基盤、言語観、目標、特質について講じる。
第一章 国語科教育の史的展望……明治以後の国語科教育の歴史を、国定教科書、戦後の指導要領改訂の歴史等を取り上げ解説する。
第二章 現行学習指導要領について……平成元年告示の小・中・高学習指導要領について、改訂のねらい・特徴、構成などを講ずる。新指導要領についても解説する。
第三章 単元学習…指導計画策定の根幹理論である単元学習の組織等について詳述する。
第四章 学習指導法…学習者の構成形態、学習指導の方法、板書の仕方、ノート指導の方法等について具体的に講述する。
第五章 国語科における評価……評価の目的・時期・方法等について講じる。
第六章 学習指導案の書き方……指導案作成の意義、種類、形式について講じた後、実際に一つの教材を取り上げ指導案を書かせる。
第七章 国語科の教材……望ましい教材、教科書の位置付け、教科書検定の実態（教科書制度の問題点）について論ずる。

【評価方法】 学習指導案を作成し、レポートとして提出する。レポートと出席点とで評価する。

【テキスト】 私家版を使用（最初の時間に実費販売）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09376	国語科教育法B	随	3	2	後期	武山隆昭
他の科目との関連	国語科教育法Aの履修を前提とする。			履修対象学科	重複履修	不可

【副 題】 国語科教育法各論

【講義内容】 前期の概論を踏まえて、学習指導要領に示されている、「A 表現」・「B 理解」・「言語事項」の各領域について、具体的に教材を取り上げながら指導方法を述べ、教育工学等新しい指導理論にも触れる。

【講義計画】 第八章 「A 表現＝話すこと」の指導
 第九章 「A 表現＝書くこと」の指導－作文指導を中心に－
 第十章 「B 理解＝読むこと」の指導（１）総論〔含：読むことの代表的指導理論紹介〕
 第十一章 「B 理解＝読むこと」の指導（２）説明的文章の読解指導
 第十二章 「B 理解＝読むこと」の指導（３）文学的文章の鑑賞指導〔小説・詩短歌俳句・古文・漢文〕
 第十三章 〔言語事項〕の指導〔文法・語彙・音韻・文字・方言〕
 第十四章 教育工学と国語科教育〔含：視聴覚教育、プログラム学習〕
 ＊模擬授業……教育実習の事前指導として１～２名に実施してもらう。

【評価方法】 前期・後期両方の講義内容を範囲とし、筆記テストを実施する。出席重視。模擬授業をした人には良い点をあげる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09381 09382	宗教科教育法 A・B	随	3	各2	前期 後期	西 経 一
他の科目 との関連	AとBは同一年度に履修すること。			履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【副 題】 教育現場における宗教教育の実践

【講義内容】 中学生、高校生を対象とする、聖書を用いた宗教教育の具体的実践例をもとに、宗教教育について考える。

【講義計画】 １．信仰者としての宗教教育担当者の教育姿勢
 ２．宗教教育の観点から見た中学生・高校生
 ３．正典としての聖書と教材としての聖書
 ４．聖書を教材とした教育実践例の紹介
 ５．聖書を教材とした授業教案作成の方法
 ６．聖書以外の教材および宗教行事への取り組み

【評価方法】 レポートおよび発表による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09386	社会科教育法	随	3	2	集中	加藤 瑛二
他の科目 との関連				履 修 対象学科	重 複 履 修	不可

【副 題】 社会科教育の発達

【講義内容】 社会科を指導するためには社会科の特質について理解しなければならない。日本の社会科の変遷と本質に迫る必要がある。社会科をどのように教えるかも同時に考察の対象となる。教材資料の扱い方や授業の構造分析も教師に課せられた重要な課題である。現場の授業を念頭におき社会科全般にわたる基礎的学習の把握を目標とし、その理論的分野について学習する。

【講義計画】 本講義は社会科教師にとって必須の内容を含むが、限られた時間内で全領域をカバーすることは困難であり、以下のような項目を中心にして学習を展開する。
 ①社会科とはなにか
 ②社会科の発達過程
 ③USAの社会科
 ④ヨーロッパの近代の社会観
 ⑤学習指導要領の変遷
 ⑥各分野別の学習指導
 ⑦社会科の資料・教材

- ⑧学習指導案
⑨社会科の授業等について学習するものとする

【評価方法】 試験・平常の活動等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 中学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09391	地理歴史科教育法	随	3	2	前期	加藤 瑛二
他の科目との関連	社会科教育法			履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 地理歴史授業の実践

【講義内容】 高校教育における地理・日本史・世界史分野の全域を網羅するためには、きわめて多くの知識の蓄積が要求される。本講義は地理歴史の授業に参加するための実践的課題を探究することを意図し、学生諸君自らが積極的に行動することを期待する。各教科毎に模擬授業を展開しながら質疑・応答・講評等を組み合わせることで講義を進めてゆく。目標は地理歴史の授業研究の確立である。

【講義計画】 ①地理歴史科教育の内容、学習指導要領における指導上の留意点について学習する。

- ②地理の授業研究
③日本史の授業研究
④世界史の授業研究

授業研究は模擬授業の形式で学習していく。学生諸君は各教科より任意の項目を選定して授業用の発表資料を作成すること。また、学生指導案を作成して提出することを義務づけておく。

【評価方法】 発表・応答・学習指導案・平常の活動・レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】 高等学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09395	公民科教育法	随	3	2	後期	加藤 瑛二
他の科目との関連	社会科教育法			履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 公民科の授業の実践

【講義内容】 高校教育における公民科は倫理・政治経済・現代社会を含んでおり、広範囲な知識を要求される。本講義は公民科の授業に参加するための実践的な課題を追及する。各教科毎に模擬授業を展開しながら、質疑・応答・講評等を組み合わせることで講義を進めていく。目標とするところは公民科の授業研究の確立であり、現場教育に近接するための授業研究を目指す。

【講義計画】 ①高校公民科教育の内容、学習指導要領における指導上の留意点について学習する。

- ②現代社会の授業研究
③倫理の授業研究
④政治経済の授業研究

授業研究は模擬授業の形式で学習していく。学生諸君は各教科より任意の項目を選択して授業用の発表資料を作成すること。また、学習指導案を作成し、提出することを義務づけておく。

【評価方法】 学習指導案・発表・応答・平常の活動・レポートの提出等、総合的に判断して評価する。

【テキスト】 高等学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09401 09402	商業科教育法A・B	随	3	各2	集中	大倉 芳雄
他の科目 との関連				履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 この科目は、教育職員免許法により高等学校教諭の普通免許状を取得するための教職に関する専門科目で以下のような教科指導の基本を学習する。

1. 新学習指導要領と商業教育
 - (1) 商業教育の歴史
 - (2) 新学習指導要領の性格及び構成
 - (3) 商業の目標・組織・学科
2. 各科目の内容とねらい
商業経済科目群、簿記会計科目群、情報処理科目群、総合学習科目群
3. 教育課程の編成
4. 指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画、学習指導案の作成
5. 学習指導と評価
 - (1) 学習指導の一般原則
 - (2) 学習指導の形態と方法
 - (3) 商業教科の評価
6. 商業高校における進路指導
7. 資格取得指導の現状と課題
8. 商業教育の将来について

【講義計画】 教科指導の技術だけでなく、実務としての担任業務や部活動指導等商業科教員として望ましいキャリアの形成に役立つ内容にしたい。また、商業教育の当面する課題や将来展望についても触れ、幅広く商業教育を理解できるよう指導したい。

【評価方法】 学習指導案の作成、課題レポートの提出等により総合的に評価する。欠席時数が授業予定総時数の3分の1を超えるとき、履修成績評価は「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 雲英道夫著『商業科教育法』（多賀出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09405 09406	数学科教育法A・B	随	3	各2	前期 夏期集中	春藤 修二 浜島 清治
他の科目 との関連	全学共通科目「数学B」を履修していることが望ましい。			履 修 対象学科	情 報 管 理	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前期の「教育法A」では専任教員により、数学という教科に関する基本的な考え方、数学教育の歴史等について講義する。

夏期集中の「教育法B」では高校の数学教育に実際に携わる教員により、実践指導を含めた教科内容についての授業を行なう。

【評価方法】 レポートを提出してもらう予定。

【テキスト】 特になし。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09501 09506	博物館学Ⅰ・Ⅱ	随	1～3	各2	前期 後期	早川 正一
他の科目 との関連	博物館学Ⅲ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論			履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【講義内容】 大学において学芸員の資格の取得を目指す者は、文部省令で定められた「博物館に関する科目」を修得し、卒業を条件とする（博物館法第5条）。そのうち、博物館学は基幹となる必修科目の一つであり（施行規則第1条）、履修計画の初期に受講する事がのぞましい。

この講義は、博物館に類する諸施設の現代的意義を根本から把握し、理解させるために先進的な欧米の博物館事業に関する実態を検討する事からはじめ、それらの影響下に独自の発展をしてきた日本の博物館と、昨今の我国における多様な博物館活動や博覧会の開催にも言及して、博物館の機能の基礎概要を培いたい。

【講義計画】 博物館は現代の生涯学習や社会教育に関連して、まさに日進月歩の状況にあり、講義の焦点も年ごとに異なるが、主な計画事項は下記の通りである。新設された「博物館学Ⅲ」の講義が各論の内容となるので、「博物館学Ⅰ・Ⅱ」は次の5項目を総論として幅広く講述する。

- (Ⅰ) 博物館学を受講するためのイントロダクション
- (Ⅱ) 博物館の出現と発展の足跡、そしてその世界的意義
- (Ⅲ) 博物館と博覧会との関係および現代的課題
- (Ⅳ) 博物館の役割と運営、研究と普及への活動の問題
- (Ⅴ) 博物館資料に関する展示、保存、収集の基本と文化財保護の側面

【評価方法】 資格にかかわる講義であるから、試験を厳格に実施する。早朝からの講義であるが、担当者にとって遅刻は実に迷惑する。出欠席の状況とともに成績に反映させるので注意されたい。履修規程第16条を厳守し、毎回、出欠席を点検する。欠席過多者は期末試験を受けさせない。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09508	博物館学Ⅲ	随	1～3	2	後期	小池 富雄
他の科目 との関連	博物館学Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論			履 修 対象学科		重 複 履 修 不可

【副 題】 実践的立場からの人文系博物館の資料論及び経営論

【講義内容】 博物館学Ⅰ及び同Ⅱを受けて、博物館資料の活用や博物館経営の実際と理論を国内外の人文系博物館や古美術館の実例に即して述べる。

近年10年間で日本の博物館の総数は倍増したが、展示内容や活動に問題を抱える館は多い。建物は出来たが内容的魅力に乏しい、との批判も多い。問題の発生原因は、単に博物館側にのみあるのではなく、高度余暇社会に移行しつつある日本社会の構造にある。有効対策の一つとして博物館の中で活躍する人材、つまり優れた学芸員の育成が社会の要請となってきている。博物館の現場で働く者として受講の諸君と共に博物館と学芸員の活動の将来を考えたい。

- 【講義計画】
1. 博物館資料の収集 A寄贈B寄託C購入の実際
 2. 博物館資料の保管と整理 分類と台帳カタログ作成
 3. 博物館資料の保管と整理 排架と保存
 4. 博物館資料の保存と修復 絵画・書籍及び複製製作
 5. 博物館資料の保存と修復 工芸品（陶磁器・染織等）
 6. 博物館資料の展示と立案 照明・空調等解説ラベル
 7. 博物館資料の輸送と梱包 借用、貸与の心構えまで
 8. 博物館資料の調査研究 意義・方法・目的
 9. 博物館経営の行財政制度
 10. 博物館経営の組織設備論 海外や国内公私立の例
 11. 博物館経営の教育普及と広報活動 意義と目的
 12. 博物館経営の友の会とボランティア活動 意義・事例

【評価方法】 各自の実地見学によるレポート。テーマ及び論じるべきポイントについては講義の中で指定する。なお、

不必要な欠席を慎むのは、学芸員資格をめざす者として当然である。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09511 09512	博物館実習 (a) ・ (b)	随	2～4	各3	通年	重松 和男
他の科目 との関連	博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論	履 修 対象学科		重 複 履 修	不可	

【講義内容】 人類学博物館（G棟地下）で行う。資料整理・目録の作成・展示改善・写真・解説パネル作成などの作業を進めながら、博物館学芸員としての、仕事の内容に理解を深める。実習であって、講義ではないので積極的かつまじめに取組むことが必要である。受講態度に問題がある場合は、中途であっても放棄させることもある。

実習に伴い博物館見学旅行（1泊2日程度、交通費、宿泊費など各自負担）を実施し、義務づけている。各クラスとも40人を越えた場合には、受け入れられない可能性があるの下記に注意して欲しい。登録時の人数によっては変更を認めること或いは変更を指示することがある。

【講義計画】 (a) 木曜3、4限 4年次生を優先。 2・3年次生も可。
(b) 木曜5、6限 3年次生を優先する。4年次生不可。2年次生可。

【評価方法】 平常点。出席は極めて重視。（欠席、遅刻は規定通りであるが、3回以上欠席し、かつ指示に従ってその埋め合わせを行わないときは、Fをつける。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09516	生涯学習論	随	1～4	2	前期	高橋 英次
他の科目 との関連	博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論	履 修 対象学科		全 (除く教育学科)	重 複 履 修	不可

【副 題】 生涯学習施設としての博物館

【講義内容】 博物館は図書館などとならんで社会教育－生涯教育の典型的な施設であるが、近年は従来の枠を大きく踏み越え、資料の収集保存や調査研究といった博物館の基本機能にくわえて、市民参加性、観光化、アミューズメント性への傾斜などの多様化・娯楽化の傾向が著しい。映像や電子テクノロジーの導入によって総合的な情報伝達機能を充実させ、能動的活動を展開するなど社会的役割を変貌させつつある。

【講義計画】 特異な対象テーマや領域など、かつてないひろがりを見せている「博物館」の現況を展望し、空間メディアによる主題表現の方法、学習や娯楽への利用の様態、情報サービスや人的ネットワークの拡大など社会教育にはたす役割について、各地事例の映像記録を中心に検討する。あわせて博覧会やエキシビジョンなどは先端的展示技術の開発機会であり、文化史的エポックを画するメモリアルでもある文化イベントの意義について考察する。なお、学外授業を実施する予定である。

【評価方法】 事例紹介と、空間メディアの活用によるテーマ表現の方法、情報伝達の技術についての学習をふまえ、自身で博物館施設、エキシビジョンなどを調査取材し、簡潔にデータシートにまとめる作業を通じて、社会教育施設のありかたやその活動についてどのように理解し、あるいは提案の意見を提示できるかを評価する。なお、出欠席の状況も評価に加えるので、注意すること。

【テキスト】 広瀬鎮編『比較文化研究の世界』（学術図書出版社）予価¥2,060

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
09521	視聴覚教育メディア論	随	1～4	2	集中	高桑 康雄
他の科目 との関連	博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博物館実習、教育原論A、生涯学習論	履 修 対象学科		重 複 履 修	不可	

- 【講義内容】 現代における生涯学習の重要性に視点を向け、現代社会の一特徴である視聴覚メディアの意義を考えるとともに、それが生涯学習のための一手段として、どのように活用されるべきかを論ずる。
したがって、昨今の発達した視聴覚メディアは博物館や美術館における展示のあり方や普及の諸活動と密接に関連をもつわけであり、その基本だけでなく応用の面も講述して理解を促す。
- 【講義計画】 集中講義の大部分は、適切なビデオテープの映写、OHP装置の操作などを併用して講義をすすめる。それに加えて、講義の理解と応用を深めるため、放送局、視聴覚ライブラリー、関連する博物館などを訪問して学外授業とする。なお、学外授業の予定は上記の大学での講義中に発表し、当日の交通費、昼食費、入館料は各自の負担とする。
- 【評価方法】 大学内での講義および学外授業の出欠席の状況の評価し、レポートを提出させる。レポートのテーマは講義の際に与える。
- 【テキスト】 未定